漢字から文章へ

第六冊

全十八回　三百六十字

時　辞　雨　芸

漢字の意味と熟語を確かめ、
短文や文章の中で使いながら学びます。

和会塾

読み、書き、考えるための漢字教材

この本の使い方

各回で中心となる八字と、いっしょに覚える十二字を扱います。前の冊で出会った字も含みます。一字の意味を手がかりに、熟語、短文、長文へと進みます。表を見ながら解いてもかまいません。

一・二　扉と漢字表

まず、気になる漢字を探してみましょう。次の表で、読み、意味、熟語を確かめます。表の読みは主なものです。一字の意味を足すだけで決めず、熟語全体の意味も確かめてください。

三・四　漢字の働きと熟語

漢字が熟語の中でどう働くかを考え、文に合う語を選びます。大問四では、□の数が答える語の文字数を示しています。送り仮名のある語は、それも含めて解答欄に書きます。

五　使い分けと自分の一文

似た語が、この文では何を表しているかを考えます。意味が重なる場合もあります。自分で書く問題は、経験したことでも、想像した場面でもかまいません。

六　短文で使う練習

文の中で漢字を書き、熟語を読みます。間違えた字だけでなく、なぜその語を使うのかも確かめ、必要なら表へ戻って読み直しましょう。

七　文章を読んで考える

物語や記録を読み、言葉の意味、人物の変化、事実と推測の違いなどを考えます。記述では、本文の具体的な手がかりを理由や判断に結びつけて書いてください。

答えを確かめる

解答と解説は各回の最後にあります。記述の解答例と別解例は、考え方を確かめるためのものです。同じ言い方でなくても、指定語と字数を守り、問われた内容を根拠と結んで書けていればよいものです。

記述のマス　句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

本書の物語・資料・記録・数値は、学習のために作成したものです。

目次 第一回から第九回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第一回	細かな数と時を扱う	八日目の箱	5	10	12
第二回	隔たりと地勢	岬へ行かない近道	14	19	21
第三回	親疎と序列	画伯と令嬢の手紙	23	28	30
第四回	病理と身体感覚	犬の絵の吹き出し	32	37	39
第五回	繊細な感情と欲望	出さなかった応募用紙	41	46	48
第六回	言外の意味と応酬	どうぞの先の一行	50	55	57
第七回	概念と論証	竜がいない写真	59	64	66
第八回	作用・制御・逸脱	北の塔から戻った手紙	68	73	75
第九回	微細な変容を捉える	一夜で消えた池	77	82	84

目次 第十回から第十八回

扉・長文・解答解説の開始ページです。関心のある回から始めてもかまいません。

回	テーマ	読む文章	扉	長文	解説
第十回	社会の陰影と秩序	名札の外の二つの席	86	91	93
第十一回	刑・権威・統制	赦免のあとに残った手紙	95	100	102
第十二回	財・利害・分配	四十枚の銀貨の行方	104	109	111
第十三回	複雑な自然現象	海に沈んだ道の絵	113	118	120
第十四回	生殖・生育・生態	蛍のいない頁	122	127	129
第十五回	材質と精密な作り	銀の鳥の青い糸	131	136	138
第十六回	味覚・装束・住まい	三人目の膳を置く場所	140	145	147
第十七回	精密技術と構造	模型の町の小さな鐘	149	154	156
第十八回	典礼・思想・象徴	仙人が待つもの	158	163	165

漢字から文章へ 第六冊

第一回

細かな数と時を扱う

「八日目の宵に開ける」と書かれた箱。
一週間後では、まだ早いのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

時	半	次	期
時間 ある時点	二つに等しく分ける	続く 順番	定めた時 区切り

倍	曜	順	丈
同じ量のいくつ分	一週間の日の名	ならび 筋道	長さの単位 たけ

いっしょに覚える漢字

八	後	七	予	等	甲
乙	斗	曽	宵	箇	騎

この回で読むお話

八日目の箱

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
時	ジ とき	時間／ある時点 時刻・時間・時代	倍	バイ	同じ数を重ねた量 倍率・倍増・二倍
半	ハン なかば	二つに等しく分けた一方 半分・半期・前半・半日	曜	ヨウ	七日を区切る日の名 曜日・七曜・日曜
次	ジ シ つぐ つぎ	あとに続く／順番 次回・次第・順次	順	ジュン	ならび／筋道 順序・順番・手順
期	キ ゴ	定めた時／一区切り 期日・期間・期限	丈	ジョウ たけ	長さの単位／高さや長さ 一丈・身丈・丈六

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
八	ハチ や やつ やっつ よう	数の八 八日・八人・八方	乙	オツ きのと	十干の第二／区分や順序 乙種・甲乙・乙夜
後	ゴ コウ のち うしろ あと おくれる	時間や位置があと 後半・以後・後日	斗	ト	ひしゃく／昔の容量単位 一斗・北斗・斗升
七	シチ なな ななつ なの	数の七 七曜・七日・七人	曽	ソウ ソ	世代を隔てる／以前 曽祖父・曽祖母・未曽有
予	ヨ あらかじめ	前もって 予定・予告・予測	宵	ショウ よい	日が暮れて間もないころ 宵・今宵・宵宮
等	トウ ひとしい	同じ／段階／複数を受ける 等級・平等・一等	箇	カ	物や場所を数える 箇所・数箇所・箇条
甲	コウ カン	十干の第一／区分や順序 甲種・甲乙・甲板	騎	キ	馬などに乗る／乗った人を数える 騎馬・一騎・騎乗

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「時刻」が示すものを選びなさい。
ア　始めてからの時間の幅　　イ　時間の流れの中の一点
ウ　行ったことの回数　　エ　日付を並べた順番

(2) 一年を二つに等しく分けた「半期」に合うものを選びなさい。
ア　一年の前半と後半の一方　　イ　一月の八番目の日
ウ　次の一回の集まり　　エ　毎日の半分の時間

(3)「次回」に合うものを選びなさい。
ア　今年の後半全体　　イ　今日より後の全ての日
ウ　今の回のあとに続く回　　エ　前の回と同じ日付

(4) 長さを元の二倍にする「倍率」に合うものを選びなさい。
ア　元の長さへ二を足す　　イ　元の長さを二で割る
ウ　面積も同じ二倍になる　　エ　元の長さ二つ分にする

(5)「順序」を確かめる問いを選びなさい。
ア　箱は何色だったか。　　イ　どちらの出来事が先か。
ウ　幕はどれほど長いか。　　エ　米は何斗入ったか。

(6) 分類の「甲種」「乙種」について適切なものを選びなさい。
ア　甲種の方が必ずよい。　　イ　乙種には物を入れない。
ウ　各区分の内容を別に確かめる。　　エ　どの分類でも同じ内容になる。

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　八日　次回　予定　曜日　時刻　甲種　一丈
倍率　七曜　半期　等級　順番　期日　後半

文	解答	文	解答
(1) 集合する □□を確かめる。		(8) 古い幕の長さを □□と記す。	
(2) 一年を二つに分けた □□の記録を読む。		(9) 月の□□に 開く店だ。	
(3) 続きは □□に話す。		(10) 試合の □□が始まる。	
(4) 提出する □□を決める。		(11) 日月と五惑星を □□という。	
(5) 元の長さへの □□を示す。		(12) 明日の □□を相談する。	
(6) 日付だけでなく □□も添える。		(13) 品質ごとの □□を表示する。	
(7) 出番の □□をくじで決めた。		(14) 甲と名づけた □□の箱を選ぶ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「八日」と「八日間」に合うものを選びなさい。

箱は六月八日に届き、八日間借りることになった。

ア　どちらも同じ日付だけを表す。
イ　前は時間の長さ、後ろは日付だ。
ウ　八日間なら必ず八日に返す。
エ　前は月の中の日、後ろは期間だ。

（2）この「時刻」と「時間」に合うものを選びなさい。

開始時刻は六時で、動かす時間は三十分だ。

ア　六時は一点、三十分は長さを表す。
イ　六時から三時まで動かす。
ウ　どちらも終了する日付を表す。
エ　三十分後も時刻は六時のままだ。

（3）この「甲」と「乙」の読み方に合うものを選びなさい。

甲の箱には布、乙の箱には金具をしまった。

ア　甲は新品、乙は中古と分かる。
イ　どちらを使うかは中身で考える。
ウ　甲の布は乙の金具より優れている。
エ　乙には甲の半分だけ物が入る。

（4）この「一丈」と「一斗」に合うものを選びなさい。

幕の長さは一丈、箱の容量は一斗と記した。

ア　どちらも同じ長さを測った。
イ　数字が一なので大きさも等しい。
ウ　長さと容量の単位を使い分けた。
エ　どちらも馬に乗る人の数だ。

（5）「予告」を使い、何を前もって知らせたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「順序」を使い、何の前後を確かめたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 人形を動かす練習に三十分の**ジカン**を使った。	
(2) 一枚の紙を**ハンブン**に折る。	
(3) 次の時期を表す**ジキ**という語を使う。	
(4) 祖父の父に当たる**ソウソフ**の写真を見る。	
(5) 元の長さを**ニバイ**にして線を引く。	
(6) 夜空の**ホクト**七星を図で確かめる。	
(7) 修理の**テジュン**を紙にまとめた。	
(8) 服の長さを表す**ミタケ**を測る。	
(9) 道が**ハッポウ**へ分かれる地図を描いた。	
(10) 今夜を表す**コヨイ**という語を読んだ。	
(11) 七月**ナノカ**の日付を記す。	
(12) 紙を同じ大きさに四つへ**トウブン**する。	
(13) 直す場所を三つの**カショ**に分けて記す。	
(14) 二つの作品は、優劣の**コウオツ**をつけにくい。	
(15) 馬に乗った武者を表す**キバ**の人形を見る。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 時差	(17) 半日	(18) 以後	(19) 騎手	(20) 一斗

この回を終えたら もう一度確かめる

日付を数えるとき、最初の日は含めていますか。
同じ数字でも、何をどこから数えたかを確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

八日目の箱

木の馬には、片方の耳がなかった。日曜日、祖父の家で見つけた人形だ。隣の箱には「今日を一日目として、八日目の宵に開ける」とある。私は次の月曜を予定表で囲んだ。祖父は、曜日を書いた紙を一枚ずつ机へ並べた。

「この日曜も、数に入れるんだね。」

最初の日曜が一日目なら、七日後の次の日曜が八日目だ。八日間が過ぎてから開ける指示ではなかった。二つの日付を指でたどり、私は月曜の丸を消した。約束の期日を直すと、祖父は紙を重ねず、そのまま馬の前へ残した。

約束の日を数える

日曜日	月曜日	火曜日	土曜日	次の日曜日
一日目	二日目	三日目	七日目	八日目

箱は甲と乙に分かれていた。等級の違いかと思ったが、甲は布、乙は金具の区分だ。古い説明には一丈の幕、一斗入りの箱、一騎の武者とある。同じ一でも、長さ、入る量、数えるものが違う。金具を動かすと、底の布に丸い跡が見えた。

作ったのは曽祖父だった。七曜の絵がある舞台で、馬と武者を動かしたらしい。説明の後半には、紙型を二倍にする箇所もある。私が大きな耳を描くと、祖父は元の馬と並べた。今回はこの馬を直すのだ。倍率を知っても、何を何倍にするかは別に読む。

次の日曜日、夕方六時。箱を開けると、耳の型と、半分に折られた短い手紙があった。「次は、自分の好きな場所を走らせてやってくれ」。修理の順序は細かく記されているのに、走る先は書かれていない。私は型の裏まで返した。

正解の景色は、どこにあるのだろう。

祖父も答えは知らないと言った。子どものころは海の上を走らせたそうだ。三十分のつもりで聞き始めた話は、一時間に延びる。祖父の手が波を作る間、私は馬を持って待った。箱を開ける時刻と、馬の物語が終わる時は同じではなかった。

帰りに、次回は森を持ってくると予告した。どんな森かはまだ決めていない。予定表の端に、小さな耳を二つ描く。片方は祖父の話を聞くための耳だった。祖父は紙をのぞき、森の中にも海はあるかな、と尋ねた。

人物・箱・手紙・人形の出来事は創作です。工作の手順を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

数え始めの日と、箱の説明にある条件を確かめて答えなさい。

（1）本文から、箱に入っていた短い書き付けを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）壊れた所を直す「シュウリ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）約束の八日目に合うものを選びなさい。

ア　最初の日曜から八日後の月曜。
イ　最初の日曜から七日後の日曜。
ウ　最初の日曜の次の日の月曜。
エ　最初の日曜を数えない七日目の土曜。

（4）甲と乙について本文から分かることを選びなさい。

ア　甲の部品の方が品質が高い。
イ　乙は甲と同じ布を半分だけ入れる。
ウ　甲は布、乙は金具を入れる区分だ。
エ　甲は曽祖父、乙は祖父の作品だけだ。

（5）「私」が八日後の月曜ではなく次の日曜に来た理由を、
最初の日の数え方と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）箱を開けてからの出来事を、「手紙」「物語」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
説明に書いてあったことと、書いていなかったことを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第一回　細かな数と時を扱う

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　何時何分などの一点。そこまでにかかった時間とは分けて読む。
（2）ア　ここでは一年の半分。半期が何の期間の半分かも確かめる。
（3）ウ　繰り返す出来事の次の一回。次期は次の時期や期間を指す。
（4）エ　何を基準に何倍かを読む。長さと面積の倍率は同じとは限らない。
（5）イ　出来事や物の前後の並びに関わる語。数や長さだけを問う語ではない。
（6）ウ　甲・乙は区分にも使う。名前だけでは品質の上下や中身は決まらない。

四　熟語を広げよう

（1）時刻　（2）半期　（3）次回　（4）期日　（5）倍率
（6）曜日　（7）順番　（8）一丈　（9）八日　（10）後半
（11）七曜　（12）予定　（13）等級　（14）甲種
（7）順番は、出番などの前後の並び。（8）一丈は長さの単位。甲種・乙種は区分の名で、中身や品質は別に確かめる。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　八日は日付にも日数にも使う。この文では六月という語が日付を示す。
（2）ア　いつ始めるかと、どれだけ動かすかは別の情報である。
（3）イ　この文では保管の区分。品質や数量の差は示されていない。
（4）ウ　測る量そのものが違う。単位の古さだけで同じ欄へまとめない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

店主は来週から営業時間を変えると予告し、入口にも新しい時刻を掲げた。
☆自分で確かめる点　知らせた内容と、それが先の予定であることが分かるか。

（6）解答例

写真を撮った順序をノートで確かめ、帰り道の一枚を最後へ移した。
☆自分で確かめる点　単に数えるのでなく、並びの前後を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）時間　（2）半分　（3）次期　（4）曽祖父　（5）二倍
（6）北斗　（7）手順　（8）身丈　（9）八方　（10）今宵
（11）七日　（12）等分　（13）箇所　（14）甲乙　（15）騎馬
（16）じさ　（17）はんにち・はんじつ　（18）いご　（19）きしゅ　（20）いっと
（3）次期は次の時期。（4）曽祖父は祖父母の父。（8）は身丈。（10）今宵は今夜。（12）等分は同じ大きさなどに分けること。（13）は箇所、（15）は騎馬。（17）半日は「はんにち」「はんじつ」とも可。（20）一斗は容量の単位。

七　文章の中で考えよう

（1）手紙　箱に入っていた短い書き付け。馬を走らせる場所は、自分で選んでよいと伝えている。
（2）修理　壊れた所を直すこと。本文では、元の大きさの馬に合う耳を作ろうとしている。
（3）イ　最初の日曜を一日目に含めるので、七日後の日曜が八日目。
（4）ウ　この箱は中身による区分で、品質の高低を示していない。

七　記述問題の考え方

（5）　約束の日を直した理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

最初の日曜日も一日目に含めて数える指示なので、八日間が過ぎた月曜でなく、七日後の日曜が八日目になるから。

（5）別解例　50 字

箱の指示は今日を一日目とするため、最初の日曜から七日後の次の日曜が八日目となり、八日後ではないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 最初の日曜を一日目に含めたか。
② 七日後の日曜が八日目となることを結んだか。
③ 八日目と八日後を同じ意味にしていないか。

日数だけでなく、数え始めの日を条件として読む。

（6）　箱を開けてからの紹介 70〜90 字

（6）解答例　86 字

箱には耳の型と手紙があり、修理の順序は細かく書かれていましたが、走らせる場所は決まっていませんでした。私は祖父の海の話を聞き、次は森を持ってきて馬の物語を続けようとします。

（6）別解例　80 字

手紙は好きな場所を馬に走らせるよう伝え、景色の正解は示していません。修理の説明を読んだ私は祖父の物語も聞き、まだ姿の決まらない森を次回持ってくると予告しました。

☆（6）自分で確かめる点

①「手紙」「物語」を使ったか。
② 修理の順序と、自由な走る場所を分けたか。
③ 森の姿や唯一の正解が決まったとはしていないか。

祖父が話したことと、私がこれから作ろうとすることを分けて紹介する。

漢字から文章へ 第六冊

第二回

隔たりと地勢

岬へ行く道は、短い道と長い道の二つ。
祖母が選んだのは、長いほうでした。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

右	谷	州	岡
右の側	山の間の低い所	中州 行政区	小高い土地

湾	岬	崖	麓
海が入り込む所	水面へ突き出す陸地	切り立った斜面	山のふもと

いっしょに覚える漢字

左	柱	底	帯	沢	江
邦	勾	距	偏	隙	頓

この回で読むお話

岬へ行かない近道

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
右	ウ ユウ みぎ	右の側／右岸は下流向きの右 右岸・右側・左右	湾	ワン	海が陸地へ入り込んだ所 湾口・湾岸・港湾
谷	コク たに	山の間の低い所 峡谷・谷底・渓谷	岬	みさき	海や湖へ突き出す陸地 岬・岬角・岬端
州	シュウ す	川などの中の陸地／行政区 中州・州都・九州	崖	ガイ がけ	切り立った斜面 断崖・崖下・懸崖
岡	コウ おか	小高い土地 岡・岡山・岡辺	麓	ロク ふもと	山の下の部分 山麓・麓・北麓

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
左	サ ひだり	左の側／左岸は下流向きの左 左岸・左側・左右	邦	ホウ	国／地域 邦域・本邦・異邦
柱	チュウ はしら	支える縦材／中心 標柱・支柱・石柱	勾	コウ	曲がる／傾き 勾配・勾玉・急勾配
底	テイ そこ	いちばん下 谷底・海底・底部	距	キョ	へだたり 距離・遠距離・測距
帯	タイ おび おびる	細長く続く範囲 沿岸帯・地帯・帯状	偏	ヘン かたよる	一方へ寄る 偏在・偏り・偏向
沢	タク さわ	水のある低地／潤い 沢地・沼沢・山沢	隙	ゲキ すき	物の間／すき 間隙・隙間・空隙
江	コウ え	川／陸へ入り込む水面 入り江・江河・入江	頓	トン	急に／とどまる 頓挫・整頓・頓着

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「右岸」を決める基準を選びなさい。
ア　地図の上を向く。　　イ　山を背中にする。
ウ　川の下流を向く。　　エ　太陽のある方を見る。

(2)「中州」に合うものを選びなさい。
ア　川の流れの中にある陸地　　イ　山の頂上近くの平地
ウ　海へ突き出した陸地　　エ　湾が外海へ開く入口

(3)「山麓」が指す所を選びなさい。
ア　山の最も高い所　　イ　山の下部に広がる所
ウ　山の向こうの海底　　エ　全ての川の流れの中

(4)「勾配」に着目する問いを選びなさい。
ア　道は何キロあるか。　　イ　川の左右はどちらか。
ウ　谷の名前は何か。　　エ　坂はどれほど傾くか。

(5)「偏在」に合うものを選びなさい。
ア　どこにも存在しない。　　イ　全ての場所に同じ数ある。
ウ　特定の所へ偏って存在する。　　エ　一度存在した物が消える。

(6) 計画の「頓挫」に合うものを選びなさい。
ア　行き詰まり、途中で止まる。　　イ　予定より早く完成する。
ウ　必ず永久に禁止される。　　エ　最初から計画がない。

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　左岸　中州　沿岸帯　岬　右岸　入り江　山麓
湾口　谷底　峡谷　沢地　断崖　岡　標柱

文	解答	文	解答
(1) 下流向きの右側の □□に立つ。		(8) 山のふもとの □□に宿がある。	
(2) 深い谷である □□の絵を見る。		(9) 下流向きの左側の □□へ渡る。	
(3) 川の中の陸地である □□を描く。		(10) 目印になる □□を地図に記す。	
(4) 小高い □の上に家がある。		(11) 谷の低い所の □□を川が流れる。	
(5) 湾の入口の □□を船が通る。		(12) 海岸に沿った □□□を調べる。	
(6) 水面へ突き出す □に灯台がある。		(13) 水の多い □□の植物を描く。	
(7) 切り立った □□を遠くから見る。		(14) 陸へ入り込んだ □□□に舟が浮かぶ。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「右岸」と「左岸」に合うものを選びなさい。

川の下流を向いて右岸を確かめたあと、反対向きに振り返った。

ア　右岸と左岸の名前が入れ替わる。
イ　自分の右手側がいつも右岸になる。
ウ　地図の右端にある岸だけが右岸だ。
エ　振り返っても、右岸の名前は変わらない。

（2）この「距離」と「勾配」に合うものを選びなさい。

甲の道は短いが急で、乙の道は長いがなだらかだった。

ア　甲は距離も勾配も必ず小さい。
イ　長さと傾きは別の情報になっている。
ウ　長い道は必ず急になる。
エ　短い道なら移動時間も必ず短い。

（3）この「湾」と「入り江」に合うものを選びなさい。

案内には「青葉湾」とあり、古い手紙では同じ水面を「入り江」と呼んでいた。

ア　一方が必ず間違いだと分かる。
イ　入り江は川にしか使えない。
ウ　意味の重なりや実際の呼び方を確かめる。
エ　湾には水がなく、入り江には水がある。

（4）この「間隙」と「頓挫」に合うものを選びなさい。

部品の間隙を見つけたが、部品が足りず修理の計画は頓挫した。

ア　前はすき間、後ろは計画の行き詰まりだ。
イ　どちらも部品が完成したことを表す。
ウ　前は計画、後ろはすき間の大きさだ。
エ　すき間を見つければ修理は必ず終わる。

（5）「距離」を使い、何と何の隔たりかが分かる文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「偏る」を使い、何がどちらへ寄ったかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 紙の**ミギガワ**に地図を描く。	
(2) 二つの山の**タニマ**に家が見えた。	
(3) 日本地図で**キュウシュウ**を探す。	
(4) 板と板のすき間を表す**カンゲキ**という語を読む。	
(5) 外海と**ワンナイ**の位置を地図で比べる。	
(6) 日本を指す**ホンポウ**という語を資料で読む。	
(7) 写真に写った**ガケシタ**の家を見る。	
(8) 暖かな**チタイ**に育つ植物を調べる。	
(9) 入口の**ヒダリガワ**に案内板がある。	
(10) 苗を支える**シチュウ**を立てる。	
(11) 絵に描かれた**カイテイ**の岩を見る。	
(12) 箱には**タクサン**の写真が入っていた。	
(13) 歴史の本で、町の名前の「**エド**」を読む。	
(14) 一部の場所へ偏ってあることを**ヘンザイ**という。	
(15) 小さな傷には**トンチャク**しないと話した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 岡山	(17) 沿岸	(18) 邦人	(19) 偏向	(20) 崖崩れ

この回を終えたら もう一度確かめる

地図を見る人の右と、川の右岸は同じでしょうか。
近さを考えるときも、長さ以外の条件を確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

岬へ行かない近道

地図に引いた近道を、祖母の指が通り過ぎた。旅の最後の日だ。岬の灯台を見たいと言うので、私は宿からの距離がいちばん短い甲の道を選んだ。祖母は、ぐるりと湾を回る乙をたどっている。近道を見落としたのだと思った。

宿は山麓にあり、川は峡谷の谷底から海へ流れる。下流を向くと宿が右岸、対岸の標柱が左岸だ。私は地図を逆さに持ち、岸の名前まで逆にしかけた。祖母は川の流れを尋ねる。紙を回しても、流れる向きは変わらない。

案内では甲は二キロで急な坂、乙は三キロでなだらかとある。甲は岡を越え、断崖の近くへ出る。勾配は、地図の線の長さからは読み取れない。私は歩く時間も確かめず、短いという理由だけで甲を選んでいた。

宿から岬への二つの道

道	距離	案内にある特徴
甲	二キロ	岡を越える急な坂
乙	三キロ	湾を回るなだらかな道

「坂だけじゃないの。ここに、青い舟があったのよ。」

祖母が指したのは、湾口より内側の小さな入り江だった。初めて見た時は異邦の風景かと思ったという。灯台の話なら聞いていたのに、この舟のことは知らなかった。祖母は地図を畳まず、舟のあった所へ小さな丸を付けた。

乙を歩くと、沢地や柱の傾いた小屋が見えた。海沿いの細い帯に家が偏って並び、川の中州には鳥がいる。昔の水路を戻す計画は土砂で頓挫したと、宿の人に聞いた。祖母は板の間隙から中をのぞかず、外から屋根を眺めた。足元の草に、網の切れ端が掛かっていた。

入り江に青い舟はなかった。海底が透ける浅い所にも、小屋の横にもない。祖母はしばらく黙り、ここまで来てよかったと言った。私は舟がないのに、と言いかけた。同じ場所で何を思ったかまでは、まだ聞けていない。

灯台はまだ先だ。休んで進むか、今日は戻るかを二人で相談する。私の近道は、祖母の見たい場所を通っていなかった。地図に、まだ着いていない岬と、長く立っていた入り江の両方へ印を付けた。祖母が丸の外側を、もう一度指でなぞった。

土地・道・旅の条件は創作です。実際の旅行経路や通行の安全を案内するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

道の特徴と、祖母が話した目的を結びつけて答えなさい。

（1）本文から、坂の傾きの程度を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）途中で行き詰まることを表す「トンザ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）二つの道について、表と本文に合うものを選びなさい。

ア　甲は距離が短く、坂もなだらかだ。
イ　乙は長いので、到着する時刻も確定する。
ウ　甲の方が短いが、急な坂を通る。
エ　乙からは湾も入り江も見えない。

（4）結末について本文に合うものを選びなさい。

ア　青い舟を見つけ、すぐ灯台に着いた。
イ　舟はなかったが、祖母は来てよかったと話した。
ウ　祖母は昔の旅が全部無意味だったと話した。
エ　二人は今後、必ず短い道を選ぶと決めた。

（5）祖母が乙の道を選んだ理由を、道の特徴と見たい場所を結び、
45〜55 字で書きなさい。

（6）この旅を、「距離」「入り江」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
二人の目的の違いと、まだ決まっていないことも伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第二回　隔たりと地勢

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　川の流れに沿って下流を向いた右側。地図を置く向きでは変わらない。
（2）ア　川などの流れの中の陸地。州は行政区を示す語にも使われる。
（3）イ　山のふもと。頂上や山全体の別名ではない。
（4）エ　斜面や坂の傾きに関わる語。二地点の距離とは別に確かめる。
（5）ウ　どこに偏ってあるかを示す。全体に広くあるという意味ではない。
（6）ア　途中でつまずいて進まなくなること。再開できるかまでは語だけで決まらない。

四　熟語を広げよう

（1）右岸　（2）峡谷　（3）中州　（4）岡　（5）湾口
（6）岬　（7）断崖　（8）山麓　（9）左岸　（10）標柱
（11）谷底　（12）沿岸帯　（13）沢地　（14）入り江

谷底は谷の低い部分、断崖は切り立った斜面。麓は山のふもと。
湾と入り江は意味の重なる呼び名で、大きさだけの一律な境界を設けない。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　人が向きを変えても岸の呼び名は変わらない。下流向きが基準である。
（2）イ　短さだけでは傾きや所要時間は決まらない。誰がどう進むかも関わる。
（3）ウ　呼び方には重なりがある。面積だけでどちらかを誤りとはしない。
（4）ア　物の間の空きと、物事が途中で止まることを読み分ける。

五　自分で書く問題

（5）解答例

宿から岬までの距離を地図で確かめ、途中で寄る場所もノートへ記した。

☆自分で確かめる点　二つの場所など、何の間を示すかが分かるか。

（6）解答例

紹介する店が駅前へ偏っていたので、川向こうの店にも話を聞いた。

☆自分で確かめる点　対象と、偏っている側や範囲を示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）右側　（2）谷間　（3）九州　（4）間隙　（5）湾内
（6）本邦　（7）崖下　（8）地帯　（9）左側　（10）支柱
（11）海底　（12）沢山　（13）江戸　（14）偏在　（15）頓着
（16）おかやま　（17）えんがん　（18）ほうじん　（19）へんこう　（20）がけくずれ

（4）間隙はすき間。（6）本邦は自分の国を指し、日本で日本をいう語。（7）は崖下。（12）は沢山。（14）偏在は一部へ偏ってあること。（15）頓着は気にかけること。（18）邦人は、その国の人などを指す。

七　文章の中で考えよう

（1）勾配　道の長さとは別の、坂の傾きの程度。
（2）頓挫　水路を戻す計画が途中で進まなくなったこと。
（3）ウ　甲は二キロで急な坂、乙は三キロでなだらか。
（4）イ　青い舟がないことと、訪ねたことへの思いは同じではない。

七　記述問題の考え方

（5）　乙の道を選んだ理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

乙は甲より長くてもなだらかな道で、灯台だけでなく、昔見た青い舟のあった入り江も、もう一度訪ねたかったから。

（5）別解例　52 字

急な坂を越える甲より長くてもなだらかで、昔青い舟を見た入り江を通り、灯台以外の場所にも会いたかったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 乙は長いがなだらかであることを示したか。
② 昔の青い舟があった入り江という目的を結んだか。
③ 舟が今もあると確認済みにはしていないか。

短さだけで選ばなかった理由を、歩く条件と本人の目的から説明する。

（6）　旅の紹介 70〜90 字

（6）解答例　79 字

私は距離の短い道で灯台へ行こうとしましたが、祖母は昔青い舟を見た入り江を通る道を選びました。舟はなくても来てよかったと話します。灯台へ進むか戻るかは未定です。

（6）別解例　82 字

距離の短い道を選ぶ私と、昔の入り江も訪ねたい祖母は、道を選ぶ目的が違いました。舟はなくても祖母は来てよかったと話します。灯台へ進むか戻るかは、まだ決まっていません。

☆（6）自分で確かめる点

①「距離」「入り江」を使ったか。
② 短い道を選ぶ私と、祖母の目的を示したか。
③ 灯台へ着いたことや舟の発見を加えていないか。

祖母の心の中を全て説明できた話ではない。話した言葉と未定の行動を区別する。

漢字から文章へ 第六冊

第三回

親疎と序列

「画伯」と「令嬢」が手紙を交わしています。
二人は、伯父と姪なのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

妹	姉	婚	孤
年下の女のきょうだい	年上の女のきょうだい	夫婦となる	ひとり 頼りがない

伯	嫁	輩	嬢
父母の兄 爵位など	結婚して相手の家へ	同じ仲間 人々	娘 敬う呼び名

いっしょに覚える漢字

英	件	后	郎	依	偉
佳	侯	俺	僅	藩	縁

この回で読むお話

画伯と令嬢の手紙

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
妹	マイ いもうと	年下の女のきょうだい 姉妹・妹・義妹	伯	ハク	父母の兄／爵位や敬称に使う 伯父・伯爵・画伯
姉	シ あね	年上の女のきょうだい 姉弟・姉妹・義姉	嫁	カ よめ とつぐ	結婚して相手の家へ行く 嫁ぐ・花嫁・嫁入り
婚	コン	夫婦となること 婚姻・結婚・婚家	輩	ハイ	同じ仲間／人々 同輩・先輩・後輩
孤	コ	ひとり／頼るものがない 孤児・孤立・孤独	嬢	ジョウ	娘／女性への敬った呼び名 令嬢・愛嬢・お嬢さん

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
英	エイ	優れている／花 英傑・英雄・英知	佳	カ	美しい／優れている 佳人・佳作・佳日
件	ケン	事柄を数える／事柄 一件・条件・事件	侯	コウ	大名／爵位の一つ 諸侯・侯爵・王侯
后	コウ	天皇・皇帝のきさき 皇后・后妃・太后	俺	おれ	男性が自分を指す語 俺・俺たち・俺様
郎	ロウ	若い男性／男子の名 新郎・郎党・一郎	僅	キン わずか	ほんの少し 僅差・僅少・僅か
依	イ エ よる	頼る／もとづく 依存・依頼・依拠	藩	ハン	江戸時代の大名領 藩主・藩士・廃藩
偉	イ えらい	優れて立派 偉業・偉人・偉大	縁	エン ふち	つながり／物の端 縁故・血縁・縁辺

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「姉妹」に合うものを選びなさい。
ア　姉と弟　　イ　女のきょうだい
ウ　父と母のきょうだい　　エ　同じ年の友人

(2)「伯父」に当たる人を選びなさい。
ア　母の弟　　イ　父の弟
ウ　父の兄　　エ　母の姉

(3)「婚姻」に合うものを選びなさい。
ア　夫婦となる結び付き　　イ　知人どうしの全ての関係
ウ　同じ地位の人の集まり　　エ　親を亡くした状態

(4)「同輩」に合うものを選びなさい。
ア　同じ町に住む全員　　イ　父母の兄だけ
ウ　領地を治める人全て　　エ　地位や年齢などが同程度の仲間

(5)「画伯」に含まれる伯の働きに合うものを選びなさい。
ア　画家の父の兄と決める。　　イ　画家への敬称として読む。
ウ　伯爵の爵位を持つと決める。　　エ　絵を描く人は全員親戚とする。

(6)「縁故」が表すものを選びなさい。
ア　品物の重さの違い　　イ　一回の勝負の差
ウ　血縁や知人関係などのつながり　　エ　人の地位が高い順番だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　英傑　婚姻　新郎　嫁ぐ　姉妹　偉業　令嬢
伯父　皇后　姉弟　依存　同輩　孤児　一件

文	解答	文	解答
(1) 姉と妹の □□で手紙を読む。		(8) 相手の娘を敬い □□と記す。	
(2) 姉と弟の □□で店を開く。		(9) 国を救った □□の伝記を読む。	
(3) 二人の □□を祝う。		(10) 相談が □□届いた。	
(4) 親を失った □□を支える。		(11) 皇帝のきさきである □□を描く。	
(5) 母の兄に当たる □□を訪ねる。		(12) 式で □□があいさつする。	
(6) 物語で遠い家へ □□人を描く。		(13) 一人だけへの □□を減らす。	
(7) 同じ程度の地位の □□と話す。		(14) 歴史に残る □□を本で知る。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「伯父」と「叔父」に合うものを選びなさい。

母の兄は伯父、父の弟は叔父と書いた。

ア　父方か母方かだけで書き分けた。
イ　どちらも父母より必ず年下だ。
ウ　自分と年が近ければ同じ字でよい。
エ　父母との年上・年下の関係を表した。

（2）この「画伯」と「伯爵」に合うものを選びなさい。

画伯が伯爵の肖像画を描いた。

ア　前は画家への敬称、後ろは爵位の名だ。
イ　二人は必ず兄弟である。
ウ　前も後ろも父母の兄を表す。
エ　画家は伯爵より必ず地位が高い。

（3）この「令嬢」と「孤独」に合うものを選びなさい。

令嬢と呼ばれた人が、一人で過ごすと孤独を感じると書いた。

ア　敬われる人には孤独はない。
イ　呼び名と本人の気持ちは別に読む。
ウ　孤独なら誰の娘でもない。
エ　呼び名だけで全ての感情が分かる。

（4）この「依頼」と「依存」に合うものを選びなさい。

絵の修理を依頼したが、何でも一人の職人へ依存しないよう相談先を増やした。

ア　どちらも仕事を断る意味だけだ。
イ　頼むことと、頼り切ることは同じだ。
ウ　特定の仕事を頼むことと、頼る状態を分けた。
エ　依存を減らすと依頼は一切できない。

（5）「依頼」を使い、誰へ何を頼んだかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「縁」を使い、人とのつながりが分かる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 私より年下の**イモウト**が手紙を書いた。	
(2) 私より年上の**アネ**と本を読んだ。	
(3) 結婚したばかりの二人を**シンコン**と紹介する。	
(4) 周囲とのつながりを失い、**コリツ**した人物を描く。	
(5) 物語に、爵位を持つ**ハクシャク**が登場する。	
(6) 式で**ハナヨメ**が手紙を読む。	
(7) 仕事を教わった**センパイ**に相談する。	
(8) 歴史の本で、領地を治めた**ショコウ**について読む。	
(9) 人々の優れた知恵である**エイチ**を借りる。	
(10) 申込みに必要な**ジョウケン**を読む。	
(11) 歴史の本で、藩を治める**ハンシュ**という語を学ぶ。	
(12) 物語の画家は自分を「**オレ**」と呼んだ。	
(13) わずかな差の**キンサ**で勝った。	
(14) 歴史に名を残す**イジン**の伝記を読む。	
(15) 優れた作品三点を**カサク**に選ぶ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 若輩	(17) 婚礼	(18) 縁故	(19) 皇太后	(20) 僅少

この回を終えたら もう一度確かめる

呼び名から分かる関係と、まだ分からない気持ちは何でしょう。
同じ字を含む語も、全体の意味を確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

画伯と令嬢の手紙

私は家系図の空いた所へ、「画伯」と書いた。姉と読んでいる古い物語で、婚礼を迎えるリナが「画伯様」と手紙を出し、返事には「リナ令嬢、俺の絵でよければ」とある。伯父と姪のやり取りだと思った。姉は私の鉛筆を見て、まだ早いよ、と言った。

伯父なら父母の兄だが、画伯は画家への敬称だ。同じ伯の字から血縁は決まらない。令嬢も娘を敬う呼び名で、伯爵の娘という意味に限らない。私は立派な呼称を見ただけで、立派な家の親戚同士を思い浮かべていた。

物語の国には藩主も諸侯も出てくる。画伯は皇后の肖像を描き、英傑の偉業を残す役目で知られていた。リナが依頼したのも、新郎と花嫁の華やかな絵だろうか。頁をめくると、姉妹が窓辺でパンを分ける小さな一枚だった。佳作と呼ばれるその絵を借りたいという。

描かれた二人は、リナと妹だと分かった。

幼くして親を亡くした孤児の二人は、画伯の家の隣で育った。暮らしを画伯だけに依存したのではない。リナはパン屋で働き、同輩の仲間にも支えられた。焼けたパンを画伯へ届けた日もあったという。家系図には載らない縁があった。

画伯の返書は、姉弟でけんかをした自分の昔話へ続く。俺という書き出しはくだけているが、返事は丁寧だ。私は呼び方の柔らかさだけで、親しさを測ろうとした。姉は、絵を頼める関係や、二人が覚えていることも読もうと言った。

リナは遠い町へ嫁ぐ。妹は結婚を祝うが、僅かな荷物を先に運んだ夜、二人はしばらく話さなかった。この一件を、姉は寂しいからだと思い、私はけんかのあとかもと思った。次の頁にも、理由は書いていない。

婚姻で結ばれる家と、前から支えてきた人たち。リナは両方を式へ招くらしい。絵の場所は妹にも相談するとある。私は画伯への血縁の線を消し、手紙を交わす線を引いた。

姉が色鉛筆の箱を寄せた。二人の気持ちにも色を付けるのかと聞くと、今はまだ、と答える。窓辺のパンは何色だろう。私たちは、絵が小さく載った頁へ戻った。

人物・手紙・身分制度は架空の物語です。実在の時代や制度を説明するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

語から分かる関係と、物語で確かめた関わりを分けて答えなさい。

（1）本文から、画家を敬う呼び名を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）血のつながりによる親族の関係を表す「ケツエン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）リナが借りたい絵について合うものを選びなさい。

ア　新郎だけを描いた新しい肖像。
イ　英傑が偉業を成し遂げる絵。
ウ　皇后と諸侯が集まる大きな絵。
エ　自分と妹がパンを分ける小さな絵。

（4）姉妹が黙った理由の扱いとして合うものを選びなさい。

ア　寂しさだと本文で確定した。
イ　けんかのあとだと本文で確定した。
ウ　二つの読みが出たが、理由は書かれていない。
エ　黙ったので二人は姉妹ではないと分かる。

（5）「私」が画伯を伯父として加えた線を消した理由を、
呼称の意味と本文で分かった関係を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）リナと画伯の関係を、「呼称」「縁」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
血縁と決めず、実際の関わりを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第三回　親疎と序列

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　姉と妹など、女のきょうだいをいう。姉弟は姉と弟。
（2）ウ　父母の兄を伯父、弟を叔父と書く。父方か母方かの違いではない。
（3）ア　結婚による結び付き。縁故のように人のつながり全体を指す語ではない。
（4）エ　何について同程度かを文脈で読む。血縁や同じ考えを必ず含むわけではない。
（5）イ　画伯は画家を敬う呼び名。伯父や伯爵と同じ関係・地位を示すとは限らない。
（6）ウ　人とのつながりを広く表す。つながりの種類や強さは別に確かめる。

四　熟語を広げよう

（1）姉妹　（2）姉弟　（3）婚姻　（4）孤児　（5）伯父
（6）嫁ぐ　（7）同輩　（8）令嬢　（9）英傑　（10）一件
（11）皇后　（12）新郎　（13）依存　（14）偉業

令嬢は相手などの娘を敬う呼び名で、爵位そのものではない。
「縁」は第一冊第六回からの再会字。つながりの種類を語全体で読む。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　どちらの親のきょうだいかでなく、親より兄か弟かに着目する。
（2）ア　同じ字を含んでも、語の働きは異なる。血縁や序列までは決まらない。
（3）イ　敬う呼称が、その人の生活や気持ちを全て表すわけではない。
（4）ウ　頼む仕事の内容と、誰へどの程度頼っているかは別の情報である。

五　自分で書く問題

（5）解答例

私は祖母が描いた絵の修理を職人へ依頼し、傷んだ箇所の写真も送った。

☆自分で確かめる点　相手と、頼む仕事の内容が分かるか。

（6）解答例

旅先で同じ本を読んだ縁で友人となり、帰ってからも手紙を交わしている。

☆自分で確かめる点　何を通じたつながりかを示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）妹　（2）姉　（3）新婚　（4）孤立　（5）伯爵
（6）花嫁　（7）先輩　（8）諸侯　（9）英知　（10）条件
（11）藩主　（12）俺　（13）僅差　（14）偉人　（15）佳作
（16）じゃくはい　（17）こんれい　（18）えんこ　（19）こうたいごう　（20）きんしょう

（5）伯爵は爵位の名。（8）は諸侯、（11）は藩主。（12）俺は自分を指すくだけた呼び方。（13）僅差はわずかな差。（15）佳作は出来のよい作品など。（18）縁故は人のつながり。（20）僅少はごく少ないこと。

七　文章の中で考えよう

（1）画伯　伯父や伯爵とは異なり、画家を敬う呼び名。
（2）血縁　血のつながりによる関係。画伯という呼び名だけでは、リナとの血縁は確かめられない。
（3）エ　姉妹自身を描いた、窓辺の記憶のある一枚。
（4）ウ　読者の考えは出たが、本文は理由を確定していない。

七　記述問題の考え方

（5）　血縁の線を消した理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

画伯は画家への敬称で伯父を意味せず、隣で育った姉妹の絵を描き、支え合ってきた縁はあっても血縁は不明だから。

（5）別解例　54 字

画伯という呼び名だけでは父母の兄といえず、隣で育ったリナたちとの関わりは分かっても、血縁とは決まらないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 画伯は敬称で、伯父とは違うと示したか。
② 隣で育った関わりと、血縁が不明なことを結んだか。
③ 血縁が絶対にないと証明した説明にしていないか。

関わりは確かめられるが、血縁を示す根拠はない。線を消しても関係そのものは消えない。

（6）　リナと画伯の紹介 70〜90 字

（6）解答例　80 字

画伯と令嬢という呼称だけでは、二人が親戚かは分かりません。リナ姉妹は画伯の隣で育ち、絵にも描かれました。その縁から、リナは婚礼に姉妹の絵を借りようとしています。

（6）別解例　87 字

リナは画伯と手紙を交わし、婚礼のために姉妹の絵を借りようとします。呼称は血縁を示すものではありませんが、隣で育って絵を描いてもらった縁があり、画伯も自分の昔話を返しています。

☆（6）自分で確かめる点

①「呼称」「縁」を使ったか。
② 隣で育ち、絵や手紙でつながる関わりを示したか。
③ 血縁の確定や、姉妹が黙った理由を加えていないか。

親戚でなければ親しくない、という二択にしない。関係の種類と心の近さを分ける。

漢字から文章へ 第六冊

第四回

病理と身体感覚

帰ってきた犬の絵に、言葉を添えます。
振っている尾は、何と言っているのでしょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

肥	脈	脂	胞
太る 豊かにする	血管の動き 筋道	あぶら	生物の組織に関わる

胎	肢	膨	骸
母体内で育つ子	手足 分かれた部分	内から大きくなる	骨だけの体 なきがら

いっしょに覚える漢字

眼	創	冒	尿	聴	酔
脊	咽	哺	醒	頬	顎

この回で読むお話

犬の絵の吹き出し

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
肥	ヒ こえる こやす	太る／土地を豊かにする 肥大・肥満・肥料	胎	タイ	母体内で育つ子／物事の始まり 胎児・胎内・胎動
脈	ミャク	血管の動き／続く筋道 脈拍・血脈・山脈	肢	シ	手足／枝分かれした部分 四肢・上肢・下肢・選択肢
脂	シ あぶら	あぶら／あぶら状の物 脂質・脂肪・皮脂・樹脂	膨	ボウ ふくらむ ふくれる	内から大きくなる 膨張・膨大・膨満
胞	ホウ	包む膜／生物の組織に関わる 細胞・胞子・同胞	骸	ガイ	骨だけになった体／なきがら 遺骸・骸骨・形骸

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
眼	ガン ゲン まなこ	目／物を見る点 眼球・眼底・肉眼	脊	セキ	背骨 脊髄・脊柱・脊椎
創	ソウ つくる	傷／新しくつくる 創傷・創部・創造	咽	イン	のどに関わる 咽頭・咽喉・咽頭炎
冒	ボウ おかす	危険を押して進む／おおう 感冒・冒険・冒頭	哺	ホ	口に食べ物を含ませる 哺乳・哺育・哺乳類
尿	ニョウ	腎臓でつくられ体外へ出る液 尿検査・排尿・尿意	醒	セイ さめる さます	眠りや酔いから戻る 覚醒・醒める・半醒
聴	チョウ きく	注意して音を聞く 聴覚・聴診・傾聴	頬	キョウ ほお	顔の両側の部分 頬骨・頬・頬部
酔	スイ よう	酒によう／気分や感覚が変わる 麻酔・船酔い・陶酔	顎	ガク あご	口の上下を形づくる部分 顎関節・下顎・顎骨

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

（1）体の組織の「肥大」に合うものを選びなさい。
ア　組織が大きくなること　　イ　骨の名前を取り替えること
ウ　体重だけで病名を決めること　　エ　本人が喜んだと決めること

（2）「脈拍」に合うものを選びなさい。
ア　目で色を見分ける働き　　イ　心臓の動きに伴い血管へ伝わる動き
ウ　母体内で育つ子ども　　エ　眠りから目が覚めた時刻

（3）「細胞」が指すものを選びなさい。
ア　音を感じる感覚だけ　　イ　一つの骨だけ
ウ　生物の体をつくる基本的な単位　　エ　体外へ出た液体全て

（4）人の「四肢」に合うものを選びなさい。
ア　目と耳と口と鼻　　イ　首と胸と腹と背中
ウ　指を四本選んだもの　　エ　左右の腕と脚を合わせた手足

（5）「胎児」に合うものを選びなさい。
ア　母体内で育っている子　　イ　生まれた後の全ての子
ウ　動物の骨格の模型　　エ　植物の種を包む殻だけ

（6）「聴覚」に着目する問いを選びなさい。
ア　どの色を見分けたか。　　イ　どんな音が聞こえたか。
ウ　どの関節を曲げたか。　　エ　どんな味がしたか。

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　眼球　脂質　尿検査　四肢　肥大　麻酔　遺骸
胎児　感冒　脈拍　聴覚　膨張　細胞　創傷

文	解答	文	解答
（1）組織が大きくなる□□という語を読む。		（8）亡くなった動物の□□を調べた記録だ。	
（2）血管に伝わる動きの□□を記録する。		（9）目の□□の模型を見る。	
（3）油に関わる成分の□□を学ぶ。		（10）体にできた傷を□□と記す。	
（4）顕微鏡で植物の□□を観察する。		（11）かぜを指す□□という語を読む。	
（5）母体内で育つ□□の図を見る。		（12）尿を調べる□□□の説明を聞く。	
（6）両腕と両脚の□□を模型で学ぶ。		（13）音を感じる□□について学ぶ。	
（7）気体の□□を図に示す。		（14）感覚を失わせる□□という語を調べる。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「膨張」と「肥大」に合うものを選びなさい。

気体の膨張を表す図と、組織の肥大を表す図を並べた。

ア　どちらも同じ病名を表す。
イ　大きくなれば原因も同じになる。
ウ　この文では、変化する対象が異なる。
エ　前は必ず悪く、後ろは必ずよい。

（2）この「脊柱」と「脊髄」に合うものを選びなさい。

図では、脊柱の中を通る脊髄の位置を別の色で示した。

ア　どちらも同じ骨の別名だ。
イ　字が似ているので入れ替えてよい。
ウ　脊柱は顔、脊髄は足だけの名前だ。
エ　体を支える骨の連なりと、神経の組織を分けた。

（3）この「創傷」と「創作」に合うものを選びなさい。

犬の創傷の話を聞き、その犬を主人公にした創作の話を描いた。

ア　同じ創でも、傷と新しく作ることに関わる。
イ　どちらも犬の傷そのものを指す。
ウ　創作は傷が治った証明である。
エ　創傷という語を使えば全て実話になる。

（4）この「覚醒」と「全快」に合うものを選びなさい。

麻酔から覚醒したと聞いたが、それで全快したとは書かなかった。

ア　目が覚めれば全ての病気が治る。
イ　意識がはっきりすることと、治り切ることを分けた。
ウ　覚醒は新しい病名を示す。
エ　全快しても意識は必ず戻らない。

（5）「傾聴」を使い、相手の話を注意して聞く場面を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「膨大」を使い、多くの量がある場面を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 植物を育てるための**ヒリョウ**について本で調べる。	
(2) 連なった山々の**サンミャク**を地図で探す。	
(3) 木が出すあぶら状の**ジュシ**を図鑑で見る。	
(4) 同じ国や民族の人々を表す**ドウホウ**という語を読む。	
(5) 物語で、新しい動きの始まりを**タイドウ**と呼ぶ。	
(6) 選べる答えの**センタクシ**を比べる。	
(7) 水を吸って**フクラム**素材の説明を読む。	
(8) **ガイコツ**の模型で骨の形を見る。	
(9) 意識がはっきりすることを**カクセイ**という。	
(10) 子犬が乳を飲む**ホニュウ**の様子を図鑑で見る。	
(11) 絵の人物の**ホオ**を赤く塗った。	
(12) のどを指す**インコウ**という語を調べる。	
(13) **カガク**は、下あごを指す語だ。	
(14) 船の中で**フナヨイ**した経験を話した。	
(15) 背骨の連なりを**セキチュウ**という。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 脂肪	(17) 上肢	(18) 肉眼	(19) 尿意	(20) 頬骨

この回を終えたら もう一度確かめる

体の様子を見たことと、その気持ちを知ったことは同じでしょうか。
本人の言葉がない所を、どのように書くかも考えましょう。

七　文章の中で考えよう

犬の絵の吹き出し

「もう痛くないよ。」犬のハルの絵に、私はそう書いた。病院で手術を受け、麻酔から覚醒したと聞いたハルが、家へ帰ってきた日だ。四肢を床に伸ばし、尾を動かしている。絵の中では、ハルがこちらへ笑っていた。

父は、その台詞はハルが話したの、と尋ねた。

獣医師から聞いたのは、創傷の様子や脈拍の記録、これからも世話や診察が必要だということだった。尾の動きは私にも見えたが、痛みがないとは聞けていない。早く全快してほしい気持ちを、ハルの言葉にしていたのかもしれない。私は吹き出しへ、消しゴムを置いた。

体の図鑑を開くと、眼球や頬骨、下顎が写真とは違う角度で載っていた。骸骨の図では、毛に隠れた骨も見える。脊柱と脊髄、口の奥の咽頭にも別の名があった。いつもなでている頭を横から見て、図の向きを回した。

別の頁には母体内の胎児と、生まれてから哺乳する子犬がいる。細胞の図や脂質の説明もあった。病院で聞いた尿検査や聴診を探し、図鑑の言葉とつなぐ。ただ、本の頁を増やしても、今のハルの全てが分かるわけではなかった。

父も以前、腹が膨らんだように見えて肥満だと決めかけたという。膨張や肥大という言葉を覚えても、大きく見える原因までは決まらない。私も鼻の音を聞き、感冒と書きかけてやめた。ハルは図鑑の角へ鼻を近づけ、すぐ顔をそらした。

夕方、弟が袋を開けると、ハルが顔を上げた。何か聞こえたのだろうと、私は聴覚の頁を思い出す。弟はお菓子が欲しいのだと言ったが、私はすぐには賛成しなかった。弟の手へ近づき、寝床へ戻ったところまでを描いた。

吹き出しは薄い紙へ写し、元の絵からは消した。重ねると、ハルが話す絵になる。「おかえり」は私の言葉として絵の外へ置く。酔ったようにゆっくり見える動きにも、勝手な理由を付けなかった。何も描けなくなったのではない。床を打つ尾の音を聞き、その間隔を鉛筆で残したくなった。

犬・人物・診療の経過は創作です。症状の判断や治療、動物の世話の手順を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

見た様子、聞いた説明、想像した台詞を分けて答えなさい。

（1）本文から、ハルが病院で受けた処置を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）神経の組織を指す「セキズイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）父が吹き出しについて尋ねた理由に合うものを選びなさい。

ア　尾の動きだけで痛みがないとは分からないから。
イ　犬の絵に台詞をつける行為は全て間違いだから。
ウ　ハルの尾は一度も動いていなかったから。
エ　私は獣医師から全快したと聞いたから。

（4）最後の絵に合うものを選びなさい。

ア　ハルがお菓子を欲しいと話す実録にした。
イ　犬の病名を図鑑から一つ選んで加えた。
ウ　ハルの動きは全て描くのをやめた。
エ　見えた動きを描き、私の言葉と想像を分けた。

（5）「もう痛くないよ」をハルの言葉と決めなかった理由を、
尾の動きと私の願いを結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）絵の作り方の変化を、「観察」「想像」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
描かなくなっただけの話にはしません。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第四回　病理と身体感覚

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　組織や器官が大きくなることをいう。何が原因かは、この語だけでは決まらない。
（2）イ　心臓の拍動が血管へ伝わる動きや、その回数。数だけで原因は決められない。
（3）ウ　動物や植物などの体をつくる基本的な単位。肉眼で必ず見えるとは限らない。
（4）エ　人では両腕と両脚。上肢・下肢の語とも対応させる。
（5）ア　母体内で育つ子を指す語。生まれた後の哺乳の様子とは時点が異なる。
（6）イ　音を感じ取る感覚。聞こえた内容と、どう感じたかも別に確かめる。

四　熟語を広げよう

（1）肥大　（2）脈拍　（3）脂質　（4）細胞　（5）胎児
（6）四肢　（7）膨張　（8）遺骸　（9）眼球　（10）創傷
（11）感冒　（12）尿検査　（13）聴覚　（14）麻酔

遺骸は亡くなった人や動物のなきがら。骸骨は骨格などをいう。
体の言葉を知ることと、個々の体の状態を診断することは別である。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　似た変化を表しても、ここでは気体と体の組織という対象の違いがある。
（2）エ　脊柱は背骨の連なり、脊髄はその内部を通る神経の組織で、同じ物ではない。
（3）ア　同じ字でも語全体の意味は違う。創作の台詞を実際の気持ちとはしない。
（4）イ　異なる状態を表す語。同じ時点で両方が確認されたとは、この文に書かれていない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

私は祖父が昔の犬について話すのを傾聴し、分からない言葉は後で尋ねた。

☆自分で確かめる点　何を、どのように聞いたかが分かるか。

（6）解答例

犬の写真は膨大な数になっていたが、帰ってきた日の一枚はすぐ見つかった。

☆自分で確かめる点　何の量が多いかを具体的に示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）肥料　（2）山脈　（3）樹脂　（4）同胞　（5）胎動
（6）選択肢　（7）膨らむ　（8）骸骨　（9）覚醒　（10）哺乳
（11）頬　（12）咽喉　（13）下顎　（14）船酔い　（15）脊柱
（16）しぼう　（17）じょうし　（18）にくがん　（19）にょうい　（20）ほおぼね・ほほぼね・きょうこつ

（3）樹脂は植物から出るあぶら状の物質など。（4）同胞は同じ国・民族の人など。（5）胎動は物事の始まりのたとえにも使う。（7）は送り仮名を含めて「膨らむ」。（10）は哺乳。（11）は頬。（12）咽喉はのど。（13）下顎は訓読みで「したあご」。（20）は「ほおぼね」「ほほぼね」「きょうこつ」とも可。

七　文章の中で考えよう

（1）手術　冒頭で、ハルが病院で受けたと示されている。尾が動いたことだけから、痛みの有無までは決められない。

（2）脊髄　脊柱と同じ骨の別名ではない。
（3）ア　尾の動きは見えたが、ハルの痛みの有無を聞けたわけではない。
（4）エ　動きは描き、台詞は別の紙、私の「おかえり」は絵の外に置いた。

七　記述問題の考え方

（5）　ハルの言葉と決めない理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

尾が動いたことは見ても、痛みがないとは聞けず、早く全快してほしい自分の願いをハルの台詞にしていたから。

（5）別解例　52 字

尾の動きだけでハルの痛みは分からず、もう治ってほしいという私の願いを、ハルが話した言葉とはできないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 見えたのは尾の動きであると示したか。
② 私の願いとハル自身の感覚を分けたか。
③ 痛い、または痛くないと逆に断定していないか。

病気の判断をする問題ではない。観察した内容と、台詞として加えた内容の違いを読む。

（6）　絵の作り方の変化 70〜90 字

（6）解答例　86 字

私は尾が動くのを観察し、痛くないという想像をハルの言葉にしました。最後は近づいて戻る動きを描き、想像の台詞は別の紙にしました。おかえりは私の言葉とし、事実と願いを分けます。

（6）別解例　84 字

最初は観察した尾の動きに、全快してほしい願いを重ねて台詞を書きました。あとでは想像の吹き出しを薄い紙に分け、私の言葉も外へ置きます。描くのをやめず、動きを見直しました。

☆（6）自分で確かめる点

①「観察」「想像」を使ったか。
② 動き、想像の台詞、私の言葉の置き方を示したか。
③ これでハルの気持ち全てが分かったとはしていないか。

創作そのものを否定する話ではない。想像を、実際に聞いた言葉や診断とは区別する。

漢字から文章へ 第六冊

第五回

繊細な感情と欲望

憧れの劇団へ入るための応募用紙。
書き終えたのに、封筒へ入れられません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

慣	興	泰	忌
繰り返して身につく	おもしろみ 盛ん	安らか 大きい	嫌って避ける

懸	惰	憬	臆
心にかかる 掛ける	なまける	あこがれる	気おくれ 推し量る

いっしょに覚える漢字

夢	徳	貞	殊	疎	玩
奨	悠	犠	寧	麗	鬱

この回で読むお話

出さなかった応募用紙

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
慣	カン なれる ならす	繰り返して自然になる 習慣・慣例・慣れる	懸	ケン かける かかる	心にかかる／掛け渡す 懸念・懸命・懸賞
興	コウ キョウ おこる おこす	おもしろみ／盛んになる 興味・興奮・復興	惰	ダ	なまける 怠惰・惰性・勤惰
泰	タイ	安らか／大きい 安泰・泰然・泰平	憬	ケイ	あこがれる 憧憬
忌	キ いむ いまわしい	嫌って避ける／喪に関わる 忌避・禁忌・忌日	臆	オク	気おくれする／心で推し量る 臆病・臆測・胸臆

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
夢	ム ゆめ	眠って見る像／将来の願い 夢想・夢・悪夢	奨	ショウ	よいとして勧める 奨励・推奨・奨学
徳	トク	人としての優れた性質 美徳・道徳・徳望	悠	ユウ	時間や空間がはるか／ゆったり 悠然・悠久・悠長
貞	テイ	心や節操を変えずに守る 貞節・貞淑・貞操	犠	ギ	神へ供えるもの／身を差し出す 犠牲・犠打・犠牲者
殊	シュ こと	特に／異なる 殊更・特殊・殊勝	寧	ネイ	安らか／むしろ 丁寧・安寧・寧日
疎	ソ うとい うとむ	離れて親しくない／まばら 疎外・疎遠・過疎	麗	レイ うるわしい	美しく整う 華麗・麗人・秀麗
玩	ガン	もてあそぶ／味わう 玩具・愛玩・玩味	鬱	ウツ	気がふさぐ／草木が茂る 憂鬱・鬱屈・鬱蒼

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「習慣」に合うものを選びなさい。
ア　一度だけ起きた出来事　　イ　毎日必ず守る法律
ウ　繰り返して身についた行動など　　エ　生まれつき変えられない能力

(2)「興味」に合うものを選びなさい。
ア　面白いと思い心を向けること　　イ　相手の成功を嫌うことだけ
ウ　全てを知り終えること　　エ　危険を避けて離れること

(3)「懸念」に合うものを選びなさい。
ア　成功が確定した喜び　　イ　悪い結果を気がかりに思うこと
ウ　根拠なく相手をほめること　　エ　心配な出来事が既に起きた証拠

(4)「憧憬」に合うものを選びなさい。
ア　人から遠ざけられること　　イ　何も感じず続けること
ウ　嫌って避けることだけ　　エ　心を引かれ、あこがれること

(5) 根拠のない「臆測」に合うものを選びなさい。
ア　本人に理由を尋ねて確かめる。　　イ　見た行動と聞いた言葉を分ける。
ウ　想像で事情を推し量って決める。　　エ　資料の出典を確かめて書く。

(6)「惰性」に合うものを選びなさい。
ア　従来の勢いで、深く考えず続けること　　イ　新しい目標へ意識的に変えること
ウ　どんな時も必ず休むこと　　エ　周囲が全員賛成した状態だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　夢想　安泰　殊更　怠惰　習慣　奨励　臆病
懸命　貞節　興行　疎外　憧憬　忌避　美徳

文	解答	文	解答
(1) 毎朝窓を開ける □□がある。		(8) 恐れてためらう □□な人物を描く。	
(2) 劇を観客に見せる □□を催す。		(9) 将来の暮らしを □□する。	
(3) 落ち着いた暮らしの □□を願う。		(10) 正直さを □□と考える人だ。	
(4) 嫌って遠ざける □□という語を読む。		(11) 古い物語が求める □□を読み直す。	
(5) 最後まで □□に取り組んだ。		(12) わざと □□に強調する。	
(6) 努力を避ける □□な態度を描く。		(13) 仲間からの □□を感じたと話す。	
(7) 遠い舞台に □□を抱く。		(14) 参加を勧める □□の言葉を送る。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「懸念」と「臆病」に合うものを選びなさい。

費用への懸念を話した人を、すぐに臆病な人と決めなかった。

ア　心配を話せば全て臆病になる。
イ　費用は誰も心配してはいけない。
ウ　懸念があれば計画は必ず失敗する。
エ　心配の内容と、人全体への評価を分けた。

（2）この「憧憬」と「羨望」に合うものを選びなさい。

あの劇場への憧憬と、合格した友人への羨望をノートへ書いた。

ア　あこがれる対象と、他人をうらやむ気持ちを分けた。
イ　どちらも友人を嫌うという意味だけだ。
ウ　劇場には羨望も憧憬も使えない。
エ　二つの気持ちは同時には持てない。

（3）この「泰然」と「不安」に合うものを選びなさい。

彼女は泰然と見えたが、本人は不安もあると話した。

ア　泰然と見えれば不安はうそだ。
イ　外から見える様子と、語られた気持ちを両方読む。
ウ　不安があれば全ての行動は止まる。
エ　落ち着いた話し方だけで気持ち全てが分かる。

（4）この「犠牲」と「希望」に合うものを選びなさい。

友人は私の休みを犠牲と呼んだが、私は何をしたくて休むか説明した。

ア　誰かが犠牲と呼べば本人の希望は不要だ。
イ　休む人は全て同じことを望んでいる。
ウ　周囲の呼び方と、本人の目的を分けて考えた。
エ　犠牲という語は時間には使えない。

（5）「興味」を使い、何のどこへ心が向いたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「懸念」を使い、気がかりな内容が分かる文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 長く続く**カンレイ**を見直す。	
(2) 初めての舞台に**コウフン**した。	
(3) 落ち着いて**タイゼン**と答えた。	
(4) してはいけないとされる**キンキ**を資料で調べる。	
(5) 慌てず**ユウゼン**と歩く人を描く。	
(6) 何も考えず**ダセイ**で続けた仕事を見直す。	
(7) **カレイ**な鳥の人形が舞台を飛んだ。	
(8) 根拠のない**オクソク**で事情を決めない。	
(9) 恐ろしい**アクム**から目が覚めた。	
(10) 休みを**ギセイ**にしたと友人は言った。	
(11) 応募用紙の注意書きを**テイネイ**に読み直す。	
(12) **トクシュ**な形の人形を描く。	
(13) 引っ越した友人と**ソエン**になった。	
(14) 木製の**ガング**を箱へ戻す。	
(15) 気がふさいで**ユウウツ**だと話した。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 興趣	(17) 忌日	(18) 貞淑	(19) 愛玩	(20) 徳目

この回を終えたら もう一度確かめる

ためらっている人には、進みたい気持ちがないのでしょうか。
周囲の評価だけでなく、本人の言葉と行動を読んでみましょう。

七　文章の中で考えよう

出さなかった応募用紙

机の応募用紙を、彩の手から引き戻した。憧れの劇団へ入るために書いた紙だ。客席の上を飛ぶ華麗な鳥の人形を見て、自分も動かしたいと初めて夢を書いた。それなのに一週間、封筒へ入れられない。先に応募した彩が、私の分も出そうかと言ったのだった。

練習に通えば、習慣になった放課後の帰り道が変わる。技法への興味も舞台への憧憬もあるが、家で祖父と木の玩具を直す時間が減るのは気がかりだ。今のままなら安泰なのかも分からない。通う日も、祖父へ行く日も、まだ誰とも話していなかった。

彩は、機会を忌避するなんて少し臆病だね、と言った。私は笑ったが、帰ってから憂鬱になった。祖父は悠然と鳥の羽を磨いている。私が出ていくのを嫌がるだろう。それも、尋ねていない臆測だった。

机の下には、磨く前の羽が一本落ちていた。

劇団の先生は参加を奨励してくれた。一方、見学した演目では、姫の貞節や家のための犠牲が美徳とされる。その役を演じるなら、私も同じ生き方を選ぶのだろうか。好きな舞台の全てに賛成しなければ、と考えていた。羽を拾い、どこへ戻すか祖父に聞いた。

そのまま、練習の日と修理の時間への懸念を話した。祖父は、毎週来なくてもいいが、一緒に直すのは好きだよ、と答える。全部あきらめるとも、必ず出ていけとも言わない。羽を丁寧に並べる手の横で、私は来る日の相談を始めた。

翌日、応募用紙は自分で出すと彩へ伝えた。殊更に責めたかったのではない。仲間から疎外されるのが怖くて、分かったふりをしたくなかった。惰性で残らず、急いで勇気を証明しようともせず、自分の時間を話してから決めたかった。

その日の締切には出さず、次の募集日を調べた。合格の約束はなく、迷いも消えていない。彩には、先に行った劇場の話を聞かせてほしいと頼んだ。

紙は前と同じ机の上にある。裏には祖父へ行く日の候補と、彩に聞きたいことを書いた。封筒へ入れる前に、もう一度裏返して見た。

人物・劇団・演目・募集の条件は創作です。進路や感情の正しい選び方を一つに定める話ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

進みたい気持ちと、まだ話していなかった条件を両方読んで答えなさい。

（1）本文から、呼びかけに応じて申し込むことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）時間などを分けて割り当てることを表す「ハイブン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）祖父が実際に話したことを選びなさい。

ア　劇団へ行くなら二度と来ないでほしい。
イ　必ず劇団へ入って合格してほしい。
ウ　毎週でなくてもよいが、一緒に直すのは好きだ。
エ　修理を続ける人は全員臆病だと思う。

（4）結末の「私」の行動に合うものを選びなさい。

ア　彩に応募を任せ、合格を確定した。
イ　その日の締切には出さず、次の募集日を調べた。
ウ　祖父のために、舞台への興味を全て捨てた。
エ　迷いが消えたので、彩と話す必要もなくなった。

（5）「私」が応募用紙を彩へ渡さなかった理由を、
劇団への思いと時間の配分を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）最後の「私」を、「憧憬」「行動」を使って 70〜90 字で紹介しなさい。
応募しなかったことだけで、怠惰とは決めません。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第五回　繊細な感情と欲望

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　繰り返すうちに身につくこと。習慣であっても変わることはある。
（2）ア　関心や面白さを感じること。既に得意である必要はない。
（3）イ　気がかりや心配。その内容が実際に起こるかは別に確かめる。
（4）エ　対象へあこがれる気持ち。必ず他人をうらやむ意味になるわけではない。
（5）ウ　確かな根拠がないまま推し量ること。臆病と同じ意味ではない。
（6）ア　これまでの習慣や勢いで続くこと。怠惰という評価とは分けて読む。

四　熟語を広げよう

（1）習慣　（2）興行　（3）安泰　（4）忌避　（5）懸命
（6）怠惰　（7）憧憬　（8）臆病　（9）夢想　（10）美徳
（11）貞節　（12）殊更　（13）疎外　（14）奨励

（2）興行は、客を集めて劇などを見せること。（5）懸命は力を尽くして取り組む様子。（14）奨励は、よいこととして勧めること。貞節などは、物語の誰がどんな価値を求めるかも読む。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　何を気がかりに思うかを読む。一度の発言だけで性格全体を固定しない。
（2）ア　近い気持ちが重なることもある。何へ向く気持ちかを文脈から確かめる。
（3）イ　見える態度と本人の内面が全て同じとは限らない。矛盾を消すために片方を捨てない。
（4）ウ　何を失い、何をしたいかを本人の言葉から読む。呼び名だけでよしあしを決めない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

舞台の鳥を動かすひもの仕組みに興味を持ち、終演後に係の人へ尋ねた。

☆自分で確かめる点　対象を示し、何を面白く思ったかが分かるか。

（6）解答例

練習が夜遅くなることへの懸念を伝え、帰る時刻を先に相談した。

☆自分で確かめる点　心配の対象を示し、結果が確定したとはしていないか。

六　短文で使ってみよう

（1）慣例　（2）興奮　（3）泰然　（4）禁忌　（5）悠然
（6）惰性　（7）華麗　（8）臆測　（9）悪夢　（10）犠牲
（11）丁寧　（12）特殊　（13）疎遠　（14）玩具　（15）憂鬱
（16）きょうしゅ　（17）きにち・きじつ　（18）ていしゅく　（19）あいがん　（20）とくもく

（4）禁忌はしてはいけないとされることなど。（8）臆測は確かな根拠なしに推し量ること。（14）は玩具、（15）は憂鬱。（16）興趣は面白み。（17）忌日は命日など。「きにち」「きじつ」とも可。（18）は貞淑。歴史や物語で語の価値観を確かめる。（20）徳目は徳を示す項目。

七　文章の中で考えよう

（1）応募　呼びかけに応じて申し込むこと。私は今回見送り、次の募集日を調べた。
（2）配分　分けて割り当てること。私は、練習と祖父と過ごす時間の配分にも迷っていた。
（3）ウ　好きな時間も残したまま、来る頻度を相談する返事だった。
（4）イ　今回の応募は見送ったが、調べたり話したりする行動は続いた。

七　記述問題の考え方

（5）　用紙を渡さなかった理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

劇団に入りたい気持ちはあっても、祖父と玩具を直す時間も大切で、配分を話し、自分で決めて応募したかったから。

（5）別解例　54 字

舞台にあこがれながら祖父との修理の時間も残したく、時間の配分を相談する前に、彩へ応募を任せたくなかったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 舞台への気持ちがあることを残したか。
② 祖父との時間と、配分を相談する必要を結んだか。
③ 劇団が嫌い、祖父が禁止したという理由にしていないか。

応募しない行動だけを見ず、何を大切にして、何をまだ話していなかったかを読む。

（6）　最後の私の紹介 70〜90 字

（6）解答例　88 字

私は劇団への憧憬を残し、祖父と修理する日の相談や、次の募集日を調べる行動を始めました。応募は見送りましたが、全てをあきらめてはいません。迷いも残したまま自分で決めようとします。

（6）別解例　87 字

舞台への憧憬と祖父との時間を両方持つ私は、懸念を話す行動を起こしました。今回は応募せず、次の募集日を調べ、彩には劇場の話を頼みます。合格や迷いの解消は、まだ決まっていません。

☆（6）自分で確かめる点

①「憧憬」「行動」を使ったか。
② 相談・調査など、実際にしたことを示したか。
③ 応募や合格が済んだ話、全てを断念した話にしていないか。

迷いがあるまま関わり、考え始められることを読む。見送る選択が誰にも正解とは決めない。

漢字から文章へ 第六冊

第六回

言外の意味と応酬

返事には「どうぞ」と書かれています。
けれど、その先の一行を読み落としていました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

辞	称	掲	吐
言葉 ことわる 退く	名づける ほめる	高く示す 広く示す	口や心から出す

詳	簿	誰	諧
細かく明らか	書き留める帳面	人をたずねる	調和 おどけ

いっしょに覚える漢字

兆	筆	弁	描	叱	但
叙	嘱	喩	罵	韻	諭

この回で読むお話

どうぞの先の一行

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
辞	ジ やめる	言葉／ことわる／退く 辞意・辞書・謝辞・辞退	詳	ショウ くわしい	細かく明らか 詳述・詳細・詳報
称	ショウ	名づける／ほめる 自称・名称・称賛	簿	ボ	事項を書き留める帳面 名簿・帳簿・簿冊
掲	ケイ かかげる	高く示す／広く示す 掲示・掲載・掲揚	誰	だれ	人をたずねる 誰何・誰・誰彼
吐	ト はく	口から出す／心を述べる 吐露・吐息・吐出	諧	カイ	調和する／おどけ 諧謔・俳諧・和諧

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
兆	チョウ きざす きざし	前触れ／非常に大きな数 兆候・吉兆・一兆	叙	ジョ	順に述べる／位を授ける 叙述・叙景・叙勲
筆	ヒツ ふで	書く道具／書きぶり 筆致・筆者・加筆	嘱	ショク	仕事を頼み任せる 委嘱・嘱託・遺嘱
弁	ベン	話す／区別する／花びら 弁明・答弁・弁別	喩	ユ たとえる	別のものにたとえる 比喩・暗喩・直喩
描	ビョウ えがく かく	形や様子をかく 描写・素描・描線	罵	バ ののしる	激しい言葉で責める 罵倒・罵声・痛罵
叱	シツ しかる	過ちなどを強くとがめる 叱責・叱る・叱咤	韻	イン	音の響き／詩の音の規則 韻律・押韻・余韻
但	ただし	前の内容へ条件などを添える 但し書き・但し・但書	諭	ユ さとす	道理を言い聞かせる 説諭・諭す・教諭

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「辞意」に合うものを選びなさい。
ア　職や役目を辞めようとする意思　　イ　辞書の中の全ての意味
ウ　自分をある立場だと名乗ること　　エ　役目を依頼する正式な文書

(2)「自称」に合うものを選びなさい。
ア　相手から正式に任命されること　　イ　全員が同じ名を認めること
ウ　自分である名や立場を名乗ること　　エ　相手の行為を強く責めること

(3)「吐露」に合うものを選びなさい。
ア　分からない部分を隠すこと　　イ　胸に秘めた思いや気持ちを打ち明けること
ウ　相手の話を一字ずつ写すこと　　エ　話を必ず冗談にすること

(4)「詳述」に合うものを選びなさい。
ア　見出しだけを示すこと　　イ　相手の名前を尋ねること
ウ　何も話さずに終えること　　エ　内容を細かな点まで述べること

(5)「誰何」に合うものを選びなさい。
ア　相手が誰かを問いただすこと　　イ　全員の意見を肯定すること
ウ　言葉の音をそろえること　　エ　自分の過ちを打ち明けること

(6)「諧謔」に合うものを選びなさい。
ア　全ての人を罵ることだけ　　イ　機知のあるおどけや冗談
ウ　何も言わず相手に従うこと　　エ　正式な命令の名称だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　兆候　掲示　描写　名簿　辞意　説諭　諧謔
詳述　弁明　自称　叱責　誰何　吐息　筆致

文	解答	文	解答
(1) 役を辞めたい □□を伝える。		(8) 気の利いた □□を交えて話す。	
(2) 本人が研究家を □□している。		(9) 変化の前触れの □□を見つける。	
(3) 会の案内を □□する。		(10) 穏やかな □□の手紙を読む。	
(4) ほっとして □□を漏らした。		(11) 自分の判断の理由を □□する。	
(5) 経過を細かく □□する。		(12) 光の様子を □□する。	
(6) 参加者の □□を作る。		(13) 過ちを厳しく □□されたと書く。	
(7) 門番が相手を □□する場面だ。		(14) 相手へ道理を説く □□という語を読む。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「吐露」と「弁明」に合うものを選びなさい。

不安を吐露したあと、案内の一行を省いた理由を弁明した。

ア　どちらも他人を罵ることだ。
イ　どちらも省略を正当化できた証拠だ。
ウ　胸の内を示すことと、判断の理由を説明することを分けた。
エ　不安を話せば理由は説明しなくてよい。

（2）この「叱責」と「罵倒」に合うものを選びなさい。

一行を省いた行為への叱責と、相手への悪口による罵倒を分けて記した。

ア　声が大きければ必ず同じだ。
イ　叱責と呼べばどんな言葉も適切だ。
ウ　罵倒は文字で行う場合には使えない。
エ　過ちを責めることと、悪口でののしることを読み分けた。

（3）この「叙述」と「描写」に合うものを選びなさい。

会の経過を叙述し、窓に映る夕日の色も描写した。

ア　経過を述べることと、様子を具体的に表すことがある。
イ　前だけが必ず事実で、後ろは必ず虚構だ。
ウ　二つの働きは一つの文章では使えない。
エ　後ろには色や形を書いてはいけない。

（4）この「説諭」と「委嘱」に合うものを選びなさい。

事情を説明して説諭したあと、次の案内の制作を委嘱した。

ア　どちらも同じ仕事を辞めさせる。
イ　道理を伝えることと、仕事を頼み任せることを分けた。
ウ　説明したので本人は必ず引き受けた。
エ　仕事を頼むと事情の説明は不要になる。

（5）「但し書き」を使い、本文へどんな条件を添えたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「吐露」を使い、秘めていた気持ちを話す場面を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 分からない語を**ジショ**で調べる。	
(2) すばらしい演奏を**ショウサン**する。	
(3) 入口に旗を**カカゲル**。	
(4) ゆっくり息を**ハク**。	
(5) 出来事の**ショウサイ**を尋ねた。	
(6) 金銭の出入りを**チョウボ**に記す。	
(7) 街角で**ダレカレ**かまわず話しかけた。	
(8) 案内の制作を**イショク**された。	
(9) 新しい動きが**キザス**場面を描く。	
(10) 聞いた内容をノートへ**ヒッキ**する。	
(11) 別のものにたとえる**ヒユ**を使う。	
(12) 悪口でののしることを**バトウ**という。	
(13) 物語で、部下を大声で**シッタ**する場面を読む。	
(14) 詩の音の調子である**インリツ**を味わう。	
(15) 出来事の経過を**ジョジュツ**する。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 弁舌	(17) 描線	(18) 掲揚	(19) 嘱望	(20) 諧調

この回を終えたら もう一度確かめる

「どうぞ」は、何についての、どんな条件の返事でしょうか。
語調だけでなく、前の問いと後ろの一行も読みましょう。

七　文章の中で考えよう

どうぞの先の一行

「後ろの一行も読んでください。」作家の葉山さんから来た手紙を、私は机へ置いた。穏やかな筆致なのに、返事を書き出せない。町の読書会への招待と作品の朗読を相談し、返書の「どうぞ」だけを見て、もう案内を掲示してしまったのだ。

「誰でも参加できます。作品の朗読も自由です」。自分で書いた二行を、元の返書の隣へ並べた。参加者の名簿を作るのに急いで、但し書きは省いていた。

返書には「どうぞお使いください。但し、朗読する箇所は先に知らせてください」とある。会で本を読む相談への返答だ。誰が来場してもよいことと、どの部分も自由に読めることは、同じではなかった。

葉山さんは自称「紙の船の船長」だという。弟は入口で船長を誰何するせりふまで考えた。返書にも諧謔がある。「船長は泳げませんから、紙を沈めないで」。私は笑い、その先の条件まで冗談のように軽く読んでいた。

先生へ事情を詳述すると、省いたことへの叱責があった。こんな間違いをする人間は駄目だ、と罵倒する言葉ではない。返事を短く写す時も、何への答えかを残そうと諭された。私は忙しさを弁明したあと、断られるのが怖かったと吐露した。

読む場面は、登場人物が辞意を伝える直前に決まった。前後を省くと、ただ立ち去ったように聞こえる。動きを叙述する部分と、窓の明るさを描写する部分を読み直す。別れの兆候なのか、新しい出発の比喩なのか。会で話したい問いを、紙の余白へ書いた。

その箇所でよいという返事が来た。末尾には次の会の案内もお願いしたい、と委嘱がある。うれしかったが、今度はすぐ了承しない。仕上げる日と載せる内容を、先に相談する返事を書いた。封筒には、弟が小さな船を一つ描いた。

当日、朗読のあとの余韻は静かだった。船長の呼び名に笑った人も、最後の人物の気持ちで考え込む人もいる。新しい掲示には、読む箇所と会の問いを並べた。一行を残しても、話せることまで小さくはならなかった。

片付けの時、弟が入口の船の絵を外した。折ってもいいかな、と私に尋ねる。私は、誰に渡す船なの、と聞き返した。

人物・作品・会の条件は創作です。実際の作品利用や契約の手続を説明するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

返事が何への答えかと、添えられた条件を確かめて答えなさい。

（1）本文から、文章を声に出して読むことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）返事として書く手紙を表す「ヘンショ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）最初の返書が示す条件として合うものを選びなさい。

ア　どの箇所も連絡せず自由に読んでよい。
イ　朗読する箇所を先に知らせる必要がある。
ウ　名簿の最初の一人だけが来場できる。
エ　会で作品について話してはいけない。

（4）次の案内の委嘱への「私」の返答に合うものを選びなさい。

ア　前の間違いを隠して、無条件で了承した。
イ　今後は一切仕事を引き受けないと断った。
ウ　委嘱を辞任の命令と読んで役を辞めた。
エ　仕上げる日と内容を先に相談しようとした。

（5）「私」が条件も軽く読んだ理由と、読み直す必要を、
返書の語調と但し書きの内容を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）案内の変化を、「返事」「条件」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
最初の読み落としと、最後に示した内容を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第六回　言外の意味と応酬

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　辞めたいという意思。表明しただけで辞任が完了したとは限らない。
（2）ウ　名乗る主体は本人。肩書の裏付けがあるかは別に確かめる。
（3）イ　内にあった気持ちを外へ示す。責任の理由を説明する弁明とは働きが違う。
（4）エ　詳しく述べること。詳しい文章なら必ず正しい、という意味ではない。
（5）ア　相手が何者かを問う語で、「すいか」と読む。誰彼は「だれかれ」。
（6）イ　気の利いた冗談やおどけ。冗談なら相手が傷つかないと決まるわけではない。

四　熟語を広げよう

（1）辞意　（2）自称　（3）掲示　（4）吐息　（5）詳述
（6）名簿　（7）誰何　（8）諧謔　（9）兆候　（10）筆致
（11）弁明　（12）描写　（13）叱責　（14）説諭
（4）吐息は口から吐く息。吐露は胸の内を打ち明けること。（14）説諭は道理を言い聞かせること。「諭」は第一冊第十回からの再会字。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　気持ちの開示と理由の説明は別の働き。弁明が納得されたかも別に読む。
（2）エ　何をどう責めたかを見る。叱責だから正当・適切だと一律に認める説明ではない。
（3）ア　文章中で働きが重なることもある。事実か創作かという違いとは別である。
（4）イ　働きかけの目的が異なる。相手が納得したか、引き受けたかは返答から読む。

五　自分で書く問題

（5）解答例

絵は自由に見られると書き、写真撮影はできないと但し書きを添えた。

☆自分で確かめる点　前の内容と、補う条件や例外が分かるか。

（6）解答例

私は初めて会を任される不安を友人に吐露し、一緒に準備を確かめた。

☆自分で確かめる点　胸の内から示した考えや感情が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）辞書　（2）称賛　（3）掲げる　（4）吐く　（5）詳細
（6）帳簿　（7）誰彼　（8）委嘱　（9）兆す　（10）筆記
（11）比喩　（12）罵倒　（13）叱咤　（14）韻律　（15）叙述
（16）べんぜつ　（17）びょうせん　（18）けいよう　（19）しょくぼう　（20）かいちょう
（3）（4）（9）は送り仮名も書く。（7）誰彼は「だれかれ」。（8）は委嘱、（13）は叱咤、（14）は韻律。（16）弁舌は話しぶり。（19）嘱望は期待をかけること。（20）諧調は調和した調子。

七　文章の中で考えよう

（1）朗読　文章を声に出して読むこと。返書には、会で読む箇所を先に知らせる条件があった。
（2）返書　返事として書く手紙。前の相談と、それに答えた返書の条件を一緒に読み直している。
（3）イ　どうぞ、という返事にも、先に箇所を知らせる条件が続く。
（4）エ　うれしさはあるが、日と内容を相談する返事を選んだ。

七　記述問題の考え方

（5）　返書を読み直す必要 45〜55 字

（5）解答例　51 字

穏やかな筆致や冗談につられて軽く読んだが、朗読する箇所を先に知らせる条件は、柔らかい語調でも残るから。

（5）別解例　53 字

諧謔を交えた穏やかな返書でも、朗読箇所を先に知らせる但し書きがあり、冗談のように条件まで軽く扱えないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 穏やかな語調や諧謔を軽く読んだことを示したか。
② 先に朗読箇所を知らせる条件を結んだか。
③ 葉山さんの全ての言葉が冗談、とはしていないか。

語調を本心の反対と一律に読む問題ではない。文に実際に書かれた条件を確認する。

（6）　案内の変化 70〜90 字

（6）解答例　87 字

私はどうぞという返事だけを見て、朗読は自由と案内しました。先に箇所を知らせる条件を読み落としていたのです。読み直して相談し、最後の掲示には朗読箇所と話したい問いを並べました。

（6）別解例　88 字

最初の案内は、穏やかな返事の但し書きを省き、作品の朗読を自由だとしていました。私は先に箇所を知らせる条件を確かめ直し、相談して読む場面を決め、会の問いも新しい掲示に加えました。

☆（6）自分で確かめる点

①「返事」「条件」を使ったか。
② 読み落とした内容と、相談後の掲示を結んだか。
③ 全ての作品を自由に使えるという話へ広げていないか。

一行を残したことで、読んだり話したりする範囲が明確になった。その会で決めた条件として読む。

漢字から文章へ 第六冊

第七回

概念と論証

古い写真に、屋根より大きな竜がいます。
祖母は「あの竜は怖かった」と言いました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

単	覚	超	凡
一つ 簡素	感じる 気づく	限りをこえる	普通 全て
釈	偽	範	稽
意味を解く 放す	いつわる にせ	手本 広がり	考え合わせる

いっしょに覚える漢字

拾	割	又	幻	弥	妄
采	彰	薦	瞭	艶	曖

この回で読むお話

竜がいない写真

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
単	タン	一つ／簡素 単純・単位・単独	釈	シャク	意味を解き明かす／放す 解釈・釈明・注釈
覚	カク おぼえる さます さめる	感じ取る／意識する 知覚・自覚・感覚	偽	ギ いつわる にせ	いつわる／本物でない 虚偽・偽造・偽証
超	チョウ こえる こす	限界を越える 超越・超過・超然	範	ハン	手本／限られた広がり 範囲・規範・模範
凡	ボン ハン	普通／全て／おおよそ 平凡・非凡・凡例	稽	ケイ	考え合わせる／とどめる 稽古・滑稽・荒唐無稽

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
拾	シュウ ジュウ ひろう	落ちたものを取る／補う 拾遺・拾得・拾う	采	サイ	選び取る／姿や色どり 喝采・風采・采配
割	カツ わる わり われる さく	分ける／割合 割合・分割・割当	彰	ショウ	明らかにする／表す 顕彰・表彰・彰徳
又	また	さらに／二者から選ぶ 又は・又聞き・又とない	薦	セン すすめる	よいとして人に勧める 推薦・自薦・薦める
幻	ゲン まぼろし	実在しないように見えるもの 幻想・幻影・幻覚	瞭	リョウ	はっきり見える 明瞭・一目瞭然・瞭然
弥	や いや ビ ミ	ますます／広く行き渡る 弥生・弥増す・弥栄	艶	エン つや	つや／なまめかしい美しさ 艶麗・光艶・艶やか
妄	モウ ボウ	根拠なくみだり 妄想・妄言・妄信	曖	アイ	はっきりしない 曖昧・曖昧さ・曖昧模糊

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

（1）仕組みが「単純」なものを選びなさい。
ア　美しいので全員が好きな絵　　イ　部品が少ない構造の模型
ウ　細部まで正しい記録　　エ　必ず説明なしで分かる装置

（2）「自覚」に合うものを選びなさい。
ア　自分の思い込みに気づく。　　イ　他人の名を勝手に変える。
ウ　写真の枚数だけを数える。　　エ　全ての感覚を失う。

（3）本の「凡例」を読む目的を選びなさい。
ア　登場人物の優劣を決める。　　イ　作者の顔を見分ける。
ウ　記号や表記の決まりを知る。　　エ　普通の例だけを探し出す。

（4）この「解釈」に合うものを選びなさい。
ア　字の大きさだけを測る。　　イ　うそをわざと証言する。
ウ　全ての読みを禁止する。　　エ　文章の意味を考えて理解する。

（5）「範囲」を確かめる問いを選びなさい。
ア　写真は何色の額に入るか。　　イ　どこまでが調べた区域か。
ウ　誰の話し方が好きか。　　エ　期待はどれほど強いか。

（6）「虚偽」に合うものを選びなさい。
ア　まだ意味を決められないこと全て　　イ　見た人の感想全て
ウ　うそや、事実でない内容　　エ　仕組みが少ないこと

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　拾遺　超越　幻想　偽証　単純　妄想　稽古
釈明　又は　知覚　弥増す　模範　凡例　割合

文	解答	文	解答
（1）仕組みの少ない □□な模型だ。		（8）毎週、芝居の □□に通う。	
（2）音や光を □□する働きを学ぶ。		（9）本編から漏れた話を □□としてまとめる。	
（3）時代の枠を □□する物語だ。		（10）全体に占める □□を求める。	
（4）記号の意味を □□で確かめる。		（11）郵送□□持参の どちらかを選ぶ。	
（5）誤解された事情を □□する。		（12）空想の世界の □□を味わう。	
（6）わざとうその □□をした人物だ。		（13）期待はますます □□□ばかりだ。	
（7）手本となる □□を示す。		（14）根拠のない □□を確かな事実としない。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「単純」と「明瞭」に合うものを選びなさい。

模型の構造は複雑だったが、説明で部品の役割は明瞭になった。

ア　複雑な物は絶対に説明できない。
イ　明瞭なら部品は必ず一個だ。
ウ　明瞭は色が明るい場合だけだ。
エ　仕組みの少なさと、はっきり分かることは別だ。

（2）この「事実」と「解釈」に合うものを選びなさい。

写真には竜が写り、私は町を襲った竜だと解釈した。

ア　写るものと、そこから考えた出来事を分ける。
イ　写真にあれば考えた全てが事実だ。
ウ　解釈という語があれば必ずうそだ。
エ　写真から考えてはいけない。

（3）この「幻想」と「妄想」に合うものを選びなさい。

幻想の世界を描いた絵を見て、誰かが私を狙う証拠だと根拠なく妄想した。

ア　絵に描かれた出来事は、現実にも起きたといえる。
イ　想像の表現と、根拠なく思い込むことを読む。
ウ　どちらも必ず美しい内容だ。
エ　この二語は使う人の年齢で分かれる。

（4）この「顕彰」と「推薦」に合うものを選びなさい。

町の劇を支えた人を顕彰し、別の人を次の代表に推薦した。

ア　どちらも同じ人を罰した。
イ　死者か生者かだけで使い分けた。
ウ　功績を知らせたたえることと、候補として勧めることだ。
エ　推薦すれば代表への就任が完了する。

（5）「範囲」を使い、どこまで調べたかが分かる文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「解釈」を使い、何をどのように読んだかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 長さを測る**タンイ**をそろえる。	
(2) 自分の思い込みを**ジカク**した。	
(3) 決めた人数を**チョウカ**したと記す。	
(4) 普通とは違う優れた**ヒボン**な才能に驚く。	
(5) 事実でない**キョギ**の内容を訂正する。	
(6) 紙を四つに**ブンカツ**する。	
(7) 本人からでなく**マタギキ**した話だ。	
(8) 実体のない姿を**ゲンエイ**として描く。	
(9) 三月を**ヤヨイ**とも呼ぶ。	
(10) 客席から大きな**カッサイ**が起きた。	
(11) 町の劇を支えた人を**ケンショウ**する。	
(12) 次の代表の候補を**スイセン**する。	
(13) 説明がはっきりして**メイリョウ**になった。	
(14) 舞台に映える**エンレイ**な衣装を描く。	
(15) 返答ははっきりせず**アイマイ**だった。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 覚悟	(17) 超然	(18) 平凡	(19) 拾得	(20) 割愛

この回を終えたら もう一度確かめる

写真の中に見えることと、その場で起きたことは同じでしょうか。
思い出の言葉も、何を語っているか確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

竜がいない写真

「あの竜は怖かったよ。」祖母が箱から出した写真には、屋根より大きな竜がいた。町の古い芝居を紹介する紙に、私は「昔、この町に巨大な竜がいた」と書いた。平凡な町にそんな過去があったのか。祖母の言葉で、期待は弥増した。

角には艶があり、家の上へ長い首が伸びている。姿は明瞭だった。地図の凡例を読んだ時のように、何を写したかまで分かった気がした。祖父は、写っている範囲だけで大きさが分かるか、と聞く。私は背景の家を本物だと単純に考えていた。

別の封筒には「稽古」とある。同じ竜の横で、人が紙の家を片手で持っていた。前の写真では、人も舞台の端も切れている。大きさの割合が途中で変わったのではなかった。町の屋根を超える竜、という私の解釈は直さなくてはならない。

家は、こんなに軽かったのか。

祖母は、人形だと知って見ていたと言った。それでも客席で首が近づくと、本当に怖かったという。私はその感覚を、実物の竜を見た証言にしていた。読み違いを自覚しても、祖母が偽りを話したことにはならない。祖母は写真の端をそっと押さえた。

古い劇団の拾遺集には、首を動かす人を顕彰した記事がある。再演を代表者へ推薦したくなった。記事には喝采の様子も書かれていた。けれど、それを町に竜が生きていた証拠にはできない。写真の裏には、役名が小さく並んでいた。

友人は、では全部が無稽な話なのかと尋ねた。芝居があったことまで消えない。又聞きの噂を足し、今も川底に眠ると妄想を広げるのでもない。幻想を楽しむことと、現実に確かめたことを、同じ欄へ書こうとしていたのだ。

紹介には、写真で確かめた舞台の人形と、祖母の思い出を別の段落に書いた。舞台があった場所はまだ曖昧で、作った人にも尋ねたい。題名は「竜がいない写真」にした。

祖母は題を見て笑い、暗い客席で待った時間の話を始めた。幕が開く前に、隣の人が飴を一つくれたそうだ。竜の正体が分かっても、聞きたい話は減らなかった。

写真・芝居・人物は創作です。実在の伝承や写真資料を説明するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

写真で確かめたことと、祖母の言葉の意味を結びつけて答えなさい。

（1）本文から、芝居で動かしていた、人物や動物の姿に似せた物を表す語を、
漢字二字で抜き出しなさい。

（2）芝居などを演じる場所を表す「ブタイ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）二枚目の写真から分かったことを選びなさい。

ア　竜は町で生まれ、川へ帰った。
イ　前の写真の竜だけが後から小さくなった。
ウ　同じ竜と、手に持てる紙の家が舞台にあった。
エ　祖母は一度も芝居を見ていない。

（4）祖母の「怖かった」という話の扱いに合うものを選びなさい。

ア　実物の竜を見たという確かな証言だ。
イ　人形と知って見た芝居での感覚として読む。
ウ　怖かったなら、芝居はなかったと分かる。
エ　私が読み違えたので、祖母の話は全部うそだ。

（5）「昔、この町に巨大な竜がいた」という説明を直す理由を、
写真と祖母の話を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）最後の紹介文の作り方を、「写真」「思い出」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
消したことと、残して聞こうとすることを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第七回　概念と論証

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　要素や仕組みが少ないこと。正しさや分かりやすさとは別に確かめる。
（2）ア　自分の状態や立場などに気づくこと。知覚は外の様子を感じ取る働き。
（3）ウ　本や図表の使い方、表記などの決まりを示すもの。「はんれい」と読む。
（4）エ　意味を考え取ること。根拠を示せても、別の読みが必ずなくなるわけではない。
（5）イ　物事が及ぶ広がりや限り。結論がどこまで言えるかを示す際にも使う。
（6）ウ　うそや事実と異なること。分からないことを、そのまま虚偽とはしない。

四　熟語を広げよう

（1）単純　（2）知覚　（3）超越　（4）凡例　（5）釈明
（6）偽証　（7）模範　（8）稽古　（9）拾遺　（10）割合
（11）又は　（12）幻想　（13）弥増す　（14）妄想

（5）釈明は事情などを説明して明らかにすること。（7）模範は手本。凡例は「はんれい」。幻想と妄想を、美醜だけで一律に分けない。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　要素が多くても、関係を分かるように説明できる。
（2）ア　写真に写ることだけでは、実物か模型か、どんな場面かまで決まらない。
（3）イ　ここでは表現された世界と、それを現実の証拠と思い込む働きを分ける。
（4）ウ　たたえる内容と、選出へ向けて勧めることを読み分ける。

五　自分で書く問題

（5）解答例

私は写真で確かめた範囲を地図へ記し、写らない川向こうは空白にした。

☆自分で確かめる点　調べた所と、そこに含めない所が分かるか。

（6）解答例

私は最後の沈黙を別れへの迷いと解釈し、前の会話を根拠に添えた。

☆自分で確かめる点　考えた意味と、その手がかりを示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）単位　（2）自覚　（3）超過　（4）非凡　（5）虚偽
（6）分割　（7）又聞き　（8）幻影　（9）弥生　（10）喝采
（11）顕彰　（12）推薦　（13）明瞭　（14）艶麗　（15）曖昧
（16）かくご　（17）ちょうぜん　（18）へいぼん　（19）しゅうとく　（20）かつあい

（4）非凡は普通より優れている様子。（7）は送り仮名を含めて又聞き。（9）は弥生、（10）は喝采。（11）顕彰は功績などを知らせ、たたえること。（14）艶麗はあでやかで美しい様子。（20）割愛は惜しみながら省くこと。

七　文章の中で考えよう

（1）人形　写真の竜の正体。祖母は人形だと知ったうえで、芝居では怖さを感じていた。
（2）舞台　芝居などを演じる場所。二枚目には、前の写真に写らなかった端や人も見える。
（3）ウ　人と紙の家が写り、舞台の人形だと確かめられた。
（4）イ　怖さの思い出は、実物の竜の存在を証明する話ではない。

七　記述問題の考え方

（5）　説明を直す理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

写真の竜は紙の家と並ぶ舞台の人形で、祖母の怖さも芝居での感覚であり、実在する竜の証拠にはならないから。

（5）別解例　52 字

人が家を持つ写真から舞台の人形と分かり、祖母も人形と知って怖がったため、実物の竜がいたとはいえないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 写真が舞台の人形を写したことを示したか。
② 祖母の怖さを、芝居での感覚として結んだか。
③ 芝居や祖母の思い出までうそとしていないか。

間違っていたのは、写真や言葉から私が広げた結論である。

（6）　紹介文の作り方 70〜90 字

（6）解答例　86 字

私は巨大な竜が町にいたという説明を直し、写真で確かめた舞台の人形と、怖かったという祖母の思い出を別の段落に書きました。芝居まで否定せず、作った人や祖母の話も聞こうとします。

（6）別解例　86 字

写真の竜は舞台の人形でしたが、祖母が怖かったと感じた思い出は消えません。私は実在する竜の証拠とは書かず、確かめたことと体験の話を分け、まだ知らない舞台の話を聞こうとします。

☆（6）自分で確かめる点

①「写真」「思い出」を使ったか。
② 実在の竜という結論の訂正と、思い出の区別を示したか。
③ 正体が分かったので話を聞く価値もないとしていないか。

結論を狭めても、物語や体験への関心まで狭くする必要はない。

漢字から文章へ 第六冊

第八回

作用・制御・逸脱

手紙は、三人の配達係を通りました。
けれど届いたのは、受取人の返事ではありません。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

落	飛	過	抜
下へ移る 抜ける	空中を進む	通りこす 度をこす	取り出す 省く
押	渉	還	逓
おす おさえる	渡る 関わる	もとへ戻る	順々に 次第に

いっしょに覚える漢字

登	抱	迅	斥	握	棄
挿	旋	罷	塞	遡	蹴

この回で読むお話

北の塔から戻った手紙

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
落	ラク おちる おとす	下へ移る／抜ける 落下・脱落・落差	押	オウ おす おさえる	力を加えて進める／とどめる 押圧・押収・後押し
飛	ヒ とぶ とばす	空中を進む／遠くへ移る 飛躍・飛行・飛散	渉	ショウ	水を渡る／関わる 交渉・渉外・干渉
過	カ すぎる すごす あやまつ あやまち	通り越す／度を越す 通過・過程・超過	還	カン	もとへ戻る／戻す 返還・還元・生還
抜	バツ ぬく ぬける ぬかす ぬかる	中から取り出す／省く 抜去・抜粋・選抜	逓	テイ	順々に送る／次第に 逓送・逓減・逓信

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
登	トウ ト のぼる	高い所へ上がる／記す 登攀・登載・登頂	挿	ソウ さす	間へ差し入れる 挿入・挿絵・挿話
抱	ホウ だく いだく かかえる	腕で囲む／心に持つ 抱持・抱負・抱擁	旋	セン	めぐる／向きを変える 旋回・旋律・旋風
迅	ジン	非常に速い 迅速・迅雷・迅速化	罷	ヒ	やめさせる／退く 罷免・罷業・罷る
斥	セキ	退ける／うかがう 排斥・斥候・指斥	塞	ソク サイ ふさぐ ふさがる	通り道を閉じる 閉塞・要塞・梗塞
握	アク にぎる	手に力を入れて持つ／支配する 握持・把握・握力	遡	ソ さかのぼる	流れや時間を逆にたどる 遡及・遡行・遡上
棄	キ すてる	捨てる／取り上げない 放棄・棄却・遺棄	蹴	シュウ ける	足で勢いよく押しやる 蹴球・一蹴・蹴る

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1) 手紙の「逓送」に合うものを選びなさい。
ア　必ず空を飛んで送る。　　イ　差出人が一人で持ち帰る。
ウ　中継して順々に送る。　　エ　紙から重要語を選ぶ。

(2) 本の「抜粋」に合うものを選びなさい。
ア　必要な部分を選んで取り出す。　　イ　全ての頁を同じ紙へ写す。
ウ　文字の意味を全て変える。　　エ　本を必ず捨てる。

(3) 「交渉」に合うものを選びなさい。
ア　全員が同じ考えを持つ証明　　イ　条件を一人で無断で決めること
ウ　相手の話を全く聞かないこと　　エ　条件などについて相手と話し合うこと

(4) 借りた器具の「返還」に合うものを選びなさい。
ア　別の器具に作り替える。　　イ　持ち主へ返す。
ウ　必ず売ってお金にする。　　エ　誰へも渡さず捨てる。

(5) 物事の「過程」を読む方法を選びなさい。
ア　最後の場所だけを確かめる。　　イ　人の好みだけで順を決める。
ウ　途中の動きや変化をたどる。　　エ　途中の記録を全て消す。

(6) 「排斥」に合うものを選びなさい。
ア　受け入れず、外へ退ける。　　イ　道の長さを測り直す。
ウ　人を抱いて迎える。　　エ　荷を順々に送る。

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　登攀　通過　排斥　交渉　落下　放棄　逓送
押圧　迅速　飛躍　握持　還元　抜去　抱持

文	解答	文	解答
(1) 棚から箱が □□した。		(8) 荷を中継して □□する。	
(2) 技術の大きな □□を振り返る。		(9) 岩壁を登る □□の場面を読む。	
(3) 駅を止まらず □□する。		(10) ある考えを □□した人物だ。	
(4) 差した棒を □□する。		(11) 知らせを受けて □□に対応した。	
(5) 物の表面を □□する力だ。		(12) 異なる考えを □□しない。	
(6) 条件をめぐって □□する。		(13) 道具を手で □□する。	
(7) 利益を地域へ □□する。		(14) 計画の □□を決める。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「通過」と「逸脱」に合うものを選びなさい。

予定の門を通過したが、その先で決めた道筋から逸脱した。

ア　門を通ったので道からは外れない。
イ　どちらも必ず配達の完了を示す。
ウ　逸脱は空を飛ぶ時だけだ。
エ　通った場所と、道筋から外れた動きを分ける。

（2）この「還元」と「返還」に合うものを選びなさい。

店は売上の一部を町へ還元し、借りた荷車を所有者へ返還した。

ア　得たものを役立て返すことと、借りた物を返すことだ。
イ　どちらも同じ荷車を売った。
ウ　町に還元すると荷車は返せない。
エ　返還は物の形を変える意味だけだ。

（3）この「閉塞」と「排斥」に合うものを選びなさい。

通路の閉塞を調べる際、異なる意見を排斥しないようにした。

ア　両方とも物理的な門の名前だ。
イ　道がふさがることと、意見を退けることを分ける。
ウ　閉塞すれば異論も必ずなくなる。
エ　どちらも荷を届け終えることだ。

（4）この「罷免」と「放棄」に合うものを選びなさい。

責任者は罷免されたが、担当者たちは配達の計画を放棄しなかった。

ア　責任者が自分の荷を捨てた。
イ　罷免なら全ての仕事が終わる。
ウ　役をやめさせる決定と、計画を捨てることは別だ。
エ　両方とも受取人の転居を指す。

（5）「過程」を使い、途中の記録を確かめる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「返還」を使い、何を誰へ返したかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 道に積もった**ラクヨウ**を絵に描く。	
(2) 空を進む鳥の**ヒコウ**を描く。	
(3) 今より前の**カコ**を振り返る。	
(4) 本から必要な部分を**バッスイ**する。	
(5) 相手の決断を**アトオシ**する。	
(6) 外部との連絡や交渉をする**ショウガイ**を担当する。	
(7) 鳩が空で一度**センカイ**した。	
(8) 量が次第に減ることを**テイゲン**という。	
(9) 記録の一覧へ名を**トウサイ**する。	
(10) 物語の場面を描いた**サシエ**を見る。	
(11) 物語で、責任者が役をやめさせられる**ヒメン**の場面を読む。	
(12) 通路がふさがる**ヘイソク**の原因を調べる。	
(13) 出来事の経緯を**ハアク**する。	
(14) 流れをさかのぼる**ソコウ**の場面を描く。	
(15) 提案をすぐに退ける**イッシュウ**という語を読む。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 飛翔	(17) 過失	(18) 抱負	(19) 握力	(20) 遺棄

この回を終えたら もう一度確かめる

最後に手紙を持った人だけで、届かない理由は決まりますか。
渡した相手と、確かめた内容も追いましょう。

七　文章の中で考えよう

北の塔から戻った手紙

戻った封筒を抱く鹿の絵を、私は長く見た。小さな国の郵便屋を描いた絵本だ。北の塔へ送った手紙が、差出人の祖母へ返ってきた。鹿は最後に荷を持ったので、途中で放棄したと疑われている。私は好きな鹿を、すぐかばいたくなった。

郵便屋は兎から鳩、鳩から鹿へと荷を逓送する。兎は山道を登り、封筒を鞄から抜いて渡す。迅速に飛ぶ鳩は風で一度旋回したが、決めた中継所を通過した。飛行の速さばかり追っていた私は、渡した相手を指でたどり直した。

次の挿絵では、鳩が手を振り、鹿が封筒を握っている。その先の門は倒れた枝で閉塞していた。押しても開かず、封筒が落下しそうになって抱き直す。蹴ればよいという兎の案には、門も手紙も傷めると答えた。封筒の角は、少し曲がっていた。

封筒を受け渡した記録

場面	渡した相手・その後
兎の山道	鳩へ渡した
鳩の飛行	中継所で鹿へ渡した
鹿の門前	門の札を読み、差出人へ戻した

鹿は枝の間に挿された札を読んだ。「工房は南の町へ移りました」。

受取人はもう塔にいない。登攀の名手を呼んで壁を越えても、会えないのだ。鹿は川を遡り、封筒を差出人へ返還した。戻ったことと、受取人への配達が終わったことは違う。私は最初の頁へ戻り、門の前の鹿をもう一度見た。

郵便屋の長は、鹿を罷免しようとした。祖母は、誰がどこへ渡したかを聞いてほしいと交渉する。手紙を届けたい気持ちまで捨てたわけではない。鹿の行動を調べることも、ほかの意見を排斥することとは違っていた。

長は決定を保留し、三人の記録を読み直した。鳩が風で回ったことを、経路からの逸脱とする飛躍もやめた。兎は案を一蹴されたと不満そうだ。祖母は、門を壊さない理由も聞こうと言った。

最後の頁で、鹿は新しい住所の封筒を受け取る。祖母の抱負は、返事をもらうことらしい。私は鹿が好きなだけで、全てを正しいとしたくもなかった。今度は途中で何を確かめ、誰に渡すのかを追おう。次の頁には、まだ受取人の顔が見えていなかった。

国・動物・郵便の仕組みは架空です。実際の配送や障害物への対処を案内するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

受け渡しと、鹿が門で確かめた内容を追って答えなさい。

（1）本文から、手紙などを入れる紙の袋を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）手紙などを送る相手の名前や住所を表す「アテサキ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）表と本文に合う受け渡しを選びなさい。

ア　兎から鳩、鳩から鹿、鹿から差出人へ渡った。
イ　兎が塔の受取人へ直接渡した。
ウ　鳩は封筒を持たずに中継所を通過した。
エ　鹿は門の中の受取人から返事をもらった。

（4）長の決定について本文に合うものを選びなさい。

ア　鹿の罷免を決定し、記録は捨てた。
イ　配達計画を永久に放棄した。
ウ　鹿は好きな動物なので調べないと決めた。
エ　罷免を保留し、三人の記録を読み直した。

（5）鹿が門を越える代わりに封筒を差出人へ返した理由を、
門の状態と札の内容を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）この配達の過程を、「受取人」「返還」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
戻ったことと、配達が終わったことを区別します。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第八回　作用・制御・逸脱

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　中継しながら送ること。速さや、配達が完了したことまでは含まない。
（2）ア　一部を選び出すこと。抜去は差した物などを抜き取る場合に使う。
（3）エ　相手と折り合いをつけようと話し合うこと。合意できたかは別に確かめる。
（4）イ　物や権利などを、もとの持ち主へ返すこと。
（5）ウ　結果に至る途中の道筋や段階。最後の状態だけで置き換えない。
（6）ア　人や考えなどを退けること。通り道が詰まる閉塞とは分けて読む。

四　熟語を広げよう

（1）落下　（2）飛躍　（3）通過　（4）抜去　（5）押圧
（6）交渉　（7）還元　（8）逓送　（9）登攀　（10）抱持
（11）迅速　（12）排斥　（13）握持　（14）放棄
（11）迅速は素早い様子。逓送は中継して送ること。返還は、もとの持ち主へ返すこと。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　一地点を通ることと、定めた道筋から外れることは別である。
（2）ア　この文で何をどこへ戻したかを確かめる。還元には元の形へ戻す意味もある。
（3）イ　進めない状態と、受け入れず退ける働きを読み分ける。
（4）ウ　人の地位についての決定と、計画を続けるかどうかを分ける。

五　自分で書く問題

（5）解答例

私は箱が届くまでの過程を記録でたどり、途中で担当が替わったと知った。

☆自分で確かめる点　結果だけでなく、そこまでの道筋が分かるか。

（6）解答例

公演後、借りた古い封筒を祖母へ返還し、挟まれた写真の話も聞いた。

☆自分で確かめる点　返した物と、もとの持ち主が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）落葉　（2）飛行　（3）過去　（4）抜粋　（5）後押し
（6）渉外　（7）旋回　（8）逓減　（9）登載　（10）挿絵
（11）罷免　（12）閉塞　（13）把握　（14）遡行　（15）一蹴
（16）ひしょう　（17）かしつ　（18）ほうふ　（19）あくりょく　（20）いき

（5）（10）は送り仮名も書く。（6）渉外は外部との連絡・交渉など。（11）罷免は役をやめさせること。（12）閉塞はふさがること。（14）遡行はさかのぼって進むこと。（15）一蹴には、提案などをすぐ退ける意味もある。

七　文章の中で考えよう

（1）封筒　手紙などを入れる紙の袋。絵と記録を照らし、誰から誰へ渡ったかを追う。
（2）宛先　送る相手の名前や住所など。最後には新しい住所の封筒を受け取っている。
（3）ア　鳩から鹿への受け渡しも絵と記録にある。
（4）エ　疑いだけで役をやめさせず、決定を保留した。

七　記述問題の考え方

（5）　封筒を返した理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

門は枝でふさがれ、札から受取人の工房が南の町へ移ったと分かり、壁を越えても相手に会えないと知ったから。

（5）別解例　49 字

枝で閉じた門の札に工房の転居が記され、塔へ入る方法だけ変えても受取人へ届けられないと分かったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 門が枝でふさがっていたことを示したか。
② 札にある転居を、越えても会えない理由に結んだか。
③ 鹿が配達を嫌って捨てた話にしていないか。

動けるかどうかだけでなく、その先に相手がいるかを読む。

（6）　配達の過程 70〜90 字

（6）解答例　83 字

封筒は兎から鳩、鳩から鹿へ渡りました。鹿は門の札で受取人の工房が移ったと知り、封筒を差出人へ返還しました。配達は終わっておらず、最後は新しい住所の封筒を受け取ります。

（6）別解例　85 字

鹿は受取人のいない塔へ無理に入らず、兎と鳩が中継した封筒を差出人へ返還しました。手紙を届けたい思いまで放棄したのでなく、新しい住所の封筒を受け取り、次の配達に向かいます。

☆（6）自分で確かめる点

①「受取人」「返還」を使ったか。
② 中継、転居の確認、差出人への返還を結んだか。
③ 受取人へ届いた、返事が来たとしていないか。

最後に持った人の姿だけでなく、そこまでの受け渡しを追う。

漢字から文章へ 第六冊

第九回

微細な変容を捉える

久しぶりの池は、小さな水たまりでした。
昨日の暑さで、一度に変わったのでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

拒	募	緒	猛
受け入れず退ける	広く集める 強まる	糸口 始まり	勢いが強い

淡	殖	燥	窮
色や味が薄い	生物などが増える	水分がなくなる	行き詰まる 極まる

いっしょに覚える漢字

軽	卒	余	圧	充	徐
騒	弊	矯	墾	潰	化

この回で読むお話

一夜で消えた池

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
拒	キョ こばむ	受け入れず退ける 拒否・拒絶・拒む	淡	タン あわい	色や味が薄い／執着が少ない 淡色・濃淡・淡水
募	ボ つのる	広く集める／強まる 公募・募集・募る	殖	ショク ふえる ふやす	生物や財が増える 繁殖・増殖・生殖
緒	ショ チョ お	糸口／始まり 端緒・情緒・由緒	燥	ソウ	水分がなく乾く 乾燥・焦燥・乾燥地
猛	モウ	勢いが非常に強い 猛暑・猛烈・猛威	窮	キュウ きわめる きわまる	行き詰まる／極まる 窮乏・困窮・窮地

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
軽	ケイ かるい かろやか	重さや程度が小さい 軽微・軽量・軽快	騒	ソウ さわぐ	騒がしく落ち着かない 騒然・騒音・騒動
卒	ソツ	終える／急に／下級の兵 卒業・卒然・兵卒	弊	ヘイ	害／疲れる／古びる 弊害・疲弊・旧弊
余	ヨ あまる あます	残り／必要以上 余剰・余地・余波	矯	キョウ ためる	曲がりや誤りを直す 矯正・矯める・矯風
圧	アツ	押さえつける力 圧縮・気圧・圧迫	墾	コン	荒れ地を切り開く 開墾・墾田・未墾地
充	ジュウ あてる	中を満たす 充足・充実・補充	潰	カイ つぶす つぶれる	形や組織を壊す 潰滅・倒潰・潰瘍
徐	ジョ	ゆっくり／少しずつ 徐々・徐行・緩徐	化	カ ケ ばける ばかす	別の状態になる／変える 変化・化学・文化

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「公募」に合うものを選びなさい。
ア　決まった一人だけに頼むこと　　イ　全員の参加を必ず認めること
ウ　応募した作品を全て捨てること　　エ　条件を示し一般から広く募ること

(2)「端緒」が指すものを選びなさい。
ア　全てが終わった結果だけ　　イ　物事が始まるきっかけや糸口
ウ　色の濃さの違いだけ　　エ　足りない物の総数

(3)「淡色」に合うものを選びなさい。
ア　薄い色　　イ　必ず古くなった色
ウ　水のない場所　　エ　全て同じ濃い色

(4)「乾燥」に着目する問いを選びなさい。
ア　誰がその絵を好きか。　　イ　作品は何枚あるか。
ウ　水分がどれほど失われたか。　　エ　誰に作品を渡すか。

(5)「徐々に変わる」に合うものを選びなさい。
ア　途中は全く変わらず一瞬で完成する。　　イ　少しずつ変わっていく。
ウ　必ず元の状態へ戻る。　　エ　必ずよい状態になる。

(6)「余剰」を確かめる方法を選びなさい。
ア　多そうに見える物を全て数える。　　イ　気に入らない物を全部捨てる。
ウ　残る物は必ず不要だとする。　　エ　必要な量と比べ、余る分を求める。

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　軽微　情緒　圧縮　繁殖　拒絶　徐行　窮乏
淡色　余剰　公募　充足　乾燥　猛暑　卒然

文	解答	文	解答
(1) 要求を受け入れず □□する。		(8) 生活の物が足りない □□を描く。	
(2) 作品を一般から □□する。		(9) わずかで □□な傷だった。	
(3) 港町の □□を味わう。		(10) 物音に驚き □□と立ち上がる。	
(4) 厳しい暑さの □□が続く。		(11) 必要量を超えた □□を確かめる。	
(5) 薄い色である □□を使う。		(12) 綿を押して □□する。	
(6) 鳥が子孫を残す □□を調べる。		(13) 必要な条件の □□を確かめる。	
(7) 紙から水分が失われ □□する。		(14) 車が住宅街を □□する。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「徐々」と「卒然」に合うものを選びなさい。

水面は徐々に狭まり、私はその写真を見て卒然と立ち上がった。

ア　どちらも必ず長い時間を要する。
イ　前はよい変化、後ろは悪い変化だ。
ウ　少しずつの変化と、急な動きを分ける。
エ　驚いたので、水面も一瞬で狭まった。

（2）この「繁殖」と「増殖」に合うものを選びなさい。

鳥の繁殖を観察した本の隣に、細胞の増殖を扱う本を置いた。

ア　前は子孫を残す働き、後ろは細胞が増えることだ。
イ　繁殖は鳥、増殖は植物にしか使えない。
ウ　二語の意味には一切重なりがない。
エ　どちらも色が薄くなることだ。

（3）この「拒絶」と「拒否」に合うものを選びなさい。

参加を拒絶した人と、申込みを拒否した人の事情を、それぞれ聞いた。

ア　前は必ず感情、後ろは必ず法律だ。
イ　受け入れない点は重なるが、対象と事情を読む。
ウ　二語のどちらかは必ず誤用だ。
エ　拒否した人に理由を聞くことはできない。

（4）この「圧縮」と「潰滅」に合うものを選びなさい。

綿を圧縮した作業と、軍が潰滅した物語の場面を比べた。

ア　どちらも同じ軍隊の名前だ。
イ　小さくなれば同じ変化である。
ウ　圧縮すれば必ず全ての機能が失われる。
エ　かさを小さくすることと、壊滅的な打撃を分ける。

（5）「端緒」を使い、何が何の始まりになったかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「徐々に」を使い、何がどう変わったかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 申出を受け入れず**キョヒ**する。	
(2) 参加する人を広く**ボシュウ**する。	
(3) 悪い影響として現れる**ヘイガイ**を調べる。	
(4) 物語に**モウレツ**な風の場面がある。	
(5) 墨の色の**ノウタン**を使い分ける。	
(6) 細胞が増える**ゾウショク**を本で学ぶ。	
(7) 返事を待つ間に**ショウソウ**を感じた。	
(8) 生活に**コンキュウ**する人の話を読む。	
(9) 周囲を騒がせる**ソウオン**を記録する。	
(10) 三月に学校を**ソツギョウ**する。	
(11) 考え直す**ヨチ**を残した。	
(12) 誤った数字を**キョウセイ**する。	
(13) 土地を切り開く**カイコン**の記録を読む。	
(14) 軍が壊滅的な打撃を受ける**カイメツ**の場面を物語で読む。	
(15) 写真を並べて水面の**ヘンカ**を比べる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 募金	(17) 淡泊	(18) 繁茂	(19) 軽快	(20) 補充

この回を終えたら もう一度確かめる

変化した時と、それに気づいた時は同じでしょうか。
写真に写らない時間も、分からない部分として残しましょう。

七　文章の中で考えよう

一夜で消えた池

池を撮ろうとしゃがみ、私は写真機を構えた。弟と作る卒業記念の写真帳へ、祖父の池を入れたかった。久しぶりの池は、小さな水たまりになっている。私は驚いて卒然と立ち上がった。弟は乾いた岸へ目をやった。

「昨日の猛暑で、一夜にして消えたんだ。」

気づいたのは今でも、変わった時まで昨日とは分からない。祖父は写真を公募し、集まった三枚が調べる端緒になった。六月一日は岸の石が水の中、十五日は根元が見え、七月一日は広い岸が出ている。少なくとも昨日より前にも、水面は狭まっていた。

日付のある三枚の写真

撮影日	写真で見える様子
六月一日	岸の大きな石が水の中
六月十五日	同じ石の根元が見える
七月一日	広い岸と小さな水面

私は水の濃淡にも印を付けた。淡色の所が増えたようでも、光や撮り方が違う。色だけで水質の変化まで確かめたとは書けない。藻の増殖や鳥の繁殖を扱う本も借りたが、数を測った記録とは別だ。弟は写真の隅の、ぼやけた羽を指した。

祖父の手帳には、近くの畑を開墾した頃の話と、乾燥した土を踏んで圧縮した記録がある。池への影響を疑う声はあっても、原因を一つに決める資料は足りない。知っていたら全部防げたのか、と弟が聞く。私は返事を探し、手帳を閉じなかった。

使わない写真は余剰として箱へ戻すつもりだった。けれど岸の違いが小さい一枚も、途中を知る手がかりになる。軽微に見える違いを省く弊害に気づいた。枚数をそろえて帳面を充実させるだけでなく、並べる理由が必要だった。

近所で池の再生の寄付を募ると、生活の窮乏を話して断る人もいた。場が騒然となりかけたが、協力の拒絶だと責める前に、何を受け入れられないかを聞いた。祖父は数字の誤りを矯正しても、その人の事情を都合よく言い換えなかった。

「池の潰滅」という見出しはやめた。今ある水面も、いないと決められない生き物もある。仮題は「一夜で消えた池」のまま、横へ「本当に？」と添えた。

写真の間には空白を残す。徐々に進んだ変化の毎日を、見たふりはしないためだ。弟が描きかけた雲は、その白い所の上で止まっていた。

池・写真・人物・調査は創作です。実際の生態変化の原因や環境対策を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

写真の順序と、写真だけでは決まらないことを分けて答えなさい。

（1）本文から、カメラで写した像を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）何も書かれていない所を表す「クウハク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）三枚の写真から確かめられることを選びなさい。

ア　昨日の一日だけで全て変わった。
イ　昨日より前の写真にも水面が狭まる様子がある。
ウ　開墾だけが原因だった。
エ　池の生き物は全ていなくなった。

（4）濃淡の扱いとして本文に合うものを選びなさい。

ア　薄く見えれば水質がよくなったと確定する。
イ　写真の色には一切意味がない。
ウ　三枚の撮り方も光も全く同じだった。
エ　撮り方や光の違いもあり、水質まで断定しない。

（5）岸の違いが小さい写真も残した理由を、
途中の変化と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）写真帳の作り方を、「変化」「空白」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
分かったことと、記録がない部分を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第九回　微細な変容を捉える

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）エ　広く募集すること。応募後に選考する場合もある。
（2）イ　物事の始まりや、解決などへ進む手がかり。
（3）ア　淡い色。薄い色である理由や、物の状態全てはこの語だけで決まらない。
（4）ウ　水分が減って乾くことに関わる語。どんな変化とも同じではない。
（5）イ　変化が少しずつ進む様子。変化のよしあしや回復の可否とは別である。
（6）エ　必要量を超えて余ること。何を必要とするかを先に確かめる。

四　熟語を広げよう

（1）拒絶　（2）公募　（3）情緒　（4）猛暑　（5）淡色
（6）繁殖　（7）乾燥　（8）窮乏　（9）軽微　（10）卒然
（11）余剰　（12）圧縮　（13）充足　（14）徐行

（3）情緒は、その物や場所から感じる独特の趣など。（10）卒然は突然。（14）徐行はゆっくり進むこと。「徐々に」は自作文で使う。「化」は第二冊第六回からの再会字。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　変わった物と、気づいた人の反応を同じ速度にしない。
（2）ア　ここで使う対象と過程を読む。語の使い分けを動物と植物だけで固定しない。
（3）イ　意味には重なりがある。二語だけで人物の気持ちや制度の適否を決めない。
（4）エ　変化の対象と、その後の状態を読む。元に戻せるかを語だけで一律に決めない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

机で見つけた古い写真が端緒となり、私は祖母が通った道を調べ始めた。

☆自分で確かめる点　きっかけと、そのあとに始まったことを示したか。

（6）解答例

重ねた色は徐々に濃くなり、最初に描いた細い枝が見えにくくなった。

☆自分で確かめる点　少しずつ進んだ変化の対象と方向が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）拒否　（2）募集　（3）弊害　（4）猛烈　（5）濃淡
（6）増殖　（7）焦燥　（8）困窮　（9）騒音　（10）卒業
（11）余地　（12）矯正　（13）開墾　（14）潰滅　（15）変化
（16）ぼきん　（17）たんぱく　（18）はんも　（19）けいかい　（20）ほじゅう

（3）弊害は悪い影響。（7）焦燥は焦り、いら立つ気持ち。（12）は矯正、（13）は開墾。（14）は配当の潰を使い、潰滅と書く。壊滅とも表記する。（17）淡泊は、あっさりしている様子など。

七　文章の中で考えよう

（1）写真　カメラで写した像。この三枚だけでは、間の全ての日の池の様子までは分からない。
（2）空白　何も書かれていない所。写真のない時間を、見たことのように埋めないために残した。
（3）イ　六月から七月の写真に水面の変化がある。
（4）エ　色の見え方だけで水質の変化まで決めていない。

七　記述問題の考え方

（5）　小さな違いの写真を残す理由 45〜55 字

（5）解答例　51 字

岸の違いが小さくても途中を知る手がかりになり、省くと変化の過程が抜け、一夜で変わったように見せるから。

（5）別解例　49 字

わずかな違いの一枚にも途中の変化があり、最初と最後だけでは分からない水面の狭まり方をたどれるから。

☆（5）自分で確かめる点

① 小さな違いにも途中の記録として意味があると示したか。
② 省いた場合に見えなくなる過程を結んだか。
③ 写真から全ての日の変化を知れるとしていないか。

小さい違いなら無意味、大きい違いなら十分という二択にしない。

（6）　写真帳の作り方 70〜90 字

（6）解答例　86 字

日付のある写真を並べ、昨日より前から水面が狭まった変化を示します。小さな違いも残し、写っていない日の分は空白にします。毎日の様子や原因、水質まで全て分かったとは書きません。

（6）別解例　87 字

私は途中の写真も残し、池の変化を一夜の出来事にしないようにしました。写真の間には空白を置き、記録のない日を見たふりはしません。色の違いだけで水質や原因も確定しない写真帳です。

☆（6）自分で確かめる点

①「変化」「空白」を使ったか。
② 途中の写真と、記録のない日を両方示したか。
③ 原因、水質、生き物の消滅まで確定していないか。

知らない時間を描き足さず、分かる範囲を示して次の問いを残す。

漢字から文章へ 第六冊

第十回

社会の陰影と秩序

「どなたでも」と書かれた人形芝居の案内。
けれど、空いた席から舞台が見えない人がいました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

井	福	座	系
水をくむ穴	幸い 暮らしの豊かさ	座る所 集まり	つながったまとまり

与	扶	堪	遭
あたえる 関わる	助け支える	こらえる すぐれる	思いがけず出会う

いっしょに覚える漢字

第	列	幼	俗	迭	圏
款	擁	蔑	騰	辣	闇

この回で読むお話

名札の外の二つの席

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
井	セイ ショウ い	水をくむ穴 井戸・油井・市井	与	ヨ あたえる	相手へ渡す／関わる 付与・関与・授与
福	フク	幸い／豊かさ 福祉・幸福・福利	扶	フ	助け支える 扶助・扶養・扶持
座	ザ すわる	座る場所／集まり 座次・座席・講座	堪	カン タン たえる	こらえる／すぐれる 堪忍・堪能・堪える
系	ケイ	つながったまとまり 系譜・体系・母系	遭	ソウ あう	思いがけず出会う 遭遇・遭難・遭う

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
第	ダイ	順序を示す 第一・次第・第三	款	カン	条項／まごころ 定款・条款・落款
列	レツ	一筋に並ぶ 列席・行列・序列	擁	ヨウ	抱く／かばい守る 擁護・抱擁・擁立
幼	ヨウ おさない	年が若い 幼少・幼児・幼年	蔑	ベツ さげすむ	価値が低いと見下す 蔑視・軽蔑・侮蔑
俗	ゾク	世間一般／洗練されない 俗習・風俗・世俗	騰	トウ	高く上がる 騰貴・高騰・沸騰
迭	テツ	代わる代わる／入れ替わる 更迭・交迭・迭立	辣	ラツ	辛い／厳しい 辛辣・辣腕・酸辣
圏	ケン	囲まれた範囲 圏内・生活圏・圏外	闇	アン やみ	光がない／隠された部分 暗闇・闇市・闇取引

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「市井」の人々に合うものを選びなさい。
ア　井戸を掘る職人だけ　　イ　一般の町の人々
ウ　国を治める君主だけ　　エ　舞台に上がる役者だけ

(2)「福祉」を考える問いを選びなさい。
ア　誰が最も古い名字か。　　イ　一番高い建物はどれか。
ウ　誰の字が美しいか。　　エ　暮らしをどう支えられるか。

(3)「座次」を確かめる問いを選びなさい。
ア　役割などによる座席の順はどうか。　　イ　会場まで何分かかるか。
ウ　人形は何色をしているか。　　エ　家の水はどこから来るか。

(4)「系譜」に合うものを選びなさい。
ア　町の店の価格一覧　　イ　作業の所要時間だけ
ウ　家族や学問などのつながりの筋道　　エ　物を入れる箱の大きさ

(5)「擁護」に合うものを選びなさい。
ア　相手の全ての行動を必ずほめる。　　イ　立場や権利などを支持して守る。
ウ　価格を引き上げる。　　エ　相手を低く見て笑う。

(6)「更迭」に合うものを選びなさい。
ア　品物の値段を下げること　　イ　同じ人が必ず続けること
ウ　手紙を他人へ見せること　　エ　ある職の人を別の人と入れ替えること

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　及第　座次　俗習　扶助　井戸　圏内　遭難
付与　幼少　福祉　更迭　堪忍　系譜　列席

文	解答	文	解答
(1) 広場の □□から水をくんだ。		(8) 旅の危険にあう □□を物語に描く。	
(2) 人の暮らしを □□の面から考える。		(9) 試験で □□点を取った。	
(3) 式の座席の順である □□を記す。		(10) 式に □□した人の名だ。	
(4) 師から弟子への □□をたどる。		(11) 祖父の □□の記憶を聞く。	
(5) 番号を参加者へ □□する。		(12) 世間に残る □□を調べる。	
(6) 生活を助ける □□を行う。		(13) 責任者の □□を発表する。	
(7) 怒りをこらえる □□という語を読む。		(14) 駅から歩ける □□を地図に示す。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「座次」と「行列」に合うものを選びなさい。

入口の行列に並んだ順と、家ごとの座次は一致していなかった。

ア　到着順なら家の地位も分かる。
イ　どちらも必ず同じ順番だ。
ウ　並ぶ列と、座席を割り当てる順を分けた。
エ　行列という語は室内では使えない。

（2）この「擁護」と「称賛」に合うものを選びなさい。

意見を言う立場を擁護したが、その発言を全て称賛したわけではない。

ア　発言できることを守るのと、内容をほめるのは別だ。
イ　守れば全ての内容が正しいと決まる。
ウ　称賛しなければ相手を蔑視したことになる。
エ　擁護は声が大きい人にしか使えない。

（3）この「騰貴」と「不足」に合うものを選びなさい。

木材の価格は騰貴したが、倉庫に何本あるかはまだ調べていない。

ア　高くなれば本数は必ずゼロだ。
イ　価格が上がったことだけでは、必要量の不足は決まらない。
ウ　足りない物の価格は必ず下がる。
エ　騰貴は木材には使えない。

（4）この「扶助」と「扶養」に合うものを選びなさい。

町の扶助の記録と、ある家族を扶養した人の手紙を読んだ。

ア　前は金銭、後ろは食べ物に限る。
イ　二語は同じ家族に同時に使えない。
ウ　扶養は一日だけ話を聞く意味だ。
エ　支援の仕組みと、家族などの生活を支える関わりを読む。

（5）「関与」を使い、誰が何に関わったかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「擁護」を使い、何を支えて守ったかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 町で暮らす**シセイ**の人々を描く。	
(2) 明かりのない**クラヤミ**の場面を描く。	
(3) 会場の**ザセキ**を確かめる。	
(4) 考えを一つの**タイケイ**にまとめる。	
(5) 賞状を受賞者へ**ジュヨ**する。	
(6) 家族の生活を**フヨウ**する。	
(7) 芝居を心ゆくまで**タンノウ**する。	
(8) 旅で珍しい鳥に**ソウグウ**する。	
(9) 相手を見下す**ベッシ**の態度を描く。	
(10) 入口に長い**ギョウレツ**ができた。	
(11) 祖父の**ヨウネン**期の記憶を聞く。	
(12) 昔の町の**フウゾク**を絵で調べる。	
(13) 物の価格が上がる**トウキ**を資料で読む。	
(14) 相手への**シンラツ**な批評を読んだ。	
(15) 法人の基本規則を定めた**テイカン**を読む。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 幸福	(17) 座右	(18) 扶持	(19) 圏外	(20) 落款

この回を終えたら もう一度確かめる

入場できることと、その場で楽しめることは同じでしょうか。
規則だけでなく、実際にどうなったかも読みましょう。

七　文章の中で考えよう

名札の外の二つの席

「ここから、何が見えるの？」開演前、旅の子が私に尋ねた。案内した席へ座ってみると、前の人の背中で舞台が隠れる。私は立ったまま、ここなら空いていると決めていたのだ。まだ幕は下りていて、子は膝の上で自分の指を動かしていた。

井戸の広場にある劇場で、私は案内係をした。町の福祉会も協力し、入場料は取らない。「どなたでも」を第一に大きく書いた札を配る途中、雨に遭った。紙の隅は少しにじんだが、入口の行列を見て、今年は多くの人に楽しんでもらえると思った。

席には古い座次がある。劇場を支えた家の系譜に従い、前から名札を置く俗習だ。幼少から来る祖母には自然でも、生活圏の外から来た親子は知らない。私は後ろの席へ通し、座る場所を付与したつもりでいた。

子は音だけでなく、人形の手を見たいと言った。入口で断られていなくても、同じように芝居を堪能できるわけではない。私は責任者へ席の変更を頼んだ。去年、前の責任者が更迭されても、席の決まりまで変わったのではなかった。

劇場の定款にある目的と、いつもの座次も同じではない。建物を支える扶助と、見える席の配分を分けて話す。名札を全部取ればよいという辛辣な声も出たが、祖母が前に座る理由も、私はまだ聞いていなかった。

旅人を知らないからと蔑視したくも、古い客を一度に邪魔者としたくもない。私は子の希望を擁護しながら、ほかの人にも尋ねた。係は親子と相談し、前の横に使える二席を確かめる。祖母は、そこなら手元が見えると話した。

木材の高騰で椅子を増やせなかった事情もある。けれど見えにくいままでよい理由にはならない。今回の二席は決まり、次回の配置は持ち越した。終演後の紙には、来た人数と、席から何が見えたかを残そう。

暗闇に人形の手が浮かぶ。子が笑い、祖母も少し身を乗り出した。来た人数だけでは残せないことがある。「どなたでも」を消すのでなく、その先を確かめたい。雨でにじんだ隅にも、まだ字を書く場所はあった。

劇場・団体・規則・人物は創作です。実在の制度や会場設計の手引きではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

案内の言葉と、実際の席からの見え方を結びつけて答えなさい。

（1）本文から、旅をして来た二人の関係を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）物や人を置く場所を決めて並べることを表す「ハイチ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）旅の子が実際に伝えた希望を選びなさい。

ア　人形の手も見たい。
イ　全員の名札を壊したい。
ウ　音だけ聞ければよい。
エ　来年まで町に住みたい。

（4）結末について本文に合うものを選びなさい。

ア　全ての人に最適な座次が永久に決まった。
イ　祖母は今回から一切入場できない。
ウ　今回の席を決め、次回の並べ方は持ち越した。
エ　入場の案内をやめ、人数だけを記録した。

（5）「私」が入場者数だけでなく見え方も記録しようとした理由を、
案内と子の席の様子を結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）「私」の案内の変化を、「座次」「希望」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
今回決めたことと、まだ残る課題を伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十回　社会の陰影と秩序

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）イ　町や世間で暮らす人々を表す。井という字だけで水をくむ人に限定しない。
（2）エ　人がよりよく暮らせることや、それを支える仕組みに関わる。
（3）ア　地位や役割などに応じた座席の順。どんな順がよいかは別の問いである。
（4）ウ　血筋だけでなく、学問や技術などの系統にも使う。
（5）イ　支えて守ること。守る立場と、個々の行為への評価は分けられる。
（6）エ　役職などの人を替えること。理由や、その人全体の評価は別に確かめる。

四　熟語を広げよう

（1）井戸　（2）福祉　（3）座次　（4）系譜　（5）付与
（6）扶助　（7）堪忍　（8）遭難　（9）及第　（10）列席
（11）幼少　（12）俗習　（13）更迭　（14）圏内

（9）及第は試験などに合格すること。及第点は合格できる点数など。扶助は助け支えること。堪能は、技能にすぐれる意味と十分満足する意味を文脈で読む。

五　似た語を使い分けよう

（1）ウ　列の並びの基準と、座席の順を決める基準を別に確かめる。
（2）ア　相手を守る働きと、行為や内容への評価を混同しない。
（3）イ　値段の変化と、必要な量がそろうかどうかは別の情報。
（4）エ　支える相手、内容、期間などを文から確かめる。一律の対象だけで分けない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

私は会場の席の配置に関与し、見えにくい所がないか友人と確かめた。

☆自分で確かめる点　関わった人と、その内容が分かるか。

（6）解答例

祖母は初めて来た人が意見を話す立場を擁護し、途中で遮らずに聞いた。

☆自分で確かめる点　守る立場や権利などを、具体的に示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）市井　（2）暗闇　（3）座席　（4）体系　（5）授与
（6）扶養　（7）堪能　（8）遭遇　（9）蔑視　（10）行列
（11）幼年　（12）風俗　（13）騰貴　（14）辛辣　（15）定款
（16）こうふく　（17）ざゆう・ざう　（18）ふち・ふじ　（19）けんがい　（20）らっかん

（1）市井は町や世間。（2）は暗闇。（7）の堪能は「たんのう」。（13）騰貴は価格が上がること。（14）辛辣は手厳しい様子。（17）座右は「ざゆう」「ざう」とも可。（18）扶持は「ふち」。助ける意味では「ふじ」とも読む。（20）落款は書画の署名や印。

七　文章の中で考えよう

（1）親子　親と子。本文の旅の親子のうち、子が人形の手も見たいと話している。
（2）配置　物や人をどこに置くか決めて並べること。今回は二席を変え、次回の配置は持ち越した。
（3）ア　音だけでなく、人形の手を見たいと話した。
（4）ウ　二席の変更と、次回以後の座次の見直しは別の段階。

七　記述問題の考え方

（5）　見え方も記録する理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

誰でも入場できても、後ろの席の子には人形の手が見えず、人数だけでは芝居を楽しめたかを確かめられないから。

（5）別解例　54 字

どなたでもという案内で入場した子も、席では前の人に遮られ、人数だけでは見たい希望を満たせたか分からないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 入場できたことと、見えにくかった事実を示したか。
② 人数だけでは希望の実現まで分からないと結んだか。
③ 子は音だけ聞きたいと話したことにしていないか。

人数を数えること自体を否定せず、それだけで分からないことを読む。

（6）　案内の変化 70〜90 字

（6）解答例　88 字

私は古い座次で空いた席へ案内していましたが、人形の手を見たいという子の希望を聞き、ほかの客にも尋ねました。今回は前の横の二席を確かめ、次回の並べ方と見え方の記録を課題にします。

（6）別解例　88 字

座次に従って入場させればよいと思った私は、見えない席に気づき、子の希望とほかの客の話を聞きました。今回は親子の席を変えますが、全体の並べ方は未定で、終演後は見え方も確かめます。

☆（6）自分で確かめる点

①「座次」「希望」を使ったか。
② 決まり通りの案内から、実際の見え方を聞く変化を示したか。
③ 全て解決した話や、古い客を排除した話にしていないか。

既存の客と初めて来た客を、善悪の二色だけに分けない。

漢字から文章へ 第六冊

第十一回

刑・権威・統制

牢を出た人に、皇帝の赦免状が届きました。
けれど、その人が欲しい返事は別にありました。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

皇	閣	儀	宰
天皇 皇帝に関わる	高い建物 政府	決めた作法 手本	取り仕切る

尉	爵	戴	璽
軍や官の階級	身分の等級 酒器	頭にのせる いただく	君主などの印

いっしょに覚える漢字

欧	違	妨	拘	掘	弾
盾	虐	偵	赦	拉	錮

この回で読むお話

赦免のあとに残った手紙

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
皇	コウ オウ	天皇・皇帝に関わる 皇帝・皇室・皇后	尉	イ	軍や官の階級に関わる 尉官・少尉・中尉
閣	カク	高い建物／政府の組織 内閣・楼閣・閣議	爵	シャク	身分の等級／酒器 爵位・侯爵・爵禄
儀	ギ	決められた作法／手本 儀礼・礼儀・威儀	戴	タイ いただく	頭上にのせる／敬って受ける 戴冠・奉戴・頂戴
宰	サイ	取り仕切る／長官 宰相・主宰・宰領	璽	ジ	天皇や君主などの印 玉璽・御璽・国璽

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
欧	オウ	ヨーロッパ 欧州・西欧・欧米	盾	ジュン たて	攻撃を防ぐ道具 盾・矛盾・後ろ盾
違	イ ちがう ちがえる	一致しない／背く 違反・相違・違法	虐	ギャク しいたげる	むごく扱う 虐待・残虐・虐政
妨	ボウ さまたげる	進行などを邪魔する 妨害・妨げ・妨害者	偵	テイ	ひそかに様子を探る 偵察・探偵・内偵
拘	コウ	自由を制限する／こだわる 拘束・拘留・拘泥	赦	シャ	罪や過ちを許す 恩赦・赦免・容赦
掘	クツ ほる	土を取り除いて穴を作る 発掘・掘削・採掘	拉	ラ	力ずくで連れていく 拉致・拉する
弾	ダン ひく はずむ たま	はじく／武器のたま 弾圧・銃弾・弾力	錮	コ	閉じ込める／ふさぐ 禁錮・党錮

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「戴冠」の場面に合うものを選びなさい。
ア　紙から印を消す。　　イ　道を掘り返す。
ウ　君主が冠を受け、位に就く。　　エ　誰かを無理に連れ去る。

(2)「儀礼」に合うものを選びなさい。
ア　決まった形式に従う作法や行為　　イ　軍隊の一つの階級だけ
ウ　帝国を治める君主　　エ　土地を掘る作業

(3)「宰相」に合うものを選びなさい。
ア　町の全ての住民　　イ　冠や印を入れる箱
ウ　あらゆる国で同じ名の議会　　エ　君主を補佐し政治を取り仕切る官など

(4)「玉璽」が指すものを選びなさい。
ア　役所の全ての書類　　イ　天子や君主の印
ウ　軍人が持つ盾だけ　　エ　相手の罪を調べる人

(5)「拘束」に合うものを選びなさい。
ア　相手を必ず称賛する。　　イ　文章を自由に書き替える。
ウ　身体や行動の自由を制限する。　　エ　王の冠を受け取る。

(6)「偵察」に合うものを選びなさい。
ア　相手や周囲の様子を探る。　　イ　罪を免じる。
ウ　身分の等級を授ける。　　エ　必ず敵を攻撃する。

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　欧州　儀礼　拘束　爵位　皇帝　弾圧　玉璽
尉官　妨げる　内閣　発掘　戴冠　宰相　違反

文	解答	文	解答
(1) 帝国を統治する□□が登場する。		(8) 君主の印である□□を模した道具だ。	
(2) 首相らで構成される□□を学ぶ。		(9) ヨーロッパを□□とも呼ぶ。	
(3) 客を迎える□□を記録する。		(10) 決まりへの□□を確かめる。	
(4) 君主を補佐する□□が話す。		(11) 通行を□□□荷物を動かす。	
(5) 少尉などの階級を□□という。		(12) 身体の自由を□□したと記す。	
(6) 貴族の身分や等級の□□を調べる。		(13) 土地を掘る□□の記録を読む。	
(7) 君主が冠を受ける□□の場面だ。		(14) 言論を力で抑える□□を描く。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「権威」と「権力」に合うものを選びなさい。

印への信頼による権威と、兵を動かす権力の働きを分けて書いた。

ア　どちらも印の重さだけを示す。
イ　権威は昔、権力は今にしかない。
ウ　権力があれば全員の信頼も得られる。
エ　認められる影響と、実際に従わせる力を読み分ける。

（2）この「拘束」と「拉致」に合うものを選びなさい。

門で動きを拘束した後、本人の意思に反して別の町へ拉致した。

ア　自由を制限することに加え、無理に連れ去る動きがある。
イ　拘束は必ず合法だと分かる。
ウ　場所が変わると自由は必ず増える。
エ　どちらも本人が旅を楽しむことだけだ。

（3）この「弾圧」と「妨害」に合うものを選びなさい。

政府の言論弾圧を描く場面と、荷車が通行を妨害する場面を分けた。

ア　全ての妨害は必ず政府が行う。
イ　言論を力で抑えることと、進行を邪魔することだ。
ウ　弾圧は言葉を使う場合には起きない。
エ　どちらも道を掘るという意味だけだ。

（4）この「赦免」と「事実の確認」に合うものを選びなさい。

罪を赦免する文書を受け取った人が、そもそもその行為をしていないと訴えた。

ア　赦免なら行為をした事実も必ず証明された。
イ　許されたら記録を確かめてはいけない。
ウ　罪を許す働きと、何をしたかを確かめることは別だ。
エ　赦免は相手を罵る言葉の一種だ。

（5）「相違」を使い、二つの記録の違いを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「妨害」を使い、何が何を邪魔したかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) **コウシツ**の儀式の記録を読む。	
(2) 高い**ロウカク**を絵に描く。	
(3) 式で身なりなどの**イギ**を整える。	
(4) 会を取り仕切り**シュサイ**する。	
(5) 物語の**ショウイ**が報告する。	
(6) 物語に**コウシャク**の屋敷が登場する。	
(7) 品物を**チョウダイ**する。	
(8) 国家の印を表す**コクジ**という語を学ぶ。	
(9) 人をひどく扱う**ギャクタイ**の場面を物語で読む。	
(10) 周囲の様子を探る**テイサツ**の報告を読む。	
(11) 刑などを免じる**オンシャ**という語を学ぶ。	
(12) 本人の意思に反して連れ去る**ラチ**の場面を物語で読む。	
(13) 日本の旧刑名である**キンコ**を資料で読む。	
(14) 壁の**ジュウダン**の跡を絵に描く。	
(15) 説明のつじつまが合わない**ムジュン**に気づく。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 皇族	(17) 閣議	(18) 拘泥	(19) 掘削	(20) 弾劾

この回を終えたら もう一度確かめる

立派な印のある文書なら、何が正しいといえるでしょうか。
命令の内容と、その人が求めることも読みましょう。

七　文章の中で考えよう

赦免のあとに残った手紙

机の印を持ち上げると、裏に乾いた赤い色が残っていた。欧州風の城を描く架空の劇で、私は皇帝の書記を演じる。戴冠の儀礼に使う冠と、玉璽を模した印。押せば何でも正しくなる気がして、命令の台詞を堂々と読んだ。

次の場面で、男が赦免状を返してきた。

男は宝物を盗んだとして拘束され、塔へ閉じ込められていた。物語では禁錮という刑名を使う。宰相の命令で少尉が塔を守り、爵位のある家の人も訴えを取り上げない。皇帝は男を赦免し、塔から出すよう命じたのだった。

もう自由なのだから喜ぶ場面だと、私は思った。「盗んでいないと、記録に残してほしい」。男の台詞は違った。罪を許す文と、何をしたのかを確かめる文は同じではない。私の大きな声が、その小さな願いを妨げている気がした。

後半には宝物の箱を発掘する場面があるが、見つけただけでは誰が盗んだかは分からない。町を偵察した兵の報告にも、男が盾を運ぶ姿はあって、宝物を持つ姿はない。盾を運んだことから、盗みを決めることはできなかった。

古い台本では男が門を破ろうとして捕まる。新版では、拒むのに兵が町から拉致したと、男自身が話す。私はこの相違を読み落としていた。訴えを反逆と呼ぶ弾圧や、虐待を加えた者の行為も、印の美しさでは消えない。

劇団の話合いは内閣の会議のようだと弟が笑った。演出を主宰する先生は、威厳をなくせとは言わない。男の話を聞く間を作ってはどうか、と言う。弟は冠の傾きを直し、私は次の台詞の前へ小さな印を書いた。

命令への違反かを叫ぶ前に、玉璽を置いて手紙を受け取る。塔から見た空と、帰りたい家の窓が描かれていた。折り目を開く役の手を、私は初めてゆっくり動かした。

銃弾の音もない舞台で、何を聞いていなかったのだろう。男の疑いが晴れた結末はまだない。印を押す前の沈黙が長くなった。私はその間、男の目を見ることにした。

国・人物・法・台本は創作です。実在の統治や刑事手続を説明するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

赦免状の働きと、男が求めた記録の違いを読んで答えなさい。

（1）本文から、「私」が演じた、書き留める仕事をする役を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）おごそかで、近寄りがたいほど立派な様子を表す「イゲン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）男が赦免状を返したときの訴えを選びなさい。

ア　塔へ戻り、もっと長く閉じ込めてほしい。
イ　自分に新しい爵位を授けてほしい。
ウ　盗んでいないことを記録に残してほしい。
エ　少尉の盾を宝物としてもらいたい。

（4）結末の書記の演じ方に合うものを選びなさい。

ア　印のない話は全て捨てる。
イ　印を置いて手紙を受け取り、男を見る間を作る。
ウ　男の訴えを聞かず、無実も罪も確定する。
エ　芝居をやめ、今の法律を解説する。

（5）赦免状を出しただけで男の願いが満たされたとはいえない理由を、
文書の働きと男の訴えを結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）書記の演じ方の変化を、「玉璽」「手紙」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
男の疑いが晴れた結末にはしません。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十一回　刑・権威・統制

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　君主などが冠をいただき、位に就くこと。冠自体の重さを測る語ではない。
（2）ア　社会などで定まった形式に従う行為。形式が整えば内容も正しいとは限らない。
（3）エ　君主を補佐する高官や首相などを指す。時代・国で制度は異なる。
（4）イ　天子や君主などの印。印のある文書が述べる事実まで自動的に正しくはならない。
（5）ウ　身体・行動などの自由を制限すること。適法かどうかは語だけでは決まらない。
（6）ア　相手の様子や状況などを探ること。攻撃したことまで含むわけではない。

四　熟語を広げよう

（1）皇帝　（2）内閣　（3）儀礼　（4）宰相　（5）尉官
（6）爵位　（7）戴冠　（8）玉璽　（9）欧州　（10）違反
（11）妨げる　（12）拘束　（13）発掘　（14）弾圧

（11）は送り仮名も含めて妨げる。尉官や爵位の制度は時代・国で異なる。日本では 2025 年 6 月に懲役・禁錮に代わり拘禁刑が導入された。施行前の行為には旧刑が適用される場合がある。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　働きは重なることもあるが、何が誰を動かしたかを個別に読む。
（2）ア　その場での制限と、本人の意思に反した連れ去りを文から読む。
（3）イ　何をどんな主体が抑えたかを確かめる。同じ働きに重なる場合もある。
（4）ウ　刑などを免じることと、過去の行為を事実として認定することを混同しない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

二人の記録には門が開いた時刻の相違があり、私は元の手紙も読み直した。

☆自分で確かめる点　何と何の、どの点の違いかを示したか。

（6）解答例

通路に置かれた箱が人の移動を妨害したので、係の人へ置き場所を尋ねた。

☆自分で確かめる点　進行を妨げた物と、妨げられた動きが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）皇室　（2）楼閣　（3）威儀　（4）主宰　（5）少尉
（6）侯爵　（7）頂戴　（8）国璽　（9）虐待　（10）偵察
（11）恩赦　（12）拉致　（13）禁錮　（14）銃弾　（15）矛盾
（16）こうぞく　（17）かくぎ　（18）こうでい　（19）くっさく　（20）だんがい

（7）は頂戴、（8）は国璽。（9）虐待はひどい扱いをすること。（10）は偵察、（11）は恩赦。（12）拉致は無理に連れ去ること。（13）は禁錮。本文の架空の刑名と、日本の制度の説明を混同しない。（18）拘泥はこだわること。

七　文章の中で考えよう

（1）書記　書き留める仕事をする人。私は皇帝の書記として命令を読む役を演じた。
（2）威厳　おごそかで立派な様子。先生は威厳をなくすのでなく、相手の話を聞く間を提案した。
（3）ウ　塔から出すことに加え、盗んでいないという記録を求めた。
（4）イ　相手の訴えを聞く間と視線が変わった。

七　記述問題の考え方

（5）　赦免状だけでは足りない理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

赦免状は罪を許して塔から出す命令だが、男は盗んでいないという記録を求めており、その確認までは済まないから。

（5）別解例　49 字

罪を許して自由にする文書と、盗みをしていないと記録することは違い、男は後者を求めて訴えていたから。

☆（5）自分で確かめる点

① 赦免状が塔から出す働きを持つと示したか。
② 男の、盗んでいないと記録してほしい訴えを結んだか。
③ 赦免だけで有罪や無実が証明されたとしていないか。

文書の働きと、過去の行為についての確認を分けて読む。

（6）　書記の演じ方の変化 70〜90 字

（6）解答例　87 字

私は玉璽を押せば正しく、赦免すれば男も喜ぶと思っていました。けれど男の願いは別だと読み直し、印を置いて手紙を受け取ります。疑いが晴れたと決めず、目を見て話を聞く間を作ります。

（6）別解例　86 字

最初は玉璽のある命令を堂々と読んでいた私は、男が欲しい記録を聞いていませんでした。台本を読み直し、手紙を受け取って相手の目を見る沈黙を長くします。男の無実の確定はまだです。

☆（6）自分で確かめる点

①「玉璽」「手紙」を使ったか。
② 命令を読むだけの姿から、訴えを聞く姿への変化を示したか。
③ 結末で罪や無実が確定したと付け加えていないか。

威厳のある演技を全て否定したのでなく、相手への間と視線を変えた。

漢字から文章へ 第六冊

第十二回

財・利害・分配

市で稼いだ、四十枚の銀貨。
四人に十枚ずつなら、納得できるでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

農	資	働	貯
作物を育てる	もとで 役立つ材料	仕事をする 作用する	ためておく

購	稼	賭	賦
代金を払って買う	かせぐ 穀物を植える	結果に金品をかける	割り当てる 詩文

いっしょに覚える漢字

庫	庁	賛	耕	紹	紛
兼	秩	曹	倹	緻	財

この回で読むお話

四十枚の銀貨の行方

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
農	ノウ	田畑を耕し作物を作る 農業・農家・農地	購	コウ	代金を払って買う 購買・購入・購読
資	シ	もとで／役立つ材料 資本・資源・資料	稼	カ かせぐ	働いて収入を得る／穀物を植える 稼働・稼ぐ・共稼ぎ
働	ドウ はたらく	仕事をする／作用する 労働・稼働・働き	賭	ト かける	結果に金品などをかける 賭博・賭け・賭場
貯	チョ	ためておく 貯蓄・貯金・貯蔵	賦	フ	割り当てる／詩文の一形式 賦課・月賦・賦役

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
庫	コ ク	物を収める建物 倉庫・車庫・金庫	兼	ケン かねる	二つ以上を合わせ持つ 兼業・兼任・兼用
庁	チョウ	行政機関／役所 官庁・県庁・庁舎	秩	チツ	物事の順序 秩序・秩序立つ
賛	サン	同意する／ほめる 賛同・賛成・称賛	曹	ソウ	仲間／役人の組織 法曹・軍曹・曹長
耕	コウ たがやす	田畑の土を起こす 耕作・農耕・耕地	倹	ケン	むだを省く 倹約・勤倹・倹素
紹	ショウ	間をつないで知らせる 紹介・紹介状・自己紹介	緻	チ	きめが細かい 緻密・精緻・細緻
紛	フン まぎれる まぎらす まぎらわしい	入り乱れる／区別しにくい 紛争・紛失・紛糾	財	ザイ サイ	価値のある物／資産 財産・財源・文化財

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「資本」に合うものを選びなさい。
ア　所有する物の名前全て　　イ　偶然の勝負だけ
ウ　事業などへ用いる資金や設備　　エ　使わず捨てた物だけ

(2)「貯蓄」に合うものを選びなさい。
ア　金銭などをためて蓄えること　　イ　必要な支出を全て禁じること
ウ　機械を動かすこと　　エ　品物を必ず売り払うこと

(3) この文の「稼働」に合うものを選びなさい。
ア　本は棚に並んでいる。　　イ　友人は眠っている。
ウ　紙に値段を書いている。　　エ　印刷機が動いている。

(4)「賦課」に合うものを選びなさい。
ア　友人に本を紹介する。　　イ　税や負担などを割り当てて課す。
ウ　必ず同じ数の利益を配る。　　エ　紙を倉庫へしまう。

(5)「兼業」に合うものを選びなさい。
ア　同じ一つの道具だけを使う。　　イ　他人の仕事を全て禁止する。
ウ　本業とともに別の仕事も営む。　　エ　全ての仕事をやめる。

(6)「緻密」に合うものを選びなさい。
ア　細部まで行き届き、きめが細かい。　　イ　必ず誰もが賛成する。
ウ　数字の合計だけが大きい。　　エ　分からない所を全て隠す。

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　倉庫　労働　耕作　稼働　農業　紛争　賦課
購買　賛同　資本　紹介　賭博　貯蓄　官庁

文	解答	文	解答
(1) 作物を育てる □□を営む。		(8) 負担を割り当てる □□という語を読む。	
(2) 事業の資金や設備を □□とする。		(9) 品物を □□へ保管する。	
(3) 人の □□の時間を記録する。		(10) 行政機関である □□の建物を描く。	
(4) 将来に備えて □□する。		(11) 提案への □□を伝える。	
(5) 代金を払い品を買う □□の記録だ。		(12) 畑を □□する人だ。	
(6) 機械の □□した日を記す。		(13) 職人を友人に □□する。	
(7) 金品を勝敗にかける □□を描く。		(14) 取り分をめぐる □□を記録する。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「資本」と「財産」に合うものを選びなさい。

所有する財産のうち、印刷機と資金を店の資本として使った。

ア　どちらも現金しか含まない。
イ　資本にすると所有物ではなくなる。
ウ　財産の全てを事業に使ったと決まる。
エ　持っている物のうち、事業へ使う働きに着目した。

（2）この「貯蓄」と「倹約」に合うものを選びなさい。

紙をむだなく使う倹約をし、残った銀貨の一部を貯蓄した。

ア　むだな使用を省くことと、ためておくことを分けた。
イ　どちらも必要な紙を買わないことだけだ。
ウ　貯蓄があれば倹約はできない。
エ　紙を節約すれば必ず同額の銀貨が増える。

（3）この「賦課」と「分配」に合うものを選びなさい。

使用料を賦課した記録と、残った利益を分配した記録を並べた。

ア　均等なら両方とも賦課になる。
イ　負担させることと、利益などを分けて渡すことだ。
ウ　分配では誰かに物を渡してはいけない。
エ　使用料は必ず利益と同額になる。

（4）この「稼働」と「労働」に合うものを選びなさい。

印刷機は二時間稼働し、片づけを含む人の労働は四時間だった。

ア　二時間と四時間は矛盾している。
イ　機械の稼働を見れば人の労働は全て分かる。
ウ　機械の運転時間と、人の仕事の時間を分けた。
エ　稼働は人については一切使えない。

（5）「分配」を使い、何をどんな基準で分けたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「兼任」を使い、二つの役割を持つ一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 畑で作物を育てる**ノウカ**が市に出る。	
(2) 調べるために必要な**シリョウ**を読む。	
(3) 夫婦の両方が働く**トモバタラキ**という語を学ぶ。	
(4) 銀行などへお金を**チョキン**する。	
(5) 代金を払って紙を**コウニュウ**する。	
(6) 店を手伝って**カセグ**場面を物語に描く。	
(7) 古い物語に出てくる**トバ**を描く。	
(8) 代金を**ゲップ**で払う。	
(9) **シャコ**に荷車を入れる。	
(10) 法律の専門職を指す**ホウソウ**という語を読む。	
(11) 物事が整った**チツジョ**を保つ。	
(12) むだな支出を省く**ケンヤク**をする。	
(13) 所有する土地も**ザイサン**の一つだ。	
(14) 鍵を**フンシツ**したと届ける。	
(15) 道具の寸法まで決めた**チミツ**な計画を立てる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 農耕	(17) 労使	(18) 購読	(19) 庁舎	(20) 兼業

この回を終えたら もう一度確かめる

同じ数に分けることと、同じだけ働いたことは同じでしょうか。
どんな基準を使い、何をまだ数えていないかを確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

四十枚の銀貨の行方

十枚ずつ並べた銀貨を、ミオが動かさずに見ていた。農業と製本を兼業する父に頼み、四人で豆の絵本を作って市で売った。紙やほかの材料の購入代を、立て替えた人へ全て返すと、分配に回せる銀貨は四十枚。私は合計が合うのを見て、これでよいと思った。

ミオは作業の表も見ようと言った。印刷機の稼働は二時間でも、人の労働はそれだけではない。畑を耕作する父に聞きながら豆を描き、紙を運び、店じまいをした時間がある。倉庫の片づけも仕事だった。机には、売れた本と同じ紙の切れ端が残っていた。

四人が記録した作業時間

人	作業時間	均等案／時間に応じる案
私	三時間	十枚／十五枚
ミオ	三時間	十枚／十五枚
カイ	一時間	十枚／五枚
ユリ	一時間	十枚／五枚

紙の見本を紹介したカイは、短い時間でも役に立ったと話す。ユリは官庁の建物を描く用事のあと、市へ来てくれた。合計八時間なら一時間五枚、とすぐ決めても、準備のどこまで数えたかは確かめたい。緻密な表にも、入れていない働きはありうる。

「何を、一緒の基準にしたいの？」

法曹の仕事をしていた祖母は、正しい取り分を教える代わりに尋ねた。材料代は既に返し、四十枚は今回の労働を比べて分ける、と四人で話す。追加の準備も確かめ、今回は表の時間を使う案へ全員が賛同した。私とミオは十五枚、カイとユリは五枚になる。

父の印刷機は事業の資本で、父の財産でもある。無料で借りる条件だから、四十枚から機械代を引く話ではない。倹約をするからと必要な紙を買わないのでも、全てを貯蓄するのでもなく、分ける分を先に確かめた。

隣の店は札に「使用料を賦課」と書いていた。払う負担と受け取る取り分は、同じ欄へ足せない。祭りの劇には賭博で財を失う人も出るが、私たちの分配を運任せにはしなかった。紛争を恐れて話を切り上げず、違う案を二つ残した。

銀貨を受け取ったカイは、次は絵の案を考える時間も記そうと言う。時間の長さだけで価値が全部決まるわけではない。帳面の秩序を整えれば終わりではなかった。ミオは帳面を閉じず、次の頁に小さな豆の花を描いた。

人物・市・銀貨・契約条件は創作です。実際の会計、分配、投資、労働条件の手引きではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

今回分ける銀貨と、二つの分け方の基準を確かめて答えなさい。

（1）本文から、物を作るのに使うものを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）金額などを細かく計算して確かめることを表す「セイサン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）今回採用した案と表に合うものを選びなさい。

ア　四人へ十枚ずつ分けた。
イ　父へ機械代として四十枚全てを払った。
ウ　三時間の人は五枚、一時間の人は十五枚だ。
エ　三時間の人は十五枚、一時間の人は五枚だ。

（4）最後のカイの発言に合うものを選びなさい。

ア　次は絵の案を考えた時間も記録したい。
イ　短い時間の働きは全て無価値だ。
ウ　今後も全て必ず同じ表で分けたい。
エ　次回からは話合いをせず賭けで決めたい。

（5）合計が四十枚で一致しても二つの案を比べた理由を、
分け方の基準の違いと結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）今回の分配を、「労働」「基準」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
決めたことと、次へ残る問いを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十二回　財・利害・分配

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　事業や生産に使う元手など。財産の全てを必ず資本にしているわけではない。
（2）ア　金銭などを蓄えること。倹約はむだを省き、支出を抑えること。
（3）エ　機械が動くことに使う。稼働には人が稼ぎ働く意味もある。
（4）イ　負担などを割り当てて負わせること。利益などの分配とは働きを分ける。
（5）ウ　本業のほかに別の仕事も行うこと。兼任は二つ以上の役職などを兼ねること。
（6）ア　細かな所まで注意が行き届く様子。緻密でも、分け方のよさは別に検討する。

四　熟語を広げよう

（1）農業　（2）資本　（3）労働　（4）貯蓄　（5）購買
（6）稼働　（7）賭博　（8）賦課　（9）倉庫　（10）官庁
（11）賛同　（12）耕作　（13）紹介　（14）紛争

倹約はむだを省くこと。必要な支出まで一律に禁じる意味ではない。
「財」は第二冊第十六回からの再会字。財産の所有と、事業への使い方を分けて読む。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　所有する価値ある物と、事業へ投入する元手などの役割を読み分ける。
（2）ア　抑えた支出と、実際に蓄えた額を別に確かめる。
（3）イ　何を誰に割り当てたかを読む。配り方が均等かどうかだけでは決まらない。
（4）ウ　この文では対象が異なる。一般に稼働を機械だけに限る説明はしない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

残った紙を使う予定の枚数に応じて分配し、余りは共同の箱へ戻した。

☆自分で確かめる点　分けた物と、分ける基準が分かるか。

（6）解答例

私は会計と案内係を兼任したので、受付が混む時間は友人に相談した。

☆自分で確かめる点　どの二つの役割を同じ人が持つかを示したか。

六　短文で使ってみよう

（1）農家　（2）資料　（3）共働き　（4）貯金　（5）購入
（6）稼ぐ　（7）賭場　（8）月賦　（9）車庫　（10）法曹
（11）秩序　（12）倹約　（13）財産　（14）紛失　（15）緻密
（16）のうこう　（17）ろうし　（18）こうどく　（19）ちょうしゃ　（20）けんぎょう

（3）（6）は送り仮名も書く。（7）は賭場、（8）は月賦。（10）法曹は法律の専門職に関わる語。
（12）倹約はむだを省くこと。（15）は緻密。（17）労使は働く側と雇う側。（20）兼業は本業と別の仕事も営むこと。

七　文章の中で考えよう

（1）材料　物を作るのに使うもの。紙などの購入代は既に返し、その後の四十枚を分けた。
（2）精算　金額などを細かく計算して確かめること。分配の基準を決めることとは分けて読む。
（3）エ　合計八時間、四十枚なので一時間に五枚となる案を選んだ。
（4）ア　表へ何を記すかも、次回に向けた問いとして残る。

七　記述問題の考え方

（5）　二つの案を比べる理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

合計が同じ四十枚でも、人数で均等に分けるか、労働時間に応じて分けるかで一人ずつの取り分が変わるから。

（5）別解例　49 字

人数を基準にした十枚ずつの案と、作業時間に応じる案では、合計は同じでも各人の働きの扱いが違うから。

☆（5）自分で確かめる点

① 合計額が一致するだけでは決まらないと示したか。
② 人数で均等にする案と時間に応じる案を対比したか。
③ 均等案は必ず不正、時間案は必ず公平としていないか。

合計の正しさと、何を基準に分けるかを分けて読む。

（6）　今回の分配 70〜90 字

（6）解答例　87 字

材料代を返した後の四十枚を、今回は労働時間を基準に分けました。準備の範囲も確かめて四人で同意しましたが、時間だけで価値は決まりません。次は絵の案を考える時間も記そうとします。

（6）別解例　86 字

四人は材料代を返した後の銀貨を分けるため、労働の記録と二つの案を比べ、今回は時間を基準に十五枚と五枚に分けました。全ての価値を測れたとはせず、次に何を記録するかも考えます。

☆（6）自分で確かめる点

①「労働」「基準」を使ったか。
② 精算後の四十枚を今回の時間で分けたと示したか。
③ 全ての価値や、次回の公平さまで確定していないか。

今回合意したことを、どの集まりでも使える唯一の基準にしない。

漢字から文章へ 第六冊

第十三回

複雑な自然現象

海の中へ、道が消えた。
一枚の絵の続きを、三枚の写真から探します。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

雨	岩	星	雪
空から降る水滴	大きく固い石	夜空の光	氷の結晶が降る

燃	揺	礁	霜
火がつく	ゆれる ゆらぐ	水面近くの岩	地表に付く氷

いっしょに覚える漢字

漁	暴	潟	烈	洞	泡
輝	噴	漠	溝	薪	濫

この回で読むお話

海に沈んだ道の絵

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
雨	ウ あめ あま	空から降る水滴 雨量・豪雨・降雨	燃	ネン もえる もやす もす	火がつく／力を出す 燃焼・燃料・可燃
岩	ガン いわ	大きく固い石 岩盤・岩石・溶岩	揺	ヨウ ゆれる ゆらぐ	前後左右に動く 揺動・動揺・揺らぎ
星	セイ ショウ ほし	夜空に光る天体 星雲・恒星・星空	礁	ショウ	水面近くの岩場 岩礁・暗礁・環礁
雪	セツ ゆき	空から降る氷の結晶 雪崩・積雪・降雪	霜	ソウ しも	地表などに付く氷の結晶 霜害・降霜・霜柱

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
漁	ギョ リョウ	水産物をとる 漁業・漁船・漁場	輝	キ かがやく	強い光を放つ 輝度・光輝・輝く
暴	ボウ バク あばく あばれる	激しく乱れる／隠れたことを明かす 暴風・暴露・乱暴	噴	フン ふく	勢いよく吹き出す 噴火・噴出・噴煙
潟	かた	潮の干満で現れる浅い砂泥地など 干潟・潟湖・新潟	漠	バク	広々として果てしない／ぼんやり 砂漠・広漠・漠然
烈	レツ	勢いが激しい 烈風・猛烈・激烈	溝	コウ みぞ	細長く掘ったくぼみ 海溝・側溝・溝渠
洞	ドウ ほら	奥深い穴 洞穴・洞窟・空洞	薪	シン たきぎ	燃料にする木 薪炭・薪・薪材
泡	ホウ あわ	液体中や表面の気体の粒 気泡・水泡・発泡	濫	ラン	水があふれる／みだり 氾濫・濫用・濫伐

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「霜」に合う説明を選びなさい。
ア　雨粒が大きくなったもの　　イ　空から降る全ての氷
ウ　地表などに付く氷の結晶　　エ　海の波の白い部分

(2)「暗礁」に合うものを選びなさい。
ア　水面下に隠れた岩場　　イ　明るく輝く星
ウ　地中の燃料　　エ　風の強さの単位

(3) この「漠然」に合うものを選びなさい。
ア　輪郭も時刻も細かく分かる　　イ　砂漠にだけある
ウ　必ず間違っている　　エ　ぼんやりして、はっきりしない

(4)「噴出」の説明を選びなさい。
ア　少しずつ静かにしみこむ　　イ　勢いよく吹き出す
ウ　何も残さず燃える　　エ　遠くでかすかに光る

(5)「濫用」に合うものを選びなさい。
ア　水が川からあふれる　　イ　細い溝を掘る
ウ　権限などをむやみに使う　　エ　薪を乾かす

(6)「輝く」に最も近いものを選びなさい。
ア　強い光を放つ、または反射する　　イ　ゆっくり水に沈む
ウ　激しく風が吹く　　エ　地表に氷が付く

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　漁船　星雲　激烈　動揺　雨量　気泡　霜害
燃焼　干潟　岩盤　洞窟　岩礁　積雪　暴風

文	解答	文	解答
(1) 一定時間に降った □□を測る。		(8) 畑の □□を記録する。	
(2) 地面の硬い □□を調べる。		(9) 港から □□が出る。	
(3) 望遠鏡で □□を見る。		(10) 強い風を □□という。	
(4) 道の □□を測る。		(11) 潮が引いて □□が現れる。	
(5) 木の □□を観察する。		(12) 意見が □□に対立した。	
(6) 知らせを聞いて □□した。		(13) 山の □□へ光を当てる。	
(7) 水面近くの □□を描く。		(14) 水の中の □□を見る。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「雪」と「霜」に合うものを選びなさい。

屋根に雪が積もった日と、畑に霜が付いた日を別の欄へ記した。

ア　どちらも必ず空から降る。
イ　雪だけが水に関係する。
ウ　どちらも雨量だけで分かる。
エ　降る雪と、地表などに付く霜を分けた。

（2）この「暴風」と「激烈」に合うものを選びなさい。

海の暴風を記録し、会議の激烈な意見の対立も別に記した。

ア　風の現象と、対立の激しさを分けた。
イ　激烈は風にしか使えない。
ウ　暴風は会議の名称である。
エ　どちらも必ず雨が降る。

（3）この「氾濫」と「濫用」に合うものを選びなさい。

川の氾濫の記事と、権限の濫用の記事を分けて置いた。

ア　どちらも水だけの話だ。
イ　水があふれることと、むやみに使うことだ。
ウ　濫用は正しく使うことだ。
エ　氾濫は必ず人の権限の話だ。

（4）この「漠然」と「断定」に合うものを選びなさい。

海の道を漠然と思い浮かべたが、いつでも通れるとは断定しなかった。

ア　想像したことを全て否定した。
イ　断定すれば時刻は不要だ。
ウ　ぼんやりした印象を、確かな結論にしなかった。
エ　漠然と考えれば安全が保証される。

（5）「漠然」を使い、まだはっきりしないことを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「輝く」を使い、光の様子を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 外での集まりは**ウテン**のため延期した。	
(2) 海岸の**ガンセキ**の形を比べる。	
(3) 夜空の**セイザ**を図で確かめる。	
(4) 一面の**セツゲン**を写真で見る。	
(5) 機械を動かす**ネンリョウ**の量を記す。	
(6) 風で枝が**ユレル**様子を描く。	
(7) 公園の**フンスイ**を絵に描く。	
(8) 乾いた地域に広がる**サバク**の写真を見る。	
(9) 道の端の**ソッコウ**へ水が流れる。	
(10) 木を小さくする**マキワリ**の作業を絵で見る。	
(11) 権限をむやみに使う**ランヨウ**を戒める。	
(12) 水面下の岩場である**アンショウ**を図で確かめる。	
(13) 激しく燃える火を**レッカ**という。	
(14) 石けんを混ぜた水が**アワダツ**様子を見る。	
(15) 磨いた銀器の**コウキ**に目を奪われる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 噴火	(17) 霜柱	(18) 海溝	(19) 薪炭	(20) 氾濫

この回を終えたら もう一度確かめる

見えたことと、まだ分からないことを分けてみましょう。
一枚の風景には、どんな時刻が隠れているでしょうか。

七　文章の中で考えよう

海に沈んだ道の絵

絵の中では、海へ細い道が延びていた。先には岩の島があり、星が一つ輝く。祖母の家で見つけた小さな絵だ。裏には「二人で渡った」とだけある。私はこの風景を今も歩けるのだと思い、島までの線を指でなぞった。日付はどこにもなかった。

町の資料室へ行くと、窓に雨の筋ができていた。港では漁船が揺れ、絵と似た島が奥に見える。同じ湾の写真が三枚あると聞き、島の形を比べた。道に見えた所は、潮が引くと現れる平らな砂泥地、干潟の一部らしい。写真には時刻が残っていた。

同じ湾を写した三枚の写真

撮影日と時刻	島までの間の見え方
七月三日 午前九時	細い砂の帯が見える
七月三日 午後三時	砂の帯が水に隠れている
七月四日 午前十時	砂の帯がまた見える

砂の帯は、見えたり隠れたりしている。私は朝の写真だけを絵の横へ置きかけ、午後の一枚も戻した。案内の人は、写真だけで今の通り道は決められないと言う。岩礁の周りの深さや海底の溝は、絵からは測れない。

棚には雨量や積雪の記録もあり、暴風や川の氾濫を伝える記事が並ぶ。同じ湾という名でも、昔の記録を今日の様子にできない。海へ行く計画は閉じ、まず絵が描かれた時を考えよう。紙を重ねると、午後の海だけが端からのぞいた。

隣の展示には、波の気泡、雪の結晶、畑の霜、火山の噴火が写っている。炎のような夕空も、薪が燃える写真ではない。砂漠の絵かと思った場所が干潟だったように、似た色だけで同じ現象とは呼べない。窓の外では、水滴が長い筋を一本増やした。

祖母へ写真を見せると、祖父が島の洞窟の前で誰かを待っていた話が始まった。「烈風の日だったかね。」そう言ってから、あれは別の日だったと笑う。私は絵の二人を祖父母と決めていたが、待っていた相手の名はまだ聞けていない。

絵の隣へ三枚と時刻を並べた。漠然と一本の道だと思った所に、水の満ち引きが見えてきた。それでも二人の記憶までは現れない。祖母は湯のみの向きをそろえ、絵を自分の方へ寄せた。

お茶を入れ終えたら、星を指して続きを聞こう。渡った時刻も、その時に何を話したかも、私は知らない。午後の写真を抜かずに置いたまま、祖母が座る場所を空けた。

人物・湾・絵・写真記録は創作です。実際の海辺の通行や安全を判断する資料ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

写真が示す変化と、祖母から聞く思い出を分けて答えなさい。

（1）本文から、目に映る景色を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）過去の出来事などを覚えていることを表す「キオク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）三枚の写真から言えることを選びなさい。

ア　この場所は今もいつでも安全に歩ける。
イ　絵の二人が誰かまで分かる。
ウ　撮影された時刻により、砂の帯の見え方が違う。
エ　島の周りの深さが正確に測れる。

（4）最後の「私」の行動に合うものを選びなさい。

ア　写真が増えたので祖母の話は不要だとした。
イ　写真で分かることを整理し、祖母の話も聞こうとした。
ウ　絵の二人を祖父母と確定した。
エ　すぐ一人で島へ渡ることにした。

（5）「私」が絵だけで通り道を決めなくなった理由を、
写真に見られる違いと結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）絵の続きを調べる「私」の姿を、「時刻」「思い出」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
資料で分かることと、祖母へ聞くことを分けます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十三回　複雑な自然現象

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　霜は地表などに付く氷の結晶。空から降る雪とはでき方が違う。
（2）ア　水面下に隠れた岩場をいう。物事を進める際の障害にもたとえる。
（3）エ　漠然は、内容などがはっきりしない様子。誤りと確定した意味ではない。
（4）イ　液体や気体などが勢いよく吹き出すこと。炎だけに限らない。
（5）ウ　程度や目的をわきまえず、むやみに使うこと。氾濫とは語全体を分けて読む。
（6）ア　星や水面が輝くという。全てが自ら燃えているという意味ではない。

四　熟語を広げよう

（1）雨量　（2）岩盤　（3）星雲　（4）積雪　（5）燃焼
（6）動揺　（7）岩礁　（8）霜害　（9）漁船　（10）暴風
（11）干潟　（12）激烈　（13）洞窟　（14）気泡

干潟は潮が引くと現れる平らな砂泥地。水面近くの岩礁と分ける。
霜害は霜による農作物などの被害。霜と雪を同じものにしない。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　見た目の白さだけで同じ現象としない。
（2）ア　烈は激しさを示すが、語全体が表す対象は異なる。
（3）イ　同じ濫を含む語でも、何がどうなるかを確かめる。
（4）ウ　印象と、確かな根拠のある判断を分ける。

五　自分で書く問題

（5）解答例

海辺の町を漠然と思い浮かべたが、絵を見てから訪ねたい場所を考えた。

☆自分で確かめる点　何がはっきりしていないかを示したか。

（6）解答例

雨上がりの葉に残った水滴が輝き、友人は足を止めて見つめていた。

☆自分で確かめる点　何が、どんな場面で光っているかが分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）雨天　（2）岩石　（3）星座　（4）雪原　（5）燃料
（6）揺れる　（7）噴水　（8）砂漠　（9）側溝　（10）薪割り
（11）濫用　（12）暗礁　（13）烈火　（14）泡立つ　（15）光輝
（16）ふんか　（17）しもばしら　（18）かいこう　（19）しんたん　（20）はんらん

（6）（10）（14）は送り仮名も書く。（9）側溝は道の端などに設けた溝。（11）濫用はむやみに使うこと。（12）暗礁は水面下の岩場。（15）光輝は輝く光など。（17）は霜柱、（19）は薪炭。

七　文章の中で考えよう

（1）風景　目に映る景色。絵に道が見えることと、今も通れることを分けて読む。
（2）記憶　過去の出来事などを覚えていること。写真だけで二人の正体や思い出までは分からない。
（3）ウ　写真は撮った時点の見え方を示す。現在の安全までは示さない。
（4）イ　水の変化を整理しても、思い出の人物までは決まらない。

七　記述問題の考え方

（5）　通り道を決めない理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

同じ湾でも時刻によって砂の帯が見えたり水に隠れたりし、絵だけでは今も通れるか判断できないと分かったから。

（5）別解例　49 字

三枚の写真では砂の帯の見え方が変わり、絵に道があることだけでは、今も歩ける道だと決められないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 写真の時刻と砂の帯の見え方を結んだか。
② 絵の道を現在の通行可能性と同一視していないか。
③ 通れないと断定した答えにもしていないか。

見えることと、安全に通れることは同じではない。

（6）　絵の続きを調べる姿 70〜90 字

（6）解答例　87 字

私は写真の時刻を比べ、道に見えた砂の帯が水に隠れると知りました。ただし二人の正体や思い出までは写真で決まらないので、今の通行の判断をせず、祖母にあの日の続きを聞こうとします。

（6）別解例　87 字

三枚の写真を時刻とともに置き、私は水の満ち引きを考えました。絵の二人が誰かはまだ分からず、思い出の続きを祖母に尋ねます。資料で分かる変化と、人から聞く話を分けて調べる姿です。

☆（6）自分で確かめる点

①「時刻」「思い出」を使ったか。
② 写真で水の変化を知ったことを示したか。
③ 二人の正体を断定せず、祖母へ聞く姿を述べたか。

資料を増やして分かることと、本人へ尋ねたいことを分ける。

漢字から文章へ 第六冊

第十四回

生殖・生育・生態

蛍の絵を描くはずだった頁が、まっ白。
何も見つからなかった日にも、残せることはあるでしょうか。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

鳥	葉	魚	麦
羽をもつ動物	光を受ける器官	水中で暮らす動物	穀物の一種

栽	蛍	鶴	鶏
植えて育てる	光を出す虫	首と脚が長い鳥	身近な家畜の鳥

いっしょに覚える漢字

熊	桜	卵	樹	菓	芋
亀	殻	葛	苛	藍	藻

この回で読むお話

蛍のいない頁

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
鳥	チョウ とり	羽をもち卵で増える動物 鳥類・野鳥・渡り鳥	栽	サイ	植物を植えて育てる 栽培・盆栽・栽植
葉	ヨウ は	植物の光を受ける器官 葉脈・落葉・葉緑体	蛍	ケイ ほたる	多くの種類で光を出す昆虫 蛍光・蛍火・蛍
魚	ギョ うお さかな	水中で暮らす脊椎動物 魚類・魚群・稚魚	鶴	カク つる	首と脚の長い鳥 鶴・白鶴・鶴亀
麦	バク むぎ	穀物の一種 麦畑・小麦・麦芽	鶏	ケイ にわとり	家畜として飼う鳥 養鶏・鶏卵・野鶏

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
熊	ユウ くま	大型の哺乳類 熊・白熊・熊笹	亀	キ かめ	甲羅をもつ爬虫類 亀・海亀・鶴亀
桜	オウ さくら	春に花を咲かせる木 桜前線・桜花・山桜	殻	カク から	外側を覆う硬いもの 卵殻・貝殻・甲殻
卵	ラン たまご	胚が育つもととなる生殖細胞など 卵生・鶏卵・受精卵	葛	カツ くず	つる性の植物 葛・葛粉・葛布
樹	ジュ	木／立てる 樹冠・樹木・植樹	苛	カ いらだつ	厳しい／責め苦しめる／いらだつ 苛酷・苛烈・苛立つ
菓	カ	果実／甘い食べ物 菓子・製菓・茶菓	藍	ラン あい	青い染料をとる植物／濃い青色 藍色・藍染・藍藻
芋	いも	地下の部分に養分を蓄える作物 芋類・里芋・芋茎	藻	ソウ も	藻類など、水中で見かける生物 海藻・藻類・緑藻

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「栽培」に合うものを選びなさい。
ア　自然に生えた草を全て抜く　　イ　野生の動物だけを調べる
ウ　植物を植えて育てる　　エ　写真を年代順に並べる

(2)「卵殻」に合うものを選びなさい。
ア　卵の外側の硬い覆い　　イ　鳥の羽全体
ウ　葉の中の細い筋　　エ　根から取る粉

(3) ここで物質の発光をいう「蛍光」に合うものを選びなさい。
ア　蛍の生態そのもの　　イ　光を全て熱に変えること
ウ　蛍の名を消すこと　　エ　光などの刺激を受けて物質が出す光

(4)「藍藻」に合う説明を選びなさい。
ア　青色なら全て藍藻である　　イ　光合成をする細菌の仲間である
ウ　全ての海藻と同じ分類である　　エ　青い染料で染めた草である

(5)「樹冠」に合うものを選びなさい。
ア　樹木の地下の根だけ　　イ　切った木の年輪だけ
ウ　樹木の上部で枝葉が広がる部分　　エ　木に掛けた鳥の巣だけ

(6)「苛立つ」に合う様子を選びなさい。
ア　思うようにならず、いらいらする　　イ　静かに眠り続ける
ウ　必ず他人を傷つける　　エ　植物が大きく育つ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　樹冠　稚魚　卵殻　蛍光　渡り鳥　苛酷　鶏卵
盆栽　里芋　葉脈　葛粉　白鶴　小麦　茶菓

文	解答	文	解答
(1) 季節とともに移動する □□□を調べる。		(8) 農場の □□を運ぶ。	
(2) 葉に走る □□を見る。		(9) 木々の □□を見上げる。	
(3) 小さな □□が泳ぐ。		(10) 客に □□を出す。	
(4) パンに □□を使う。		(11) 畑から □□を掘る。	
(5) 鉢で育てた □□の枝を整える。		(12) 鳥の □□が残っている。	
(6) 物質の出す □□を調べる。		(13) 根から作る □□を使う。	
(7) 首の長い □□の写真だ。		(14) 作業の □□な条件を記す。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「栽培」と「飼育」に合うものを選びなさい。

祖母は麦を栽培し、鶏を飼育していた。

ア　どちらも植物を育てることだ。
イ　どちらも野生のまま放置することだ。
ウ　鶏も必ず栽培という。
エ　植物を育てることと、動物を飼い育てることを分けた。

（2）この「観察」と「推測」に合うものを選びなさい。

池で緑色のものを観察し、藻かもしれないと推測した。

ア　見えたことと、そこから考えた正体を分けた。
イ　緑なら藍藻だと確定した。
ウ　推測は必ず誤りである。
エ　観察だけで名前は全て分かる。

（3）この「卵」と「殻」に合うものを選びなさい。

巣のそばに殻だけがあり、卵の中は既に空だった。

ア　殻があれば中にも必ず卵がある。
イ　外側の覆いと、中の状態を分けて見た。
ウ　鳥がいつかえったかまで確定した。
エ　殻は全て植物の種である。

（4）この記録に合うものを選びなさい。

六月の午後二時に庭を探したが、蛍を見つけられなかった。

ア　六月中は一匹もいないと分かった。
イ　全ての種類の蛍は昼に光る。
ウ　その時の探索では見つからなかった。
エ　祖母の思い出は必ず誤りである。

（5）「観察」を使い、何をどのように見たかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「栽培」を使い、植物を育てる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 庭へ来る**ヤチョウ**を窓から見る。	
(2) 春の**ワカバ**に光が透ける。	
(3) 池の**キンギョ**を絵に描く。	
(4) 祖母が冷たい**ムギチャ**を運んできた。	
(5) 夕闇に揺れる**ホタルビ**を物語で読む。	
(6) 紙を折って**オリヅル**を作る。	
(7) 鶏を飼い育てる**ヨウケイ**の仕事を調べる。	
(8) 落ち葉を集める**クマデ**を絵に描く。	
(9) 春に開く**オウカ**を見上げる。	
(10) 実のなる**カジュ**を庭で育てる。	
(11) 客へ**カシ**を出す。	
(12) 畑で育てた**ナガイモ**を箱へ入れる。	
(13) 岩の**キレツ**に草が生えている。	
(14) 光合成をする細菌の仲間である**ランソウ**を本で学ぶ。	
(15) エビなどの硬い外皮を**コウカク**という。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 葛湯	(17) 苛烈	(18) 藍色	(19) 藻類	(20) 鶏肉

この回を終えたら もう一度確かめる

「見つからなかった」と「いない」は、どこまで同じでしょう。
いつ、どこで、何を見たのかも一緒に残しましょう。

七　文章の中で考えよう

蛍のいない頁

蛍の絵を描くはずだった頁が、白いままだ。祖母の庭には昔、蛍がいたと聞いて来た。六月の午後二時から一時間ほど、桜の樹の下から池の端まで探したが、光る虫は見つからない。私は見出しの下へ「もういない」と書きかけた。

祖母が麦茶と菓子を持ってきた。いつ探したの、と聞かれて、今だと答える。祖母が見たのは暗くなってからだったそうだ。同じ庭でも、見た時が違う。私は苛立ち、祖母の返事ばかり待っていた。氷が湯のみに当たる音が、何度かした。

物置から借りた図鑑には、ゲンジボタルの幼虫は水中で暮らし、春に陸へ上がってさなぎになるとある。全ての蛍が同じ暮らし方をするのではない。昼の一度の観察で、この庭にその蛍がいるかまで決められない。本で読んだことを、見たことの隣へ書き直した。

帳面へ書き直した記録

記録の種類	書いたこと
自分が見たこと	六月の午後二時に探し、蛍は見つからなかった
図鑑で読んだこと	ゲンジボタルの幼虫は水中で暮らす
これから確かめたいこと	別の時刻や季節には何が見られるか

池では魚が草の影へ入り、亀は水面から鼻を出した。緑のものは藻のようでも、名前は分からない。藍藻は光合成をする細菌の仲間だと読んだが、色だけでこの池のものを藍藻とは呼べない。形を描き、名前の欄は空けた。

祖母が栽培する里芋の葉に、鳥の影が動く。鶏の卵の殻を置いた籠のそばでは、葛のつるが伸びていた。図鑑には熊や鶴もいる。それらまで庭にいたことにはできない。頁を埋めるために、本の生き物を引っ越しさせるわけにはいかなかった。

葉の裏の線を描いていると、鉛筆の先が少し丸くなった。魚が隠れた場所にも印を付ける。蛍を描けない頁の隣が、初めて見たものや、まだ名前のない形で増えていく。祖母は空いた椅子へ腰を下ろし、私が描き終えるのを待っていた。

私は「もういない」を消した。夜なら必ずいると書き換えるのでもない。日付と時刻を残し、別の時や季節には何が見えるかを次の問いにした。祖母がこの庭を見てきた時間は、私の一時間よりずっと長い。その話を聞く頁も、まだ白く残っている。

人物と庭は創作です。ゲンジボタルの生活史を、全ての蛍やこの庭の確認結果へ広げてはいません。

七　文章の中で考えよう 問い

自分で見たことと、図鑑で読んだことを分けて答えなさい。

（1）本文から、絵や写真などで物の様子を説明した本を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）ある特定の時を表す「ジテン」を、漢字二字で書きなさい。

（3）帳面の記録に合うものを選びなさい。

ア　午後二時の探索で庭に蛍がいないと確定した。
イ　見つからなかった時刻を残し、不在の断定をやめた。
ウ　図鑑の全ての生き物が庭にいるとした。
エ　池の緑色のものを藍藻と確定した。

（4）最後の「私」の変化に合うものを選びなさい。

ア　白い頁を埋めるため熊を描き足した。
イ　祖母の話を聞く必要はなくなった。
ウ　蛍以外の生き物は見ないと決めた。
エ　見つからない焦りから、庭の別の様子にも目を向けた。

（5）「私」が「もういない」を消した理由を、
探した時の条件と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）帳面を書き直す意味を、「観察」「図鑑」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
二つの情報の扱い方と、これからの問いを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十四回　生殖・生育・生態

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　植物を植え、育てること。動物を飼い育てることとは分ける。
（2）ア　殻は外側の硬い覆い。卵の中身そのものではない。
（3）エ　蛍光には蛍の光の意味もある。ここでは物質の発光をいう意味で読む。
（4）イ　藍藻は細菌の仲間。水の色や名前だけで、その正体を決めない。
（5）ウ　冠のように上に広がる枝葉のまとまりに着目する。
（6）ア　苛立ちはいらいらする気持ち。必ず行動へ出るとは限らない。

四　熟語を広げよう

（1）渡り鳥　（2）葉脈　（3）稚魚　（4）小麦　（5）盆栽
（6）蛍光　（7）白鶴　（8）鶏卵　（9）樹冠　（10）茶菓
（11）里芋　（12）卵殻　（13）葛粉　（14）苛酷

（5）盆栽は、鉢で樹木を育て、その姿を楽しむもの。栽培は自作文で使う。蛍の生物としての発光と、物質の蛍光を同じ仕組みと決めない。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　対象に合った語を使う。
（2）ア　色が見えたことと、種類が分かったことは異なる。
（3）イ　覆いを見つけたことだけで、その中や経過まで決めない。
（4）ウ　探索の時刻や範囲を越えて不在を断定しない。

五　自分で書く問題

（5）解答例

葉の裏を観察すると小さな卵が並び、私は数と見つけた時刻を記録した。

☆自分で確かめる点　見た対象と、確かめたことが分かるか。

（6）解答例

庭で小麦を栽培している祖母に、穂が出た日を帳面で見せてもらった。

☆自分で確かめる点　植物を植えて育てる場面になっているか。

六　短文で使ってみよう

（1）野鳥　（2）若葉　（3）金魚　（4）麦茶　（5）蛍火
（6）折鶴　（7）養鶏　（8）熊手　（9）桜花　（10）果樹
（11）菓子　（12）長芋　（13）亀裂　（14）藍藻　（15）甲殻
（16）くずゆ　（17）かれつ　（18）あいいろ　（19）そうるい　（20）とりにく・けいにく

（5）は蛍火、（6）は送り仮名も含めて折鶴。（8）熊手は道具の名。（9）桜花は桜の花。（13）亀裂はひび割れ。（14）藍藻は細菌の仲間。（16）は葛湯、（17）は苛烈。（20）鶏肉は「とりにく」「けいにく」とも読む。

七　文章の中で考えよう

（1）図鑑　絵や写真などで物を説明した本。そこに載る生き物が、全て庭にいたわけではない。
（2）時点　ある特定の時。午後二時の探索を、別の時刻や季節の確認に広げない。
（3）イ　一度の探索で、その庭からの不在を確定していない。
（4）エ　蛍を見つけることだけに向いていた目が、葉や魚にも向く。

七　記述問題の考え方

（5）　書いた言葉を消した理由 45〜55 字

（5）解答例　49 字

六月の午後二時に一度探しただけで、祖母の見た夜とは条件が違い、庭に蛍がいないとは決められないから。

（5）別解例　49 字

蛍を見つけられなかったのは昼の一度の探索であり、別の時刻や季節の様子まで確かめたわけではないから。

☆（5）自分で確かめる点

① 午後二時という探索条件を踏まえたか。
② 見つからなかったことと不在の確定を分けたか。
③ 夜なら必ずいるという結論にしていないか。

見つからなかったという記録にも、時刻と範囲が必要となる。

（6）　帳面を書き直す意味 70〜90 字

（6）解答例　87 字

私は自分の観察を日付や時刻とともに残し、図鑑で読んだゲンジボタルの暮らしと分けました。本の知識を庭の確認結果にせず、別の時刻や季節には何が見えるかを、これからの問いにします。

（6）別解例　81 字

帳面には観察で見えた魚や葉を残し、図鑑の知識とは欄を分けます。一度見つからないだけで不在と決めず、別の時刻の様子や祖母の話も確かめたいので、日付と時刻を記します。

☆（6）自分で確かめる点

①「観察」「図鑑」を使ったか。
② 見たことと本で知ったことを分けたか。
③ 別の時刻や季節、祖母の話へ問いを残したか。

知識は観察を助けるが、その場所で確認したことの代わりにはしない。

漢字から文章へ 第六冊

第十五回

材質と精密な作り

銀の鳥に、青い糸。
元どおりに直す前に、残したいものを探します。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

糸	銀	刀	黄
細い繊維のつながり	白く光る金属	片刃の刃物	黄色

鋼	絹	巾	硝
鉄の合金	蚕の繭から取る繊維	布きれ 覆う布	硝子などに使う字

いっしょに覚える漢字

棒	縦	締	臼	鈍	幣
縫	鋳	繕	繭	璧	器

この回で読むお話

銀の鳥の青い糸

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
糸	シ いと	細長くより合わせた繊維 糸口・糸・製糸	鋼	コウ はがね	炭素の量などを調整した鉄の合金 鋼材・鋼鉄・製鋼
銀	ギン	白く光る金属 銀器・銀貨・水銀	絹	ケン きぬ	蚕の繭から取る繊維 絹織物・生絹・絹糸
刀	トウ かたな	片刃の刃物 刀身・日本刀・短刀	巾	キン	布きれ／覆う布 巾着・頭巾・茶巾
黄	コウ オウ き	黄色 黄銅・黄色・黄金	硝	ショウ	硝石などに関わる／硝子という語に使う 硝子・硝石・硝酸

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
棒	ボウ	細長いまっすぐな物 棒鋼・鉄棒・棒状	縫	ホウ ぬう	糸で布などをつなぐ 縫製・裁縫・縫合
縦	ジュウ たて	上下の方向 縦糸・縦断・縦長	鋳	チュウ いる	金属を溶かして型へ流す 鋳造・鋳物・鋳型
締	テイ しまる しめる	ゆるみなく結ぶ／終える 締結・締切・引締め	繕	ゼン つくろう	直して整える 修繕・営繕・取り繕う
臼	キュウ うす	穀物などをつく道具 石臼・臼歯・脱臼	繭	ケン まゆ	蚕などが糸で作る、さなぎを包むもの 繭糸・繭・蚕繭
鈍	ドン にぶい にぶる	切れ味や反応が悪い 鈍器・鈍角・鈍色	璧	ヘキ	平らな輪形の宝玉 完璧・白璧・双璧
幣	ヘイ	神への供え物／通貨 貨幣・紙幣・御幣	器	キ うつわ	入れ物／働きを備えた道具 器具・容器・楽器

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「黄銅」に合うものを選びなさい。
ア　黄色に塗った木だけ　　イ　純粋な銀
ウ　銅と亜鉛を主に含む合金　　エ　蚕から取る繊維

(2)「巾着」の巾に関わる意味を選びなさい。
ア　布きれや覆う布　　イ　刀の鋭さ
ウ　金属を溶かすこと　　エ　水の深さ

(3)「鋳造」に合うものを選びなさい。
ア　糸で布をつなぐ　　イ　木を絵の具で塗る
ウ　石を紙で包む　　エ　溶かした金属を型へ流して作る

(4)「修繕」に合うものを選びなさい。
ア　古いものを必ず捨てる　　イ　傷んだ所を直して整える
ウ　名前を金属の名へ変える　　エ　作った年月を全て消す

(5)「完璧」に合うものを選びなさい。
ア　必ず一度も直していない　　イ　必ず新しく作った
ウ　欠点や不足がない　　エ　全部を同じ色にする

(6)「糸口」を比喩として使う文を選びなさい。
ア　縫い目の色が、持ち主を調べる糸口になった。　　イ　糸の先を針へ通した。
ウ　布を糸で縫った。　　エ　絹糸を箱へ入れた。

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　棒鋼　刀身　石臼　絹糸　糸玉　貨幣　硝子
鋼材　締切　銀器　鈍刀　巾着　黄銅　縦糸

文	解答	文	解答
(1) 糸を巻いて丸めた□□を箱へ入れる。		(8) 窓の□□を拭く。	
(2) 銀で作られた□□を展示する。		(9) 棒の形に加工した□□を運ぶ。	
(3) 刀の刃の部分を□□という。		(10) 織物の□□と横糸を見る。	
(4) 銅と亜鉛の合金を□□という。		(11) 書類の□□を確かめる。	
(5) 板や棒などの鋼の材料を□□と呼ぶ。		(12) 穀物をひく□□がある。	
(6) 蚕から取った□□で縫う。		(13) 切れ味のよくない□□をしまう。	
(7) 口をひもで締める□□に入れる。		(14) 古い□□の表と裏を見る。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「材質」と「色」に合うものを選びなさい。

銀色の鳥だったが、記録には黄銅製と書かれていた。

ア　銀色なら必ず銀製である。
イ　黄銅は布の名前である。
ウ　記録があれば色は見なくてよい。
エ　見た目の色と、何でできているかは別である。

（2）この「縫製」と「修繕」に合うものを選びなさい。

袋を縫製した年と、ほつれを修繕した年を分けて記した。

ア　縫って作ったことと、傷みを直したことを分けた。
イ　修繕すると縫い目は全て消える。
ウ　縫製は金属を型へ流すことだ。
エ　両方の年月は必ず一致する。

（3）この「記録」と「推測」に合うものを選びなさい。

写真では後から青い糸が見えるが、誰が縫ったかは祖母へ尋ねた。

ア　青い糸だけで縫った人が分かった。
イ　変化の証拠と、作業した人の確認を分けた。
ウ　古い写真は一切役立たない。
エ　祖母が話せば写真は不要になる。

（4）この「修繕」に合うものを選びなさい。

母は青い糸を残し、ほつれた縁だけを繕った。

ア　全てを新品へ交換した。
イ　傷みを放置した。
ウ　残したい跡と、直す傷みを分けた。
エ　鳥の材料を銀に変えた。

（5）「糸口」を比喩として使い、一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「修繕」を使い、直す所と残す所を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 古い**ギンカ**の表と裏を見る。	
(2) 長い刀と短い**タントウ**を絵で比べる。	
(3) 黄色を帯びた土を**オウド**という。	
(4) 鉄の合金である**コウテツ**を材料に使う。	
(5) 絹で織った**ケンプ**の手触りを確かめる。	
(6) 人形の頭に小さな**ズキン**をかぶせる。	
(7) 鉱物の**ショウセキ**という名を読む。	
(8) 驚いて**ボウダチ**になった。	
(9) 南北に長い島を**ジュウダン**する道を描く。	
(10) 二つの国が条約を**テイケツ**した記録を読む。	
(11) 茶葉を粉にする**チャウス**を絵に描く。	
(12) 物語の人物が物音に**ドンカン**だった。	
(13) 布を縫って袋を作る**ホウセイ**の仕事を見る。	
(14) 溶かした金属を型へ流す**チュウゾウ**で形を作る。	
(15) 繭から取る**ケンシ**を本で調べる。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 銀河	(17) 絹織物	(18) 鈍器	(19) 容器	(20) 製糸

この回を終えたら もう一度確かめる

新品のようにすることだけが、よい直し方でしょうか。
物の材料と、そこへ残された人の時間を読んでみましょう。

七　文章の中で考えよう

銀の鳥の青い糸

「それ、抜いてしまうの？」祖母の声で、私は指を止めた。小さな巾着から出した、銀色の鳥。尾の下に青い糸がのぞいている。糸は鳥の部品ではなく、袋の縫い目から出ていた。きれいな白へ戻せると思ったのに、祖母は鳥より先に袋を机へ置いた。

台は鋼、目は硝子でできている。箱には石臼や刀を並べた昔の店の写真と、買った日の帳面があった。「黄銅の鋳物、代金は銀の貨幣で」。銀の鳥という名だけで、材料まで銀とは言えなかった。支える棒鋼は黒く、翼が窓の光を鈍く返した。

袋の布は絹で、縦糸に沿って傷みが見える。祖母は蚕の繭から糸を取った話をし、私の指を縫い目へ戻した。袋を縫製した人と、後から繕った人は同じなのだろうか。祖母もすぐには答えず、引き出しの奥を探した。

出てきた二枚の写真では、初めの袋は白く、後の袋には青い縫い目がある。私は青い色から縫った人まで分かった気になったが、その名は写っていない。写真の間に、薄い日記が挟まっていた。

「母が青い布で直してくれた」。誰の日記かを聞くと、祖母が子どもの頃に書いたものだった。青い糸は、祖母の母が修繕した跡なのだ。手先の器用だった母の話をする間、祖母の指はほつれた縁でなく、青い所をなぞっていた。

白くすればよいと思っていた。でもそれでは、祖母が残しておきたい跡まで抜いてしまう。母へ相談すると、青い糸を残して縁を直せると言った。完璧に新しく見せる前に、この袋のどこを残したいか、持ち主へ聞く方が先だった。

母が針を置き、袋を私へ渡した。鳥を戻し、ひもを締める。平らな輪形の宝玉、璧を描いた札も揺れた。これも祖母の母が足したそうだ。結び直しても、青い糸は少し外へ見えていた。

祖母は袋を膝に置き、昔の店の匂いの話をした。私は鳥の台を直した人のことも聞きたくなったが、まずはその話を待つ。机の上には、母が切った白い糸と、二枚の写真が並んでいた。

人物・玩具・写真・日記は創作です。実物の文化財や古い物の修復方法を示すものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

材質の記録と、縫い目から分かることを確かめて答えなさい。

（1）本文から、日々の出来事などを書き留めたものを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）本文から、欠点や不足がないことを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（3）鳥の材質について合うものを選びなさい。

ア　銀色なので全て純銀でできている。
イ　硝子の台と絹の目でできている。
ウ　写真の色だけで黄銅と確定した。
エ　帳面に黄銅の鋳物とあり、呼び名と材質を分けて考えた。

（4）青い糸について合うものを選びなさい。

ア　鳥の翼を動かす新しい部品である。
イ　初めの写真から青い糸が写っている。
ウ　祖母の母が袋を直した跡で、今回は残すことにした。
エ　青い色だけで縫った人が分かった。

（5）「私」が青い糸を抜くのをやめた理由を、
祖母にとっての意味と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）今回の修繕の考え方を、「縫い目」「記録」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
何を確かめ、何を残したかを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十五回　材質と精密な作り

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　金属の名。黄色いことだけで、全ての物を黄銅とは呼べない。
（2）ア　巾の中心は布に関わる意味。幅を表す字としてだけ覚えない。
（3）エ　金属の加工方法。縫製や修繕とは、対象と作業を分けて読む。
（4）イ　傷みを直すこと。必ず作られた時と全く同じ状態へ戻すとは限らない。
（5）ウ　璧は平らな輪形の宝玉。完璧という語では欠点などがないことを表す。
（6）ア　手がかりや、物事を始めるきっかけをいう。実物の糸だけに限らない。

四　熟語を広げよう

（1）糸玉　（2）銀器　（3）刀身　（4）黄銅　（5）鋼材
（6）絹糸　（7）巾着　（8）硝子　（9）棒鋼　（10）縦糸
（11）締切　（12）石臼　（13）鈍刀　（14）貨幣

（1）糸玉は糸を巻いて玉の形にしたもの。糸口は自作文で使う。鋼材は鋼の材料で、棒鋼はその具体例。「器」は第二冊第十七回からの再会字。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　銀という名や色だけで、材料を銀と確定しない。
（2）ア　作る作業と、後から直す作業を区別する。
（3）イ　写真に写る変化が、人の正体まで示すとは限らない。
（4）ウ　今回、母は青い糸の意味を知り、それを残す直し方を選んだ。

五　自分で書く問題

（5）解答例

写真の裏に残った日付が調査の糸口となり、私は祖母へ手紙を書いた。

☆自分で確かめる点　何が、何を調べる手がかりになったか。

（6）解答例

父は古い椅子の脚を修繕し、背もたれに刻まれた妹の名前は残した。

☆自分で確かめる点　傷みを直すことと、残す部分が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）銀貨　（2）短刀　（3）黄土　（4）鋼鉄　（5）絹布
（6）頭巾　（7）硝石　（8）棒立ち　（9）縦断　（10）締結
（11）茶臼　（12）鈍感　（13）縫製　（14）鋳造　（15）繭糸
（16）ぎんが　（17）きぬおりもの　（18）どんき　（19）ようき　（20）せいし

（3）は黄土、（5）絹布は絹の織物。（8）は送り仮名も含めて棒立ち。（11）茶臼は茶葉をひく臼。（13）縫製は布などを縫って作ること。（14）は鋳造、（15）は繭糸。（17）は「きぬおりもの」。

七　文章の中で考えよう

（1）日記　日々の出来事などを書いたもの。祖母が子どもの頃に書いたと、本人へ確かめている。
（2）完璧　字の璧は宝玉だが、語では不足などがないことを表す。
（3）エ　銀色という見た目と、黄銅という材質は分けて読む。
（4）ウ　写真の変化を確認し、日記の持ち主も祖母へ尋ねた。

七　記述問題の考え方

（5）　青い糸を残した理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

青い糸は祖母の母が袋を直した跡であり、白く戻すと、祖母が大切にしている母との思い出まで消しかねないから。

（5）別解例　49 字

青い縫い目には、祖母の母が直してくれた記憶があり、傷みとは分けて持ち主の残したい跡を守りたいから。

☆（5）自分で確かめる点

① 祖母の母が直した跡だと示したか。
② 祖母が残したい記憶との関係を述べたか。
③ 古い糸なら何でも残すという説明にしていないか。

見た目の新しさだけで、持ち主にとってのよさを決めない。

（6）　今回の修繕の考え方 70〜90 字

（6）解答例　85 字

私は写真や日記の記録と祖母の話から、青い縫い目が祖母の母の修繕の跡だと知りました。白へ戻す前に持ち主の思いを聞き、青い糸は残して、母に袋の縁のほつれを直してもらいました。

（6）別解例　84 字

記録で袋の変化を確かめ、日記の持ち主を尋ねたことで、青い縫い目の意味が分かりました。私は新品の姿だけを目指さず、祖母の残したい跡を守り、傷んだ縁を直す方法を選びました。

☆（6）自分で確かめる点

①「縫い目」「記録」を使ったか。
② 写真・日記と祖母への確認を結び付けたか。
③ 青い跡を残し、縁の傷みを直す方針を示したか。

資料の確認と、持ち主にとっての意味を尋ねることが両方必要だった。

漢字から文章へ 第六冊

第十六回

味覚・装束・住まい

客間に並べた、二人分のお膳。
三人目の席を、どこへ置きましょう。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

宅	房	寝	鉢
住まい 家	部屋 まとまり	横になって眠る	深さのある器
餌	膳	襟	麺
動物の食べ物	食事を載せる台	衣服の首回り	細長い食品

いっしょに覚える漢字

居	均	焼	召	卓	飾
串	釣	粋	飽	裸	湧

この回で読むお話

三人目の膳を置く場所

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
宅	タク	住まい／家 住宅・自宅・宅地	餌	ジ えさ	動物に与える食べ物 餌場・給餌・餌
房	ボウ ふさ	部屋／まとまり垂れるもの 工房・房室・乳房	膳	ゼン	食事を載せる台／食事 配膳・膳・食膳
寝	シン ねる ねかす	横になって眠る 寝具・就寝・寝室	襟	キン えり	衣服の首回り 襟元・開襟・襟章
鉢	ハチ ハツ	深さのある器 植木鉢・乳鉢・鉢植え	麺	メン	小麦粉などを細長くした食品 麺類・麺棒・素麺

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
居	キョ いる	その場所にいる／住む 居間・住居・居住	串	くし	食べ物などを刺す細い棒 串焼き・竹串・串刺し
均	キン	同じにそろう 均等・平均・均衡	釣	チョウ つる	糸などで引き上げる 釣瓶・魚釣り・釣合い
焼	ショウ やく やける	火や熱を加える 焼成・燃焼・焼物	粋	スイ いき	気が利いて洗練されている／まじりけがない 粋・純粋・精粋
召	ショウ めす	呼び寄せる／食べるなどの敬語 召し上がる・召集・召喚	飽	ホウ あきる あかす	十分になる／満ち足りて嫌になる 飽食・飽和・飽きる
卓	タク	高い台／優れる 食卓・卓上・卓越	裸	ラ はだか	衣服や覆いがない 裸足・裸身・全裸
飾	ショク かざる	美しく付け加える 装飾・服飾・飾り	湧	ユウ わく	水などが地中から出る 湧水・湧出・湧泉

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

（1）「配膳」に合うものを選びなさい。
ア　衣服の襟を直す　　イ　食器を焼いて作る
ウ　食事を載せた器などを並べる　　エ　水を地中から出す

（2）この「召し上がる」に合うものを選びなさい。
ア　食べる、飲むの尊敬語　　イ　人を呼び集めることだけ
ウ　物を均等に分けること　　エ　部屋を飾ること

（3）「純粋」に合うものを選びなさい。
ア　気の利いた服装だけ　　イ　必ず値段が高い
ウ　十分に飽きた様子　　エ　まじりけがないこと

（4）「飽和」に合うものを選びなさい。
ア　空に何もない状態　　イ　それ以上は受け入れにくいほど満ちた状態
ウ　服を身につけないこと　　エ　必ず食べ過ぎることだけ

（5）「焼成」に合うものを選びなさい。
ア　飾りの色だけを選ぶ　　イ　料理を皿へ並べる
ウ　陶磁器などを焼いて作り上げる　　エ　布を細く切る

（6）「釣瓶」に合うものを選びなさい。
ア　井戸の水をくむためにつるす桶　　イ　魚を刺す細い棒
ウ　料理を載せる低い台　　エ　寝る時に使う布

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。送り仮名も含め、各語は一度ずつ使います。

語群　居間　寝具　召し上がる　御膳　自宅　装飾　素麺
給餌　焼成　工房　食卓　襟元　鉢植え　均等

文	解答	文	解答
（1）自分の □□へ友人を招く。		（8）細い □□をゆでる。	
（2）器を作る □□へ行く。		（9）家族が □□に集まる。	
（3）夜の □□を整える。		（10）同じ数ずつ □□に分ける。	
（4）窓辺の □□□に水をやる。		（11）器を窯で □□する。	
（5）鳥への □□を記録する。		（12）お客様が料理を □□□□□。	
（6）料理を載せた □□を客に運ぶ。		（13）皆で □□を囲む。	
（7）着物の □□を整える。		（14）部屋の □□を考える。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「均等」と「希望」に合うものを選びなさい。

皿は均等に置いたが、座る場所の希望はまだ聞いていなかった。

ア　均等なら希望は必ず一致する。
イ　希望は皿の数だけで分かる。
ウ　均等なら全員が同じ量を食べる。
エ　同じにそろえることと、望みを確かめることは別だ。

（2）この「粋」と「純粋」に合うものを選びなさい。

粋な襟元を褒め、器の色は純粋な青だと話した。

ア　気の利いた様子と、まじりけのない色を分けた。
イ　どちらも食事の量をいう。
ウ　純粋は服だけに使う。
エ　粋は必ず物の成分だけをいう。

（3）この「給餌」と「配膳」に合うものを選びなさい。

庭の鳥への給餌を終え、皆の食事の配膳を手伝った。

ア　どちらも人の料理だけを並べる。
イ　動物に餌を与えることと、食事を整えることだ。
ウ　給餌は鳥を必ず捕らえることだ。
エ　配膳は器を窯で焼くことだ。

（4）この「住居」と「工房」に合うものを選びなさい。

この建物は住居でもあり、器を作る工房でもある。

ア　一つの建物には役割が一つだけだ。
イ　住居なら仕事はできない。
ウ　暮らす場所と、製作する場所の役割を兼ねている。
エ　工房は必ず客間の別名である。

（5）「配膳」を使い、食事を整える一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「希望」を使い、決める前に尋ねる一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 出かけていた父が**キタク**した。	
(2) 眠るための**シンシツ**を整える。	
(3) 窓辺の**ウエキバチ**に花を植える。	
(4) 物語で、獣の**エジキ**になる場面を読む。	
(5) 髪を短くして**エリアシ**が見える。	
(6) うどんやそばなどの**メンルイ**を店に並べる。	
(7) この町に**キョジュウ**していた頃の話を聞く。	
(8) 物語で、魔法により精霊を**ショウカン**する。	
(9) 他より抜きん出た**タクエツ**した技に驚く。	
(10) 串に刺して焼く**クシヤキ**を皿へ置く。	
(11) 絵の中で、魚が**ツリイト**を引いている。	
(12) まじりけのない色を**ジュンスイ**な青と呼ぶ。	
(13) それ以上受け入れにくいほど満ちる**ホウワ**という語を学ぶ。	
(14) 靴も靴下も脱いで**ハダシ**になる。	
(15) 地中から出る**ユウスイ**の場所を地図で見る。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 宅配	(17) 暖房	(18) 就寝	(19) 均衡	(20) 首飾り

この回を終えたら もう一度確かめる

きれいに整える前に、相手へ何を聞きたいですか。
自分の好きな場所と、相手の希望を分けて考えましょう。

七　文章の中で考えよう

三人目の膳を置く場所

客間には二人分の膳を均等に並べた。祖母の友人のハナさんが、久しぶりに自宅へ来る。鉢の花を飾り、二人には静かにごちそうを召し上がってもらうつもりだ。私の膳は居間へ置いた。襖の向こうに離れた自分の席を見ても、支度はできたと思っていた。

ハナさんは粋な襟元の服で現れ、泊まるための寝具を見て礼を言った。それから、工房は今も使っているの、と祖母へ尋ねる。この家は住居と、器を焼く仕事場を兼ねる。客間へ案内しても、二人の話は工房の長い食卓へ戻っていった。

台所では素麺と串焼きができていた。配膳を始めようとすると、ハナさんが私の席を探す。私は気を遣わず二人で、と答えた。皿を持つ手が止まった。

「久しぶりに、三人で器を見ながら食べたいのだけれど。」

私を外へ出してほしい、という希望ではなかった。工房の窓には鉢植えが並び、古い釣瓶も花の器になっている。庭の鳥への給餌は祖母が朝に済ませたという。地図に残る昔の湧水の印を、ハナさんは懐かしそうに見た。私は、その場所の名さえ知らなかった。

祖母が棚から三つの鉢を出した。若い頃、ハナさんと一緒に作ったものだ。底の印を見せ、工房で焼成した日の話をする。装飾の美しい客間を選んだ私には、この机で話したい理由が見えていなかった。ハナさんは、鉢のわずかなゆがみを笑って指した。

どの部屋なら落ち着けますか、と改めて尋ねた。二人は工房を選び、私にも隣へ座ってほしいと言った。道具を片づけ、三人目の膳を運ぶ。料理の数は変わらない。それでも今度は、同じ料理のおいしさを、すぐ隣で話せそうだった。

食べ終えても飽きるどころか、続きを聞きたくなった。昔はここを裸足で走った、とハナさんが笑う。次の客まで工房が好きとは決めないでおこう。机には三つの鉢が残り、祖母はまだ、どれも棚へ戻そうとしなかった。

人物・家・器は創作です。古い道具の使用や水の飲用を勧める内容ではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

「私」の計画と、二人が望んでいた過ごし方を比べて答えなさい。

（1）本文から、料理をする場所を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）本文から、「工房」と対になる暮らす場所の役割を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（3）ハナさんが「私」の席を探した理由に合うものを選びなさい。

ア　食事を全て一人で食べたいから。
イ　私に工房へ入ってほしくないから。
ウ　私も交え三人で器を見ながら食べたいから。
エ　客間の装飾を全部捨てたいから。

（4）最後の「私」の考えに合うものを選びなさい。

ア　次の客にも、場所を決める前に希望を尋ねたい。
イ　全ての客は必ず工房を好む。
ウ　配膳をすれば希望を聞く必要はない。
エ　客とは別の部屋で食べるのが唯一のもてなしだ。

（5）「私」が三人目の膳を工房へ運んだ理由を、
二人の望みと結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）「私」のもてなしの変化を、「配膳」「希望」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
初めの考えと、尋ねた後の行動を比べます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十六回　味覚・装束・住まい

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　食事の器などを整えて並べること。食べること自体とは分ける。
（2）ア　ここでは相手が食べることを敬っていう。召集とは語全体の働きが異なる。
（3）エ　粋には気が利いている意味もあるが、純粋ではまじりけがないことに着目する。
（4）イ　十分に満ちた状態をいう。飽を含む語を食事だけへ限定しない。
（5）ウ　熱を加えて物を作り上げること。本文では器を窯で焼く場面で使う。
（6）ア　井戸の水をくむ道具。古い道具を見つけても、現在使えるかは別に確かめる。

四　熟語を広げよう

（1）自宅　（2）工房　（3）寝具　（4）鉢植え　（5）給餌
（6）御膳　（7）襟元　（8）素麺　（9）居間　（10）均等
（11）焼成　（12）召し上がる　（13）食卓　（14）装飾

（6）御膳は膳や食事を敬っていう語。配膳は自作文で使う。（12）召し上がるは送り仮名も含め五字。均等な配置だけで、相手の希望まで分かるわけではない。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　配置がそろっていても、本人の過ごしたい場所とは限らない。
（2）ア　同じ粋でも、語と場面で意味の働きが異なる。
（3）イ　誰を対象に何をしているかを読む。
（4）ウ　場所の名は役割に着目する。同じ建物が複数の役割を持つこともある。

五　自分で書く問題

（5）解答例

祖母に座る場所を尋ねてから配膳し、私の膳も隣の机へ移して並べた。

☆自分で確かめる点　誰の食事をどこへ整えたかが分かるか。

（6）解答例

私は客間を勧める前に友人の希望を聞き、一緒に庭の見える席を選んだ。

☆自分で確かめる点　相手が望むことを確認した様子があるか。

六　短文で使ってみよう

（1）帰宅　（2）寝室　（3）植木鉢　（4）餌食　（5）襟足
（6）麺類　（7）居住　（8）召喚　（9）卓越　（10）串焼き
（11）釣り糸　（12）純粋　（13）飽和　（14）裸足　（15）湧水
（16）たくはい　（17）だんぼう　（18）しゅうしん　（19）きんこう　（20）くびかざり

（4）は餌食、（8）召喚は呼び出すこと。（10）（11）は送り仮名も書く。（12）は純粋、（13）は飽和、（14）は裸足。（15）湧水は「ゆうすい」「わきみず」とも読む。

七　文章の中で考えよう

（1）台所　料理をする場所。初めに食べる予定だった客間や居間とは、役割を分けて読む。
（2）住居　この家は器を作る工房の役割も兼ねる。
（3）ウ　ハナさんの言葉に、三人で食べたいという望みがある。
（4）ア　今回の二人の希望を、全ての客へ広げてはいない。

七　記述問題の考え方

（5）　三人目の膳を運んだ理由 45〜55 字

（5）解答例　50 字

二人は客間で二人だけになるより、思い出の器がある工房で、私も交えて三人で食べながら話したかったから。

（5）別解例　49 字

二人に希望を尋ねると、一緒に器を作った工房を選び、私にも隣へ座ってほしいという望みが分かったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 二人が工房を選んだことを示したか。
② 私も一緒に食べたいという希望を述べたか。
③ 客間が悪い場所だと一般化していないか。

相手の望みは、こちらがよいと思った支度だけでは分からない。

（6）　もてなしの変化 70〜90 字

（6）解答例　84 字

私は客間に二人分を配膳し、自分は居間で食べるつもりでした。希望を聞くと、二人は思い出の工房で私と食べたかったと分かり、三人目の膳を運びました。次の客にも望みを尋ねます。

（6）別解例　88 字

初めは美しい客間へ配膳すればよいと考えましたが、二人の希望は工房で私も交えて食べることでした。器を作った思い出を聞き、三人で机を囲む支度へ変え、今後も決める前に相手へ尋ねます。

☆（6）自分で確かめる点

①「配膳」「希望」を使ったか。
② 初めの計画と、聞いた後の行動を対比したか。
③ 工房が全員に最適と決めず、次も尋ねる姿を示したか。

もてなしのよさを、部屋の美しさだけで決めない。

漢字から文章へ 第六冊

第十七回

精密技術と構造

町を十分の一にしたら、鐘の音も十分の一？
模型を作りながら、残せるものを考えます。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

能	極	似	率
働き できる力	端 きわめる	にる 相似	割合 ひきいる

熟	磁	双	架
十分に進む	磁石の性質	二つ 互いに	渡す 組み立てる

いっしょに覚える漢字

巨	弦	枢	堀	弧	栓
摩	硫	欄	艦	鐘	醸

この回で読むお話

模型の町の小さな鐘

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
能	ノウ	働き／なし得る力 性能・機能・能力	熟	ジュク うれる	十分に進む／こなれる 熟成・成熟・熟練
極	キョク ゴク きわめる きわまる きわみ	端／限界／きわめる 極性・南極・究極	磁	ジ	磁石などの性質に関わる 磁力・磁石・地磁気
似	ジ にる にせる	形や性質が近い／相似という語に使う 相似・類似・似顔	双	ソウ ふた	二つで一組 双方向・双方・双眼
率	ソツ リツ ひきいる	割合／導く 比率・効率・統率	架	カ かける かかる	空中へ渡す／組み立てる 架橋・高架・架台

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
巨	キョ	非常に大きい 巨大・巨石・巨額	摩	マ	こする／すり減る 摩耗・摩擦・研摩
弦	ゲン つる	弓に張る糸／円周上の二点を結ぶ線 弦長・弦楽・正弦	硫	リュウ	硫黄に関わる 硫黄・硫酸・硫化
枢	スウ	中心となる大切な所 中枢・枢軸・枢要	欄	ラン	囲い／区切った記入部分 欄干・記入欄・空欄
堀	ほり	地面を掘って作った溝や水路 空堀・外堀・堀端	艦	カン	軍用の大きな船 軍艦・艦隊・旗艦
弧	コ	弓なりの曲線 円弧・括弧・弧状	鐘	ショウ かね	打って鳴らす金属製の器 鐘楼・釣鐘・警鐘
栓	セン	穴をふさぐもの 栓・給水栓・血栓	醸	ジョウ かもす	発酵させて作る／生み出す 醸造・醸成・醸す

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「機能」に合うものを選びなさい。
ア　必ず値段の高さだけ　　イ　外側の色だけ
ウ　物が果たす働き　　エ　作った年月だけ

(2) 図形の「相似」に合うものを選びなさい。
ア　形が同じで、大きさが同じ場合も含む　　イ　材料と使い方が必ず同じ
ウ　大きさが同じなら形は問わない　　エ　必ず一方を小さくした場合だけ

(3)「熟成」に合うものを選びなさい。
ア　必ず腐って使えなくなる　　イ　形が小さくなるだけ
ウ　金属を型へ流す　　エ　時間とともに味や性質などが十分になる

(4)「双方向」に合うものを選びなさい。
ア　片方だけが話し続ける　　イ　双方から働きかけたり伝えたりする
ウ　二つを全く同じにする　　エ　方向を決めないことだけ

(5)「摩耗」に合うものを選びなさい。
ア　磁石が鉄を引く　　イ　器が焼き上がる
ウ　こすれてすり減る　　エ　水が地中から出る

(6)「弦」と「円弧」の区別に合うものを選びなさい。
ア　弦は円周上の二点を結ぶ線分、円弧は円周の一部　　イ　どちらも円の中心だけをいう
ウ　弦は必ず曲線である　　エ　円弧は必ず直線である

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　巨大　相似　外堀　磁力　能力　給水栓　架橋
熟練　中枢　究極　円弧　双眼鏡　比率　弦

文	解答	文	解答
(1) 読み書きの □□を伸ばす。		(8) 川を渡す □□の計画だ。	
(2) 物語の □□の選択を考える。		(9) 見上げるほど □□な模型だ。	
(3) 形が同じで大きさを変えた □□な図形だ。		(10) 円周上の二点を結ぶ □を引く。	
(4) 二つの量の □□を比べる。		(11) 町の働きの □□を担う市場だ。	
(5) 長い経験で □□した技だ。		(12) 城の外の □□を描く。	
(6) 鉄を引き付ける □□を調べる。		(13) 円周の一部を □□と呼ぶ。	
(7) 両目でのぞく □□□を使う。		(14) 水を止める □□□を閉める。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「機能」と「性能」に合うものを選びなさい。

鐘を鳴らして知らせる機能と、教室の奥まで聞こえる性能を確かめた。

ア　どちらも鐘の色だけをいう。
イ　遠くまで聞こえれば何をしても同じだ。
ウ　機能は必ず数字だけで表す。
エ　何をするかと、どの程度できるかを分けた。

（2）この「相似」と「材質」に合うものを選びなさい。

建物の形は相似にしたが、石の壁を紙で作った。

ア　形をそろえても、材料まで同じとは限らない。
イ　相似なら材料も必ず石になる。
ウ　紙なら形を比べられない。
エ　材料が違えば一切似ていない。

（3）この「醸造」と「熟成」に合うものを選びなさい。

味噌の醸造の展示で、熟成による味の変化も読んだ。

ア　熟成は必ず醸造の後にだけ起こる。
イ　発酵を利用して作ることと、味などが十分になる変化だ。
ウ　どちらも形を紙で写すことだ。
エ　醸造と熟成は一切関わらない。

（4）この「双方向」に合うものを選びなさい。

説明の後に祖父の話も聞き、その希望を受けて模型を変えた。

ア　説明を聞く側は話していない。
イ　模型の形が二つあるだけだ。
ウ　伝えた後、相手の言葉も受けてやり取りした。
エ　同じ意見だけを繰り返した。

（5）「機能」を使い、道具の働きを説明しなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「双方向」を使い、やり取りのある一文を書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 何にでも役立つ**バンノウ**の道具として売り出す。	
(2) 物語の人物が力の**キョクゲン**に挑む。	
(3) 二つの図には形の**ルイジ**が見られる。	
(4) さいころの目が出る**カクリツ**を比べる。	
(5) 時間をかけて味噌が**ジュクセイ**する。	
(6) 鉄を引き付ける**ジシャク**を図で学ぶ。	
(7) 芽を出した豆の**フタバ**を描く。	
(8) 模型を支える**カダイ**を組み立てる。	
(9) 優れた芸術家を**キョショウ**と呼ぶ。	
(10) 歯車がこすれてすり減る**マモウ**を調べる。	
(11) 鉱物の**イオウ**という名を読む。	
(12) 橋の端の**ランカン**を写真と比べる。	
(13) 複数の軍艦からなる**カンタイ**を物語で読む。	
(14) 鐘をつるした**ショウロウ**の模型を作る。	
(15) 発酵を利用して味噌などを作る**ジョウゾウ**を学ぶ。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 性能	(17) 極端	(18) 率直	(19) 内堀	(20) 摩擦

この回を終えたら もう一度確かめる

何を似せた模型なのか、言葉にしてみましょう。
形・材料・働きのうち、何を確かめたでしょうか。

七　文章の中で考えよう

模型の町の小さな鐘

小さな鐘を鳴らすと、祖父が模型へ顔を近づけた。祖父の暮らした町を、長さの比率を十分の一にして作ったのだ。城の外堀、港の艦、橋の欄干。町の中枢だった市場には鐘楼も立てた。形が相似なら、昔の町を十分に伝えられると思っていた。

教室では巨大に見える町でも、石の建物を紙で作っている。橋の架台は紙の棒だ。窓の円弧と両端を結ぶ弦を描き分け、給水栓には磁石を入れて、外すと中を見られるようにした。極の向きも確かめる。何度も動かすと縁が摩耗し、指に紙の粉が付いた。

醸造所の札には、味噌が熟成する時間を書いた。港の倉には硫黄という荷物の名もある。でも模型の樽で味噌ができるわけではない。匂いも、働く人の声も出ない。小さな鐘だけは鳴るようにし、友人に教室の奥で聞いてもらった。

模型で確かめたこと

着目した点	今回の模型で言えること
形	長さを十分の一にして、配置や形を写した
機能	小さな鐘を鳴らし、音で知らせられた
性能	教室の奥で音が聞こえることを試した

奥から友人の手が上がった。鐘の音は聞こえたのだ。音で知らせる機能と、ここでどれだけ聞こえるかという性能を確かめられた。ただし昔の町の音を測ったのではない。縮尺をそろえても、音が届く距離まで十分の一になるとは決められない。

「私の家へ帰る道が、ないね。」

祖父が市場の裏を指した。私は写真どおりにできなかったと落ち込んだが、祖父は模型を責めていなかった。友人と別れて家へ向かった角を探しているのだ。記念の建物ばかり写しても、祖父の暮らした町の全部にはならなかった。

道の話を聞き、家の場所へ小さな印を置いた。祖父はもう一つの角を示し、店が閉まると猫がいた、と話した。写真では分からない匂いまで付け足せたわけではない。それでも、こちらの説明を聞いてもらうだけの模型からは変わった。

受け取った言葉で作り直す。双方向という語が、少し分かった気がした。鐘をもう一度鳴らすと、祖父は帰り道で友人と話したことを思い出した。市場の屋根はまだ乾ききらず、祖父の袖が触れないよう、私は町を少し手前へ引いた。

人物・町・模型は創作です。模型で試した結果を、昔の町や実物の構造・音響へそのまま広げてはいません。

七　文章の中で考えよう 問い

模型で確かめた範囲と、祖父の言葉から分かったことを分けて答えなさい。

（1）本文から、実物の形などをまねて作った物を表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）地図や模型の長さと実物の長さとの比を表す「シュクシャク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）鐘の実験から言えることを選びなさい。

ア　小さな鐘の音が教室の奥で聞こえた。
イ　昔の町の全ての家へ音が届いた。
ウ　音の距離も十分の一になると分かった。
エ　模型の味噌が昔と同じ味に熟成した。

（4）祖父の言葉を聞いた後の「私」に合うものを選びなさい。

ア　写真だけで祖父の記憶を否定した。
イ　模型を全て捨てた。
ウ　家の道は展示に不要だと決めた。
エ　道の話を聞き、家の印を加えて模型を作り変えた。

（5）祖父の「家へ帰る道がない」という言葉を受け、
「私」が模型を変えた理由を 45〜55 字で書きなさい。

（6）模型の鐘で分かったことを、「機能」「性能」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
試した範囲と、まだ決められないことを伝えます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十七回　精密技術と構造

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　何をする働きかに着目する。性能では、その働きのよさや程度などを比べる。
（2）ア　相似は形に着目する。同じ大きさの合同な図形も相似に含まれる。
（3）エ　食品などの変化に使う。醸造と関わる場合もあるが、同じ作業の名ではない。
（4）イ　両方からのやり取りがあること。二つあるだけでは双方向とはいえない。
（5）ウ　物同士が触れ合うなどしてすり減ること。摩擦はこすれ合うことに着目する。
（6）ア　同じ円の二点に関わっても、直線の線分と円周に沿う部分を分ける。

四　熟語を広げよう

（1）能力　（2）究極　（3）相似　（4）比率　（5）熟練
（6）磁力　（7）双眼鏡　（8）架橋　（9）巨大　（10）弦
（11）中枢　（12）外堀　（13）円弧　（14）給水栓

（1）能力は、物事を行える力。機能は自作文で使う。（7）双眼鏡は両眼でのぞく望遠鏡。相似は同じ形に着目し、大きさが等しい場合も含む。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　働きの種類と、働きの程度を区別する。
（2）ア　形について成り立つ関係を、材料や働きへ広げない。
（3）イ　醸造の過程に熟成が関わることもある。語を同一視せず、排他的にも分けない。
（4）ウ　説明する側からの一方通行で終わらず、相手の言葉を受け取った。

五　自分で書く問題

（5）解答例

この鐘には音で時刻を知らせる機能があり、私は鳴らす役を担当した。

☆自分で確かめる点　何をする働きかを具体的に示したか。

（6）解答例

説明の後に質問も受け、互いの考えを聞く双方向の話合いを目指した。

☆自分で確かめる点　両方から伝えたり受け取ったりしているか。

六　短文で使ってみよう

（1）万能　（2）極限　（3）類似　（4）確率　（5）熟成
（6）磁石　（7）双葉　（8）架台　（9）巨匠　（10）摩耗
（11）硫黄　（12）欄干　（13）艦隊　（14）鐘楼　（15）醸造
（16）せいのう　（17）きょくたん　（18）そっちょく　（19）うちぼり　（20）まさつ

（3）類似は似ていること。図形の相似と同じ条件とは限らない。（7）は双葉、（8）は架台、（11）は硫黄、（14）は鐘楼。（15）醸造と熟成は関わる場合もあるが同じ作業名ではない。（18）は「そっちょく」。

七　文章の中で考えよう

（1）模型　実物の形などをまねて作った物。今回は町の形や配置を写し、鐘の音も試している。
（2）縮尺　実物の長さに対する地図や模型の長さの比。形の比から音の届く距離まで決めない。
（3）ア　今回試したのは、模型の鐘が教室内で聞こえること。
（4）エ　祖父からの言葉を受け取り、模型に反映した。

七　記述問題の考え方

（5）　帰り道を加えた理由 45〜55 字

（5）解答例　53 字

記念の建物を写すだけでは、友人と別れて帰った道など、祖父の暮らしの記憶を十分に伝えられないと気づいたから。

（5）別解例　52 字

祖父は模型の間違いを責めたのでなく、自分の暮らした道を話したので、その記憶も表す町にしたいと思ったから。

☆（5）自分で確かめる点

① 祖父の言葉を単なる失敗の指摘にしていないか。
② 建物だけでは残らない暮らしの記憶を示したか。
③ 道の話を聞き、模型へ反映したことと結んだか。

模型が表していた町と、祖父が語った町の違いを読む。

（6）　模型の鐘で分かったこと 70〜90 字

（6）解答例　87 字

模型の鐘には、鳴らして音で知らせる機能があり、教室の奥まで聞こえる性能を試しました。ただし昔の町の音を測ったわけではなく、形の比率だけで実物の音の届く範囲まで決められません。

（6）別解例　87 字

小さな鐘を鳴らす機能と、その音が教室の奥まで届く性能は確認しました。しかし実験は教室内の模型のもので、昔の町でどこまで聞こえたかや、音の距離が十分の一になるかは分かりません。

☆（6）自分で確かめる点

①「機能」「性能」を使い分けたか。
② 教室の奥で聞こえたという実験範囲を示したか。
③ 形の比率から実物の音の範囲を断定していないか。

実物との形の一致と、模型で試した働きの結果を分ける。

漢字から文章へ 第六冊

第十八回

典礼・思想・象徴

空の籠を持つ仙人は、何を待っている？
最後の頁に、まだ答えのない問いを置きます。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

芸	史	演	秀
身につけた表現の技	過去とその記録	演じる 広げて示す	抜きん出て優れる

亭	魅	刹	譜
小さな建物 店	心を引き付ける	寺 短い時間	順序立てた記録

いっしょに覚える漢字

昭	俳	聖	仙	冠	彩
坊	崇	碁	魔	籠	象

この回で読むお話

仙人が待つもの

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
芸	ゲイ	身につけた技／表現の技 芸術・芸能・工芸	亭	テイ	小さな建物／店 茶亭・料亭・亭主
史	シ	過去の出来事や、その記録 歴史・史料・史実	魅	ミ	人の心を引き付ける 魅力・魅了・魅惑
演	エン	広げて示す／演じる 演目・演技・講演	刹	サツ セツ	寺／きわめて短い時間 古刹・名刹・刹那
秀	シュウ ひいでる	抜きん出て優れる 秀作・優秀・秀麗	譜	フ	順序立てた記録／音符の記録 楽譜・系譜・年譜

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
昭	ショウ	明るい／明らか 昭和・昭然・昭代	坊	ボウ ボッ	僧の住まい／人への呼び名 僧坊・坊主・宿坊
俳	ハイ	おどけた芸／俳句 俳句・俳人・俳優	崇	スウ あがめる	尊いものとして敬う 崇拝・崇高・尊崇
聖	セイ	知徳が優れる／神聖 聖地・聖人・神聖	碁	ゴ	白黒の石で行う盤上の遊び 囲碁・碁盤・碁石
仙	セン	世俗を離れた不老の人 仙人・仙境・歌仙	魔	マ	人を惑わすもの／不思議な力 魔除け・悪魔・魔力
冠	カン かんむり	頭にかぶるもの／最高 冠位・王冠・冠する	籠	ロウ かご こもる	編んだ入れ物／中にこもる 灯籠・籠・籠城
彩	サイ いろどる	色を付け美しくする 彩色・色彩・光彩	象	ショウ ゾウ	形として現れるもの／大きな動物 象徴・現象・印象

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「史料」に合うものを選びなさい。
ア　今思いついた感想だけ　　イ　必ず正しい物語だけ
ウ　過去を調べる手がかりになる記録や物　　エ　音を出すための楽器だけ

(2)「象徴」に合うものを選びなさい。
ア　形あるものなどで、別の意味や考えを表す　　イ　大きな動物だけを描く
ウ　物の重さだけを量る　　エ　出来事を全て年代順に記す

(3)「古刹」に合うものを選びなさい。
ア　短い時間だけ　　イ　古い碁石
ウ　人が住む全ての家　　エ　歴史の古い寺

(4)「崇拝」に合うものを選びなさい。
ア　作品を必ず壊すこと　　イ　尊いものとして敬い、あがめること
ウ　色だけを塗り直すこと　　エ　昔の記録を全て疑うこと

(5)「年譜」に合うものを選びなさい。
ア　好きな色の一覧　　イ　曲の音の高さだけ
ウ　人物などの出来事を年代順に記したもの　　エ　囲碁の勝ち方だけ

(6)「魅力」に合うものを選びなさい。
ア　人の心を引き付けるよさや力　　イ　必ず魔法を使う力
ウ　王冠の重さ　　エ　記録の正確な年月だけ

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　年譜　演目　仙人　魅了　芸術　彩色　楽譜
茶亭　聖地　史実　王冠　古刹　秀作　俳句

文	解答	文	解答
(1) 絵や音楽などの□□を学ぶ授業だ。		(8) 音を記した□□を見る。	
(2) 記録を照らし合わせ□□を確かめる。		(9) 出来事を年の順に並べた□□を読む。	
(3) 舞台の□□を決める。		(10) 短い詩の□□を作る。	
(4) 優れた作品を□□と呼ぶ。		(11) 尊い場所を□□と呼ぶ。	
(5) 庭の□□で茶を飲む。		(12) 物語の□□が山に住む。	
(6) 美しい歌声が聴衆を□□した。		(13) 王が□□をかぶる。	
(7) 古い寺を□□という。		(14) 人形に□□を施す。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）この「史実」と「読み」に合うものを選びなさい。

古い絵には冠がなく、私は空の籠に待つ気持ちを感じた。

ア　感じたことが作者の意図と確定した。
イ　古い絵は今の感想で変更できる。
ウ　史実と感想は同じ記録だ。
エ　記録から分かる姿と、今の受け取り方を分けた。

（2）この「年譜」と「楽譜」に合うものを選びなさい。

祭りの出来事は年譜に、演奏する音は楽譜に残した。

ア　出来事の年代と、音楽の記録を分けた。
イ　どちらも同じ音だけを記す。
ウ　楽譜は年齢の一覧である。
エ　年譜なら誰の気持ちも分かる。

（3）この「崇拝」と「鑑賞」に合うものを選びなさい。

像を信仰の対象として崇拝する人と、芸術として鑑賞する人が訪れた。

ア　全員の信仰は必ず同じである。
イ　同じ像へ異なる関わり方をする人がいる。
ウ　鑑賞する人は必ず像を嫌っている。
エ　崇拝する人は色を見ることができない。

（4）この「象徴」に合うものを選びなさい。

子どもは空の籠を見て、誰かの帰りを待つ姿の象徴だと読んだ。

ア　作者の考えが必ず証明された。
イ　空の籠には意味が一つしかない。
ウ　形を手がかりに一つの意味を読み取った。
エ　籠の材質を測って確定した。

（5）「魅力」を使い、どこに心を引かれたかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

（6）「史料」を使い、何を調べるかを書きなさい。20〜40 字が目安です。

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 歌や踊りなどの**ゲイノウ**を学ぶ。	
(2) 町の**レキシ**を記録でたどる。	
(3) 楽器を使って曲を**エンソウ**する。	
(4) 優れた才能のある人を**シュウサイ**と呼ぶ。	
(5) 幕が上がった**セツナ**、客席が静まった。	
(6) 曲の音を記した**フメン**を開く。	
(7) 祭りの記録にある年号の**ショウワ**を読む。	
(8) 劇の役を演じる**ハイユウ**の話を聞く。	
(9) 物語で、尊くて侵すことのできない**シンセイ**な場所を描く。	
(10) 寺に泊まるための**シュクボウ**を資料で調べる。	
(11) 気高く尊い**スウコウ**な精神を物語で読む。	
(12) 囲碁の石を**ゴバン**に置く。	
(13) 物語で、不思議な**マホウ**を使う。	
(14) 明かりを入れた**トウロウ**を絵に描く。	
(15) 鳩を平和の**ショウチョウ**として描く。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 遊芸	(17) 史跡	(18) 出演	(19) 亭主	(20) 崇拝

この回を終えたら もう一度確かめる

自分の読みの手がかりは、作品のどこにありますか。
記録から分かることも残し、別の読みと話してみましょう。

七　文章の中で考えよう

仙人が待つもの

空の籠を両手に持った仙人が、こちらを見ていた。町の祭りへ、古刹から借りた像だ。冠をかぶり、袖には細かな彩色がある。芸術好きの友人は色を褒め、私は空の籠に魅力を感じた。案内札へ「収穫を祝う象徴」と書きかけたが、その根拠は見つからない。

寺の宿坊で史料を見せてもらうと、古い絵には冠がない。昭和二十五年の祭りの記録に、冠を加えたとあり、その後の写真には今と同じ姿が写る。友人は冠を外せば昔に戻ると言った。手伝いの人は、子どもの頃からこの冠を見てきた、と話した。

茶亭の奥では演目の相談をしている。俳句を読む人、楽譜を開く人、囲碁の道具を並べる人。像を聖なるものとして崇拝する人も、工芸の秀作として眺める人もいた。魔除けだと聞いた人の話もある。それを全員の信仰として札へ書くことはできない。

私は冠のない絵、加えた年の記述、その後の写真を年譜へ並べた。古い姿だけを示せば、町で像と過ごした時間も全部表せるのだろうか。冠の扱いを私たちだけで決めず、借りた姿のまま展示することにした。札の紙を置くと、机の碁石が一つ転がった。

小さな子が像を見上げた。「誰かの帰りを待っているんじゃない。」どうして、と聞くと、空の籠を両手で持ったままだから、と答える。私は最初の札を裏返した。その読みが作者の考えとは確定しなくても、像のどこを見て考えたかは分かる。

札は三つに分けた。記録で分かる冠の変化、人々が像と過ごした話、今ここで生まれた読み。最後に「仙人は何を待っているのでしょう」と置き、答えの欄は作らなかった。冠を加えた人にも、この問いを聞いてみたい。

夕方、灯籠を片づける私を、祖母が待っていた。早く帰りたいのだろうと思ったが、像の前を動かない。さっきの子も、もう一度籠を見に来ていた。祖母の目がどこへ向くかを見ながら、私は隣へ立った。

「どこを見ていたの？」

祖母はすぐには答えなかった。最初の札を書いた時と同じように、その沈黙まで私の言葉にしたくはない。返事を待つ間、書きかけだった札の白い裏が、鞄の口から少し見えていた。

人物・寺・像・祭り・年代記録は創作です。実在する信仰や像の由来、保存方法を断定するものではありません。

七　文章の中で考えよう 問い

記録で分かる変化と、像から生まれた読みを分けて答えなさい。

（1）本文から、出来事などを書き残したものを表す語を、漢字二字で抜き出しなさい。

（2）考えや判断のよりどころとなる事実や理由を表す「コンキョ」を、漢字二字で書きなさい。

（3）冠について記録から分かることを選びなさい。

ア　作者は誰かの帰りを待つ姿を作ったと確定した。
イ　古い絵に冠はなく、昭和二十五年に加えた記述がある。
ウ　最初から全員が魔除けとして崇拝していた。
エ　冠を外せば町の全ての歴史を表せる。

（4）子どもの読みの扱いに合うものを選びなさい。

ア　作者の唯一の意図と確定した。
イ　記録にないので聞くのをやめた。
ウ　空の籠を消してから案内した。
エ　空の籠を手がかりにした今の読みとして残した。

（5）案内札を三つに分けた理由を、
異なる情報の扱い方と結び、45〜55 字で書きなさい。

（6）子どもの考えを残す意味を、「根拠」「読み」を使って 70〜90 字で説明しなさい。
作者の意図との違いにも触れます。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十八回　典礼・思想・象徴

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ウ　過去を調べる資料。残っているだけで、全ての事情が分かるとは限らない。
（2）ア　具体的な姿などによって、考えや意味を表すこと。象という動物だけに限らない。
（3）エ　刹は寺に関わる意味がある。刹那という語の意味とは分けて読む。
（4）イ　尊いものとして敬うこと。誰もが同じ信仰を持つと決めない。
（5）ウ　年の順序で出来事を示す。楽譜は音楽の記録に関わる。
（6）ア　人を引き付ける力。人によって魅力を感じる点が違うこともある。

四　熟語を広げよう

（1）芸術　（2）史実　（3）演目　（4）秀作　（5）茶亭
（6）魅了　（7）古刹　（8）楽譜　（9）年譜　（10）俳句
（11）聖地　（12）仙人　（13）王冠　（14）彩色

（2）史実は歴史上の事実。史料は過去を調べる手がかり。（6）魅了は人の心を引き付けること。「象」は第二冊第十八回からの再会字。

五　似た語を使い分けよう

（1）エ　根拠のある過去と、今の読みを混ぜずに示す。
（2）ア　同じ譜を含む語でも、何を順序立てて残すかが異なる。
（3）イ　違う関わり方のどちらかを、全員へ一律に当てはめない。
（4）ウ　作品から生まれた読み。作者の意図や唯一の正解とは区別する。

五　自分で書く問題

（5）解答例

私は人形の笑う顔よりも空の籠に魅力を感じ、その理由を友人に話した。

☆自分で確かめる点　心を引かれた具体的な点を示したか。

（6）解答例

祭りの史料を年代順に並べ、像の冠がいつ加わったかを写真と比べた。

☆自分で確かめる点　記録や物を、過去を調べる手がかりにしているか。

六　短文で使ってみよう

（1）芸能　（2）歴史　（3）演奏　（4）秀才　（5）刹那
（6）譜面　（7）昭和　（8）俳優　（9）神聖　（10）宿坊
（11）崇高　（12）碁盤　（13）魔法　（14）灯籠　（15）象徴
（16）ゆうげい　（17）しせき　（18）しゅつえん　（19）ていしゅ　（20）すうはい

（5）は刹那、（6）は譜面、（8）は俳優、（11）は崇高、（12）は碁盤。（14）は灯籠。配当字の籠を使う。燈籠も可。（15）象徴は具体的な姿などで別の意味を表すこと。（16）は「ゆうげい」。

七　文章の中で考えよう

（1）記録　出来事などを書き残したもの。冠を加えた年の記述などと、今の読みを分ける。
（2）根拠　考えや判断のよりどころ。子どもは空の籠を持つ姿を手がかりにしている。
（3）イ　冠を加えた記述と、その前後の姿がある。
（4）エ　像のどこを見た読みかを示し、作者の意図とは分けて残した。

七　記述問題の考え方

（5）　札を三つに分けた理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

記録で確かめた冠の変化と、人々が像と過ごした話、今の読みを混ぜず、それぞれの違いが伝わるようにするため。

（5）別解例　50 字

記録で分かる過去と人々の体験、今の解釈を区別し、感じたことを史実や作者の意図にしないよう伝えるため。

☆（5）自分で確かめる点

① 記録・人々の話・今の読みを区別したか。
② 感想を史実や作者の意図と確定していないか。
③ 異なる関わり方を一つへ押し込めていないか。

違う情報を並べる時も、それぞれが何を示すかは分けておく。

（6）　子どもの考えを残す意味 70〜90 字

（6）解答例　86 字

子どもの読みは、空の籠を持つ姿を根拠に、帰りを待つと考えたものです。作者の意図とは確定せず、手がかりのある今の考えとして残すと、他の人も像を見直して話すきっかけになります。

（6）別解例　88 字

空の籠を持つ姿という根拠があるので、子どもの読みを今の解釈として残します。作者も同じことを考えたとは決めず、冠の記録などと分けて置くことで、他の人も自分の見方を考えて話せます。

☆（6）自分で確かめる点

①「根拠」「読み」を使ったか。
② 空の籠を持つ姿という手がかりを示したか。
③ 作者の意図とは区別し、他の読みへ開いたか。

何でも正しいとするのでなく、作品のどこを見たかを伝えて考え合う。